South Manchuria Railway Co., Ltd.
南滿洲鐵道株式會社東亞經濟調查局
TOKIO
EAST ASIATIC COMMERCIAL INTELLIGENCE INSTITUTE

M 1
5

Q植 部門
103 書柵
番號

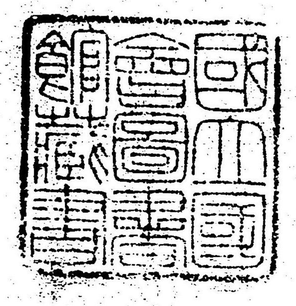
라E-56

法學士 山内正瞭著

殖民論 全

東京 金刺芳流堂發兌

334.7
Y421x



113720

序

天地は萬物の逆旅光陰は百代の過客、とは詩人が人生の離合集散常なきを詠じたるに非ずや。宇宙は移動の大パノラマなり、とは西人が自然の變易轉替寸時も休まざるを喝破せるに非ずや。看よ。吾人が仰瞻して常住不動と思惟する星辰も、其實電光石火の速力を以て絶へず天體を運行しつゝあるに非ずや。又吾人の形骸を看ずや、一見終始不變の觀ありと雖、焉ぞ知らむ、其細胞は時々刻々分裂し新陳代謝須臾も歇まず、新陳代謝も觀じ來れば則ち一生一死に他ならず。然らば一日の中、一頃の間、吾人の生死夫れ幾回ぞ。生即ち死、死即ち生、生死流轉して息まざる是れ宇宙の大涅槃に非ずや。又彼の潮流を看ずや、赤道直下の暖潮と北極圈内の冷潮と相逆流し、寒暄是に於てか中和し萬物初めて棲息す。之を要するに變易は即ち自然にして移轉は進歩の要件なり。

謂ふに人類の土地に於ける其關係復た如斯きものあり。舊國は土地狹隘人民充足す、靠むる所徒に大にして得る所反て小。看ずや、亞非利加の內地、亞細亞の中原、濠地剌亞の東西、人跡未だ稀に斧鉞嘗て入らざる所謂ウアージン、ソイル(處女地)

の連亙横溢するを。然り而して之を繁に割きて之を疎に植へ、集約農法の施すべからざる地を捨てゝ荒蕪の地を耕転し、以て一新生面を開拓するは、正に經濟の要道と稱すべく、國家の豐富を計り天地の造化を助くる所以の法たり。人生埋骨の青山は到る處に在り(Omne solum forti patria)、大國民は須らく世界を以て終焉の地となすの覺悟なからざるべからず。

方今經濟問題として世に喧しきもの曰く經濟上鎖國主義、曰く帝國主義、曰く國粹主義、曰く保護關稅主義、曰く偏愛主義、曰く腕力主義(Argumentum bacalinum)、其名相同じからず其趣意亦た小異を免れずと雖、歸する所國力發展自立自存の主義に外ならず。而して國力發展自立自存の道必ずや殖民政策に歸着せざるを得ず。歐米列强が虎視眈々寸地尺土の瑣と雖、他に輸せざらんことを旂れ勗むる所由ありと云ふべし。

顧て吾人の祖先を稽ふるに、船を以て家とし馬を以て坐となし、雄心落々威武四隣に振へり。神后豐公の偉業をはじめ、呂宋に於ける高山右近、暹羅に於ける山田長政、孰れか我祖國の爲め萬丈の氣燄を吐かざるものかある。彼の支那海に出沒せる八幡船の如き萬里の波濤を犯してアカプルスに航せる御朱印船の如き孰れか我海國男兒の眞面目を發揮せざるものかある。然るに惜い哉德川幕府の退嬰策は徒らに國民の覇氣を壓服し猫額大の小天地に跼蹐して惰眠醒めざるもの三百年の久しきに亙れり。今や皇國千歲一遇の盛時に際會し、國運の隆盛曩古比なし。幸に戰捷の效果を收むるの曉には、戰後經營の第一策として國家經濟獨立の基礎を固め列强と比肩するの資格を作らざるべからざるや論なし。是に於て乎殖民理論攻究の必要大に起る。而かも我邦未だ此種の書冊に乏しきは吾人の深く遺憾とする所、乃ち剪劣を顧みず敢て殖民論の一篇を草し江湖の一粲に供せんとする所以なり。たゞ憾ひらくは、淺學菲才、加ふるに紙數限あり、江湖の知遇に孤負する所大なることを。讀者幸に諒焉。

征露第二年六月

於駒込　著者識

殖民論目次

緒論

第一章　最近の殖民に對する思想の變遷……一

本論

第二章　殖民の意義……二八

第三章　殖民の種類……三七

第四章　殖民の動機……四六

第一節　人口の移動……四八

第二節　布教事業……五四

第三節　冒險事業……六三

第四節　商業幷に交通（其一）……七〇

第五節 商業幷に交通(其二)……一〇一
第六節 資本的膨脹……一〇八
第五章 殖民の條件……一一九
第一節 文明の程度……一二〇
第二節 需要の狀態……一二一
第三節 風土氣候の適否……一二一
第四節 地理上の便否……一二二
第五節 移殖地方の政治狀態……一二三
第六章 殖民の利益……一二四
第一節 政治上の利益……一二四
第二節 經濟上の利益……一二六
第三節 社會上の利益……一二八

第四節 學術上の利益……一二九
第五節 精神上の利益……一二九
第七章 殖民の故障……一二九
第一節 財政上の故障……一三一
第二節 人民移住の故障……一三三
第三節 移住民の敗德行爲……一三五
第四節 風土氣候の故障……一三五
第五節 本國分離の故障……一三六
第八章 人種の盛衰……一三八
第一節 人種の分類……一三八
第二節 人類の原始……一四〇
第三節 人類の發生地……一四二
第四節 歐洲人の他人種……一四三

第九章　殖民の方法……一四七
第一節　個人的殖民方法……一四八
第二節　國家的殖民方法……一六七
第十章　殖民地に於ける直接行政……二一一
第十一章　殖民地に於ける自治行政……二六九
第十二章　殖民地統治の機關……二八〇
第十三章　殖民地に於ける制度……二九四
第十四章　殖民地に對する立法……三一〇
第十五章　殖民地に於ける法律……三三三
第十六章　殖民地裁判所の組織……三四六
第十七章　殖民地の聯合……三五九
第十八章　結論……三七九

殖民論

法學士　山内正瞭著

第一編　緒論

第一章　最近の殖民に對する思想の變遷

二十世紀に於ける經濟社會況般の現象は實に吾人をして資本上に於ける弱肉強食の反影なるかを疑はしむ國家經濟の關係如何と國際經濟の關係如何とに論なく資本政略の趨勢は各種產業の保護に重きを置かしむると同時に排他主義の貿易政策を實行せしむるの大傾向を生ぜしめぬ

看よ方今世界の列強として目さるゝ邦國が政治上將た經濟上の施設經營に於て如何なる政策を秉り且つ之を實行せんとしつゝあるかを十九世紀末葉の新主義として現顯し來りし帝國主義の發動は今や殆ど世界を風靡せむとする

の概あり自國權勢の扶殖は唯一至上の政略なりと信ぜらるゝに到りぬ獨乙が南米アルゼンチンに支那に亞細亞土耳古及び馬爾韓半島に英國が南亞弗利加ナキル流域及び楊子江流域其他印度波斯の通商に魯國が滿洲蒙古伊犁の境上より波斯及び土耳古に佛國が亞弗利加亞細亞の南方に殖民的勢力を扶殖するが如き、由來モンロー主義の陰に潛み世界の人士をして桃源夢裡に惰眠を貪るものなるかを疑はしめたる米國の如きすら輓近帝國主義を標榜し俄然其態度を一變して布哇を呑み菲律賓群島を併せ所謂資本政略に依りて商海の覇者たらむとはなせり斯れ豈に時勢の狂熱とのみ目すべけむや

帝國主義の實行則ち之を換言すれば領土擴張主義の實行は人口の增加と資本の充實とに胚胎するものにして人口增加の結果自國經濟の不調和を救濟するの手段としては茲に排泄の必要あり新市場を得ざるべからず多くの土地を併有せざるべからず新財源地を開拓せざるべからず亦た商工業の利益を保護する爲に門戸閉鎖の實行をなさゞるべからず亦た或は國權の伸張上戰爭をも敢てせざるべからず之を要するに人口の增加は殖民上に於ける重なる動機の一

にして國民勢力の發展は實に人口の增殖に俟つ所多し而して又た資本の充實が帝國主義の實行に如何なる活動を與ふるやを見るに之を人口增殖問題に比し一層著しき效驗の存するあるを知らざるべからず曰く歐洲各國に於ては遺利既に寡く爲に資本を放下するの餘地非常に制限せられ而かも今日の有樣は殆ど其極端に達せりと云ふも不可なし彼の金利の非常に低下せるは斯事實を證明せるものにして歐洲多數の國民は資本を放下する爲に利益多き新開地を得むと欲し又た而かも其安全にして且つ便利なる放資國を得むとするの結果は政府をして帝國主義の實行に寸隙を保たしめざるに至り茲に資本が殖民上の一大動機として活勢力を發揮しつゝあるは過去二十年來歐米列强の實相なりとす

領土の擴張と市場の得占とは人口の增加と資本の充實とを俟つて後初めて其效果を奏するものなりと雖も如何なる場合を論ぜず絶對に其原因を此二者のみに限定すべからざるものあり例へば或る一國は人口增殖の目的を以て土地の擴張を企て或る一國は資本の新放下地を求むるの目的を以て領土の擴張を

圖り或る一國は政略上の目的を以て勢力範圍の膨脹に努め亦た或る一國は軍事上の目的を以て土地の占領を行ひ又は或る一國は世界大勢に伴ひ餘義なく帝國主義の仲間入りをなさゞるべからざるもあらん茲に於て乎近世經濟學者の多數は帝國主義の思潮に浸染するの餘り之に對する根本の解釋及びそが弊害の如何を考察するの暇あらずして一種不可思議なる共產主義(Communism)を唱道し或は國家社會主義(State Socialism)又は工業共和主義(Industrial Democracy)の實行を主唱し亦た或る學者は講壇社會主義(Socialism of the Chair)若くば博愛的經濟主義(Economic Orthodoxy)等を主張して各學壇に旗幟を樹立し甲論乙駁自家學派の勢力を競ふが如き觀ありと雖も其期する所は畢竟自國の强盛を計るに外かならずして則ち之を概言すれば啻だ帝國主義の鼓吹に存するのみ其主張の大部分は寔に以て偏狹に失するの嫌なきにあらざるも時代思潮を代表するの點に於ては略ぼ其揆を一にするものあるが如し

帝國主義の發動を誘致したりし一大原動力とも目すべきものは經濟上に於ける分配問題にして人口の增加と資本の充實とは人類の幸福を增進する上に於

て必らずしも常に平行方形を形成するものにはあらず富を基礎として經濟學を研究したりし英國學派は富の生產に重きを置き富の生產の增加するを以て人類の幸福を增進するものとなせしも之に反して近世の獨乙學派は經濟學を狹義に解釋し一國の歷史を基礎として之が研究を進むるものなるが故に隨て一國に實行し得べき理論は必らずしも他國に於て行はれ得べしとせず亦た今日道理なりとするの學論も百年の後尙は且つ然りとなし得べきにあらず故に宜敷先づ現時の狀態を觀察し之に處するの方法を講ずるを以て滿足せざるべからず則ち經濟學は世界的性質を有するものにあらずして國家的性質を有するものなりとして歷史及び統計の事實に徵考し吾人々類の幸福を增進せむとするには先づ方今の資本制度を査察して其生產の方面よりは寧ろ分配の方面に向つて重き研究をなさざるべからず經濟上の分配が其宜敷を得ると得ざるとの結果は人類の幸福に至大の關係を及ぼすものなれば國家は常に此點に留意し貧者の負擔を輕減するとに努め彼の所謂自由放任主義を制限して富者の强暴を抑止せざるべからずとなし而かも又た人の增加を鹽梅調和し資本に對

する多大の利益を享受せしめむには自國以外に新開地新市場を擴張し以て多數國民の幸福を增進せしむべきなら吾人は多數の識者と共に斯く信ぜり曰く最近殖民的企業心の勃興は人口の增加と資本の充實とに對する時代思想の推移にして國家を基礎とせる經濟學の發達にそが因子を生ぜしものなることを」溫健なる經濟學者の議論が帝國主義の發動を誘致すると共に一時殆ど閑却されたらむが如くなりし殖民的企業は今や再び世界視線の燒點たるに至り實に現下の狀勢は亞米利加發見後に於ける重商主義則ち國勢擴張主義(Mercantile system)旺盛の時代を再現せしめしの觀ありて世人は專ら往時の發見を利用するに汲々たるの有樣なり

實に然り近世經濟學の發動は歐洲に於ける多數の政治家並に論客の殖民地問題に對する態度を一變せしむるに至り過去五十年は愚か僅々二十年以前に於てすら歐洲列國は內部の紛糾並に民政の爲めに其政治的精力を消盡するの餘り視線を舊世界の外に放つ者は殆ど絕無と謂ふの有樣にして海外に廣大の領土を有する國すら啻に之を等閑に附せしのみならず寧ろ之を以て厄介視す

るの傾向ありき況んや殖民地を俟つて本國の富强を圖らむとするが如きは夢想だも之を所期せざりしなり彼のジョンラッセル(John Russel)卿の如き一千八百五十年八月八日英國下院に於ける殖民地に關する大演說に於て各大殖民地の自然獨立を豫期し又た後年グラッドストン氏內閣の殖民大臣スタンレー卿の如きは揚言して謂へらく北米並に濠太利は近き未來に於て獨立の邦國たらざるべからず而して唯だ吾人の希ふ所は其自强安寧の外殖民地に向つて何等求むる所あるなしと(一千八百六十四年十月十九日演說)次で一千八百六十五年西部亞弗利加に關する委員會は同地方に於ける支配權を擴張するは元より既得の保護權を保持するものなるも亦た斯れ決して策の宜敷を得たるものにあらずとふ意味の決議を通過したり

然るに現時の狀況は如何歐洲各國に於ける代表的人物は凡て悉く前者と其所信を異にし寧ろ却て他の極端に走り殖民地を認めて政治上將た經濟上重要なる關係を有するものなりとし而かも從來の如く殖民地の獨立を以て自然にして且つ當然なりとなすの觀念は殆ど其跡を絕つに至れりチャンバレーン氏

John Russel

Paul Reinsch: Colonial Government Ch. I, Introduction I. pp. 1—3.

also

が一千八百九十六年帝國商業會議所に於てなせる有名なる演說は惟ふに殖民地と母國との關係に關する現下の思潮を巧みに表明したるものと云ふべし其言に曰く若し夫れ吾人の視る所にして誤なからしめば我が幾多の殖民地は全然吾人と其所念を共にせるものにして決して分離獨立せんとするものにあらず然り彼等は大なる共同の歷史を有するにあらずや名譽ある自由の沿革は如何國步艱難の場合に於ける父祖の大節は如何干戈の成功によりて赫々たらしめたる不列顚の名聲は如何彼等豈に之を棄つること弊履の如くなるを得むや故に余輩は斯く信せり我が殖民地は悉く母子兩國間に存する共通の關係を維持する上に於て互に相扶け其尊き共同の遺產を棄てざるべしと

惟ふにラッサル卿並にスタンレー卿は當代に於ける多くの他の代表的人物と異なり全然殖民地を排斥する思想を有せる者にはあらず而かも上記の言議を敢てするに至りし所以のものは蓋し單に殖民地問題に對する當時の輿論を反射したるに過ぎざるのみ識らずや當時の英國は最も極端なる自由主義の國にして社會公人の視線は一に內政に集中し政府の干涉に對する自由の保障は實

Ibid

に當時爲政の第一要義たりしなり彼の自由貿易主義政費節減の要求を始め列國との關係は宜敷平和主義に依り國際上の爭議は須らく之を樽俎の間に決すべしと云ひ衡平維持の前提並に保障として普通撰擧法を施行し寺院の特權廢止を唱へたるが如き約言すれば人道卽ち(Humanity)を以て國家の上位に置き政府は單に行政の機關に過ぎざるものとなし其行動の範圍は只だ個人を保護し法規及び秩序を維持するの外に出づることを許さずとなすが如き議論を以て唯だ一に自由主義の尊重すべきことのみを主張せし時なりき

彼十九世紀後半以降は上下一般に殖民地を等閑視し或は之を厄介視するの風を生ぜし所以のものは畢竟するに人道主義の政治論に惑溺したるの結果にして彼の北米合衆國の獨立は殖民地の所詮獨立すべきものたるを例示し政治學上の理論も亦た一齊に地方自治を謳歌せり殊に公法學者の多數は最も自由主義を尊奉し本國の將に採るべき唯一の合理的政策は其屬領地の獨立自治を助成するを以て旨となし漸々干涉を絕ちて自治の利益を完ふせしめ其屬領地が獨立したる後ちに至るも永く母國の高誼を感銘し友邦の情誼を厚ふせしむる

Ibid

に在りと云ひ凡そ當時の評論にして殖民地帝國の建設を非認しそが分立を阻止する者は却つて輿論の反對を受けしなり今リチヤード、コブデン氏の所說を借りて之を引用せむに氏は印度暴動に關し其所見を述べて曰く

吾人が一億の亞細亞人を統御せむとするは正に斯れ不可能のことにして余輩が年來の所論とする神及び其權限たる自然法は斯る計畫の成功に對し踰越すべからざるの牆壁を設けたり此牆壁を越へむとすることの頗る危險にして又た如何に多大の犧牲を要すべきかは識者を俟たずして瞭乎たり若し假りに非常の冒險と犧牲とを以て斯る計畫の一度實行せらるゝことありとせむ乎吾人は之に依りて果して如何の利益をか受くべき夫れ東印度會社の亞細亞に勃興せる意思は獨占の利益を獲得せむとするに在り而かも其獨占は啻に外國人に對するの獨占を以て甘んずるにあらず更に自國人に對しても亦た獨占の利益を擅にせむとす果して然らば印度に於ける商業の世界各國に向つて均しく開放されたる今日に於ては吾人は最早同國を統治するの煩勞犧牲及び冒險に對し之を償ふに足るべき何等の獨占的利益をも享受す

ること能はざるにあらずや

由是觀之自由主義者の殖民地を排斥する實際上の重なる理由は一目瞭然たり今日は最早殖民地に於ける商業獨占の特權を持續し得べきものにあらざるを以て之に向つて政費を投ずるが如きは經濟施設の最も拙劣なるものにして單に啻だ殖民地を領有するの虛榮は毫末の利益をだに惹くにあらずして却つて本國を自殺せしむるものなりと云ふに在り亦たジョンブライト氏は加奈他に關する演說に於て其早晩獨立分離すべきを豫期し冷然として所思を述べて曰く吾人が加奈他住民に向つて希望する所のものは其自から最も利益なりと信ずる所に從つて行動せむことに在り其止つて未來永久に母國と運命を共にすると將た斷然獨立分離して一國をなすとは唯だ彼等が自由の判斷に委せむのみと而して氏は亦た特に重きを殖民地財政上の點に置き嘗て北米諸州に關する意見を述べて曰く若し彼等にして旦に鐵道の利益補給を請ひ夕に國防費の補助を求むること今日の如くならしめば寧ろ斷然彼等をして獨立自治の民たらしめ以て自から其將來を經營し吾人に依る所なからしむるに若かず斯れ吾

人の爲には最も經濟的にして亦た彼等の爲にも安健の策なればなりと蓋し當時に於ける自由黨知名の政治家並に評論家の殖民地に對する一般の見解は實にブラキト氏等と同一の態度を把持せしなり彼のグラッドストン氏がアキロニアン群島事件に對する處置スーダンの拋棄及びトランスヴワールより手を引けるが如きは好箇の適例にして皆な同一の觀念に出でしものなるは之を立證するに難からず豈に啻に自由派のみならむや保守黨の側に於ても亦た殖民地に重きを置かむとする者なく現に帝國主義者の開山とも謂つべき彼れデスレーリ氏に於てすら大に時代思想の影響を受け殖民地に對する充分の考慮を費すに暇あらずして諸殖民地は數年を出でずして悉く分離獨立するに至るならむ云々と謂へり

佛に於てもセー氏よりバッシー氏及びギーヨー氏に至る佛國近世の經濟學者並に自由派の人士亦た均しく殖民地の領有を以て重要事項の一なりと認めずして常に殖民企業を蔑視せり然るにプレヴオ、パラドールが初めて人種盛衰の將來は懸つて其殖民的活動の上に在りと主唱し並に一千八百七十三年ボーリユ

Ibid

ー氏の殖民に關する懸賞論文が極端なる膨脹熱に浮かされたる佛國民心を刺撃してより茲に漸く活動の氣運に向はしむるに至れり

茲に最も記憶すべきは一千三百七十年以降獨逸並に伊太利に於ける政治的統一の成功に依りて全歐洲形勢の頓に一變せしことなり舊來の自由主義は漸次其影を隱すに至り國家主義之に代りて次第に其勢力を逞ふし歐洲各國民は內部の團結今や漸く固く外部に向つて昌んに勢力の發展を爭はむとすることゝなり且つ在來の國土は最早蕃殖歇まざる將來の人口を永く支ふるに足らざるを以て其何れにか新領土を獲得せざるべからざるの必要を感ずと雖も歐洲列國の間には所謂國力均勢なるものありて寸地尺土も漫りに相侵すことを許さざるを如何せむ茲に於て乎比較的容易に取得することを得べき劣等國の領土に着目し機を見て之を掠奪せむことを圖り而かも一方に於ては英國の廣大なる殖民地を傍觀して羨望に堪へざる餘り遲蒔ながら俄かに亞弗利加を占領して英國の例に做ひ亦た海上權を制握して世界商業の主人公たらむことを期して全力を傾注するには至りぬ換言すれば帝國主

Ibid

義の旗幟の下に國民勢力の發展を所期せむとする驚天動地の大飛躍を開始せられしなり氣運洵に斯の如し英國豈に之を座視傍觀するの愚をなさむや然らば則ち之に對する英國の態度果して如何過去六十年以降英國の採り來りし自由貿易政策は自國の隆昌を所期する上に於て然かせざるべからざる事情の存ぜしと共に又過去には現時の如く列國競爭の激甚ならざりしのみならず世界の航權及び商權は殆ど英國の掌裡に在りしと雖も方今は則ち然らず彼の米獨兩國の如きは種々の施設經營の下に於て英國の產業と競爭せんとするのみならず而かも英國が殆ど獨占的に占有せし所の貿易利圈內に突進し來れり英國が斯等新進の邦國と經濟上の競爭をなさむには貿易政策上果して如何の運籌をなすべき乎若し夫れ從來の如き自由貿易政策に據る乎將た亦た機宜に適する政策を採用すべき乎は蓋し英國民の大に考慮する所のものなるが如し就中米國の如きはあらゆる事業の保護に全力を注ぎ孜々として自國の生產品を四海に送り優に英國の利圈を蹂躙し同時に獨逸の工業品と競爭して大に商權の伸張を圖り近き將來には必然英國に代りて海上の覇者たらむとするの慨

あり過去僅少の年月に於て米國の生產力は如何に增加し又たそが資本は如何の勢を以て增殖せし乎其進步の著しきは世人の一般に認知する所なり斯の如く富の增殖著しきにも拘らず政府及び國民は殆ど步調を一として內は產業の隆起を圖り外は海權の擴張を期し而かも今日最も有望として列國の垂涎營ならざる支那四百餘州に向つて盛に其勢力を扶殖するのみならず大西洋航路に向つても亦た非常の飛躍を試み着々豫期の目的を達しつゝあるなりモルガン氏の發企せる汽船合同が如何に列國々民を喫驚せしめ從來海王を以て自任せる英人の肺腑を衝きたりし乎吾人は英國四圍の事情より之を察するも必ずや其對抗運動に出づべきを確信せんと欲す若し夫れ英國にして孤獨の境遇に立ち此間に於て何等の關係を保たざるものなりとせば敢て此問題を呶々するの要なきに似たりと雖も英國は彼の印度と云ひ濠洲其他の屬領地より得る所の利益は之を擧げて以て他の列強に放委するが如き愚を演ぜざるべし而かも尙は且つ英國は亞細亞貿易の味を嘗め盡せるの邦なり然れば今日の場合亞細亞貿易を離れて自國の發展を期するの至難なるを自覺すべく則ち斯等新進

國に對する對抗運動を起し從來得來りし利益を守らむとするは知者を俟つて後ち知るべきの疑問にあらず看よ英國最近の輿論は現下の國狀を以て決して極端なる自由主義を採用するの秋にあらずとなし政府をして漸次舊時の保護政策を採用せしむるの傾向あることを然り英國現時の形勢は富力に於て四海を凌駕するの盛觀あるも四圍に於ける列國の進歩は英國をして到底自由貿易主義に依りて殖民地を保護する能はざるの事情に陷らしめたると同時に英國の政治家及び學者が近時經濟各般の政策問題を攻究し以て產業上の保護奬勵を唱へ輓近漸く其面目を一新せしめたりしが如きは確かに舊時の保護時代に接近し來りしものにあらずして何ぞや而して英國の輿論は各殖民地を合同統一して大々的英帝國を建設せんとするにあり排他的關稅を實行して母國と殖民地との貿易を疏通せしむる上に於て關稅同盟を施行するに在り英國自由黨員中或る政客の如きは英國は過去六十年以來自由貿易主義を以て國是となせり故に今若し關稅同盟を實施するに於ては豪洲聯邦の如き或は加奈太の如き今や將に發達しつゝある商工事業は母國商工貨物の爲に其進歩を防害され却

て聯邦國民の發達を阻害するの惧ありと云ふと雖も苟くも世界の趨勢に鑑むる所あり大々的英國を建設せむとする目的を以て關稅同盟を實施せむとする由は時世に適應する畫策と謂つべきなり吾人の見解を以て之を觀るに由來英國は世界に對する製造工業地なるが故に彼の所謂海外より仰ぐ處の食料品問題に關し勞働者の動搖を來すが如き憂ありと謂はんかなれども現今殖民地農業の進歩は亦た昔日の比にあらず而かも今後數年を經過したらんには外國の食料を仰ぐことなくして其需要を滿足するに至るべきは勿論殖民關稅同盟の結果は獨り母國の利益を增進するに止まらずして殖民地も亦た安價に母國の商工品を仰ぐことを得べし吾人は信ず關稅同盟の實施は彼の自由黨の唱ふるが如く殖民地に於ける製造業が母國商工品の壓迫を受けて衰滅に終るべしとの議論に何等の關係を有するなく亦た斯等の所論は一片の杞憂に過ぎざるべし

英國が舊時の保護政策を採用し將た亦た關係同盟の實施を企畫せんとするは世界大勢の然らしむる所にして彼の差別的關稅法の實施をなし殖民地物產の

輸入を奬勵して外國產品の輸入を抑制せんとする手段を採りしが如きは一面南阿戰後の財政整理の爲めなりとは云へ畢竟自由貿易制度の根幹に刀斧を加へたるものにして又彼の沿海貿易制度の實施は米獨二國の政策に對する復讐手段と云ふべく本國と各殖民地間若くは殖民地相互間に外國船舶の貨物運搬を禁じ或は外國船舶にして其國政府より保護金を受くるものは英國の諸港若くば殖民地の諸港に入港するに當り之と同額の稅金を徵收せらるゝものとして以て外國船舶の侵入を妨止するに努め亦た母國と殖民地との連鎖を牢からしむるの手段として補助航路の設定を畫し例へば英國と加奈太間加奈太と濠洲間加奈太と印度間支那と印度間及び濠洲と英國間の幹線を補助し沿海貿易制度の施行と相ひ俟つて航業の獨立を所期し着々其目的を達せんとしつゝあるは卽ち英國現下の狀況なり

帝國主義は實に最近の思潮にして彼の獨逸帝國は比年增殖する所の人口を排泄するの手段として海外に領土を求めむことを策し從來の農業立國策に代ふるに商工立國策を以てし經濟萬般の設備を獨立せしめて盛んに英國の商工業に當らんとす獨逸の商工業が航海業の奬勵と相俟て如何に勢力を他國に扶殖したりし乎英國を察すれば之に對する策を講ずるは洵に當然のことにして決して怪むに足らざるなり而かも英國は米獨兩國に對する施設經營のみを以て滿足すべきにあらず彼の魯國の如きは中央亞細亞問題の爲に常に英國と確執せるの國たり波斯及び亞弗俄尼斯丹の地は兩國の均勢を維持する楔子とも謂つべく若し一旦鬱隙の乘ずべきあらば忽ち修羅の巷と化了し去らんこと少しく事情に通ずる者の常に唱ふる所にして英國は印度の保安上對露政略を實行する爲に常に巨額の財本を中央亞細亞に散布せり陸上の自衞として英國の對魯政策は常に吾人の知らむと欲する所なり

亞弗利加に於て亞米利加に於て及び亞細亞に於て歐米列國が殖民政策上採る所の政略は其手段に於て多少の相違こそあれ其目的とする所は一に啻だ帝國主義の實行に外ならず而かも其最も利益多き方面を求めて其爪牙を逞くせんとする心情は隣邦支那國に於ける列國の行動に徵して明白なり獨り英魯兩國のみが利權の扶殖を專念しつゝあるにあらずして苟くも方今列強と指示せら

るゝの邦國は悉く皆外交上の手腕を奮て政治上將た經濟上の施設經營に汲々たり支那は實に方今列國環視の焼點にして專ら茲に利權の爭そはるゝ所以は其が放資上の利便世界に冠絶するを以てなり吾人は斯く思惟せり曰く極東貿易の隆否則ち之を換言すれば支那印度貿易の盛衰如何は實に古來歐洲の治亂を支配せり而して今日世人は如何に極東問題を解釋しつゝある乎經濟上廣義の意味よりすると狹義の意味よりするとに隨て立論上政治と經濟との二者を分劃するの必要あり廣義の意味に於て極東問題を解せんとする時は斯れ純乎たる政治問題たるべしと雖も狹義の意味より之を決せんには則ち專ら經濟問題として觀測せざるべからず而して茲に主として云はんと欲する所のものは經濟利權の伸張に關する歐米列國の行動如何に在りとす東亞細亞支那四百餘州の大宏土は歐米百貨の一大需要地たり斯大宏域を保ち而かも四億の人衆を有する支那帝國は將來如何の經濟的關係に依つて支配さるゝに至らん乎歐米列強の餘裕資本は此地に放下さるべく百般の日常貨物は斯民を俟つて消費せらるべし第十八世紀以降歐洲列國は曙一層の熱心と深謀とを以て支那問題を

研究し朝三暮四支那政府を飜弄して種々の故障を提撕し虎視眈々寸地尺土の利をも逸せざらんと努むるもの斯れ自國々勢を發展せむとの野心に外ならず彼の一時自由主義の旺盛を極めたりし當時は海外の經營を以て寧ろ却つて自國の不利なりとなし殖民的觀念を冷却せしめたりと雖も方今の狀態は則ち然らず人口の增加と資本の充實は茲に再び往時のマーカンチルシステム國勢擴張主義を再現せしむるに至り而かも尙ほ一層の狂熱を以て勢力範圍を擴張せむとせり而して其之を伸張するは常に武的威力に依るが故に或る經濟學者は之を稱して武裝的經濟政策と云へり

吾人は極東に於ける歐米列國の競爭を觀じて斯く思惟せり曰く舊國に於ける商工業の發達及び資本の充實は東亞細亞を以て百貨の大得意となすと同時に恰當なる資本放下國たらしめたりと看よ極東に於ける列國今日の行動は銳意海權の作振を圖ると共に陸權の伸張に向つても有りとあらゆる手段方略を巡らし先づ港灣の占領鑛山の採堀權鐵道の敷設權等を得て以て地盤を築き次ぎに自國民が事業經營の機關として英は香港上海銀行獨は獨乙亞細亞銀行魯は

魯清銀行を設立し堂々歩武を進めつゝあり然るを唇齒輔車の關係ある我國民たるもの豈決然奮起し惰眠を覺醒せずして可ならんや

羅馬の教智を襲ふて歐洲諸國を征服せんとせしナポレオンの雄略も所謂大陸政策の爲に防壓せられて伸ぶ能はず爲に却て佛國は廣大なる殖民地を犧牲に供するの止むべからざるを看たり其後フエイデル將軍其他の創始的且つ企業的人物ありて領土の擴張を北西亞弗利加に試みたりしと雖も未だ社會の注意を喚起する迄に至らず殖民事業が其漸く社會の視線上に現はれ來りしは孛佛戰爭後にして國民は海外の新天地に於て失ひたる名聲利權の回復を計るの必要を感ずるに至れるの後に在り當時ビスマルクの卓見を以てすら殖民事業は徒らに國帑の消耗なりと思惟し佛國の行爲を傍觀して私に其復讐の期なからんことを慶賀したり其觀察の一半は中れり佛國の領地は亞弗利加の北部及び印度に於て大に擴張せられたりと雖も失費多大にして容易に之を償ひ得る能はざる窮境に陷りぬ然れども佛國人は其宏大なる殖民地を以て戰敗に對する名譽の綬章として又た國力の失墜に對する痛苦の慰籍として又た特に經濟的

勢力並に國民的地位を回復すべき最後の機會として飽く迄之を保留するに努めたり

獨乙に就きて之を見るに其殖民思想を喚起したるは僅に輓近の事實に屬す蓋し彼のビスマルクは孛佛戰爭後獨逸の政治的統一を完成し內部の結合を鞏固ならしむるを以て畢生の事業となし亦た他を顧るに暇あらず現に渠れビスマルクが其覺書に於て獨逸は今や其國民的存在と實力とを完ふし得たるを以て最早平和の現狀を維持するの外か亦た何等の望む所なしと聲言し彼の殖民事業に對しても政府として之が經營に從ふことを避けたり斯れ蓋し殖民事業は之を政府の經營に俟つよりも私營商工業の擴張に委して多くの効果を收め得べきを信じたるによれり然るに其晚年に至るや彼も亦た亞弗利加に於ける獨逸商人を保護するの必要より遂に政治的干涉を敢てするの止を得ざるに至れり則ち千八百九十年の境界協定に依りて亞弗利加に於ける獨乙の支配權を確立したり之を紀元として獨乙帝國は豪邁氣銳の現帝の下に於て遂に又殖民的競爭の奔渦中に投ずることゝなれり

露西亞に於ては膨脹てふことは決して新なる現象にあらず併しながら舊來の膨脹たるや人口自然の增殖に依りて隣境の荒地を開拓したるに過ぎず然るに最近數十年間に於ては漸く其性質を一變し中央亞細亞に於ける突進並に滿洲の占領と同時に局面頓に活氣を現はし來れり素より西伯利亞の經營は尙ほ舊に因つて自然と戰ひ之に勝たんとするものに過ぎざれども更に進んで南下せむとするに至ては其敵とする所最早自然にあらずして人類なり人類其物を征服し純然たる政治的手段を以て亞細亞帝國を建設せむとするなり其彼斯及び支那に於て常に着々成功しつゝありし狡猾極まる權謀術策は實に他日の大々的殖民經營の前驅にして他の列國をして乘ずるの機會なからしめむとするものに外ならず

從來永き歷史の資に於て鑄造されたる民族的國家は今や宛然たる金米糖中の雙栗の實の如く漸次に膨脹し來りて其商業並に殖民的經營を以て遂に地球を圍繞せむとせり斯の變動の一般に波及せるは實に最近十年以來の現象にして殖民地並に屬邦に關する一般人心を昂上せしめたり之と同時に殖民及び殖

地經營は近世の國家に於ける必須缺くべからざるものとなり殖民經營の成否如何は直ちに以て其國民的勢力の如何を判定するに足るべき好箇の試金石なるかの如くに見做され領土限りありて國民の元氣旺盛を極むる歐洲列國にては殖民地を以て國家の權力と勢望とを維持するの必要條件なりとし而かも殖民事業の成否如何を以て國家死活の懸る所なりとするに至れり

彼の北米合衆國に至りては歐洲の夫の如く最大必要に迫らるゝことなかりしと雖も天下大勢の向ふ所は彼の國民を驅つて少からざる殖民地を領有するに至らしめたり素より米國民の希望する所は土地の獲得よりは寧ろ貿易の實權を掌握せむとするに在り米國に於ける各種產業の發達は勞働を需要することを益々多く而かも宏大なる本國の面積は統一的人口の增加に適したる至大の面積にして其藏する所の富源は今や僅に着手されたるに過ぎず其內部が充分の發達をなして歐洲方今の如き狀態を呈するは今後數世紀を經し社會に於て之を見るを得む其幸福なる國狀に立てるは世人の一般に認むる所なり故に亞米利加國民の殖民並に征服の問題の解決は最近の思潮に促されたる結果なるも

彼の歐洲列國が經濟的分配の調和を圖らむとするの目的の爲に他國を征服し之を領有するものとは大に其性質を異にせり其今日米國民が氣候の異なる殖民地に移住するを避け一に商業の伸張に俟ちて國力の發展を期せむとするは經濟的國狀の然らしむる所にして殖民地に對する今後の措置如何は吾人の大に注目すべき所なり

之を要するに方今殖民思想の勃興殖民に對する政策の變更は人口の增殖と資本の充實とふ二大原因に存するものにして換言すれば近世經濟制度が國家主義の下に自由主義を破碎し國內經濟を救濟するの目的の爲に促進せられたるに在り彼のチャンバレーン卿が關稅同盟を絕叫して大英帝國を建設せむとしカイヨー氏が佛國々民の增加が他の列國々民の增加に對比し其增殖の著しからざるを見て佛國々民がチユートニック人種たるに拘らず帝國主義旺盛の現今に於て海外冒險の事業に從事することを好まず其愛鄉心の盛なるは佛國衰亡の原因にして而かも佛國人口增殖の度停靜し年々增加する國費を負擔する者の數は却つて反比例の現象を呈せり其宏大なる殖民地の如きは遂に之を放棄せざるを得ずと云ひしが如き殖民に對する最近思想の變遷は實にマーカンチルシステム旺盛の時代を再現せり

參考書井に其摘要

國粹主義―國家經濟主義―は獨逸學者フレデリツキ、リストによりて唱導せられたるものにしてビスマークは一千八百七十八年以來其實行の端緒を開くに至れり。新重商主義も又國粹主義の一種にしてシエフレが獨逸の時事及び重要問題第二集に於て重商主義の再興を說くも又其一なり。其他ワグナー、(地方的國家より世界强國)ツユモラーの議論(立法及び行政雜誌)又然りとす。尙 Pontmy, E, Les États-unis et l'impérialisme. を參照すべし。

エーレンベルヒ(商業政策)交通孤立政策も帝國主義に則る。

千八百九十七年マッキンレーの大統領となるやウヰルソン稅關法を廢しシンクレー稅關法により所謂モンロー主義の拋棄は時勢の狂熱のみならんや。

Chamberlain, Joseph, Foreign and Colonial Sepeeches. London, 1897.

Bright, John, Speeches. London. 1869.

Guyot, y., Lettres sur la politique coloniale, Paris 1885.

Roloff, G., Die kolonialpolitik Naopoleon I. Leipzig,1899.

第二編　本論

第一章　殖民の意義

殖民即ちコロニーなる語は其語源を羅典語のコロニアに發しコロニアは栽培の場所又は栽培に從ふ人の集團を意味するものなりしが方今は其意味を變じて殖民地(Plantation)を指すの詞となれり故に其本來の單純なる意義より殖民地を解する時は耕作に從事するの意思を以て生地を去り他所に住着する一國の人衆を指稱するの語なり而して希臘語にては殖民地のことをアポイキアと稱し單に異鄉の移住地又は遠隔の居住地を意味せり然りと雖も方今殖民に對する嚴格の意味より之を云ふ時は一方に於ては一種族又は一國民の凡てが擧つて他邦に移住する場合を除外すべく(例へばアングロ、サクソンス及びロムバードの移住の如し)又た他方に於ては移住後母國との間に於ける凡ての關係を喪失するに至れる場合をも亦た之を除外せざるべからず去れば殖民地なる觀念は移住地と母國との間に言語上宗教上經濟上將た政治上の各方面に於て何

等かの關係帶條あるを示すものと云はざるべからず

廣義の意味より殖民てふ詞を解する時は高度の文明を以て低度の文明に蒞み若くば全然未開の地に文明を扶殖するの意を包含す而して此文明の扶殖は人と人との接觸に依るものならざるべからずして則ち高度の文明國人が低度の文明國に移住するに依りて扶殖せらるゝことあるも苟くも人民の永久的移住あるにあらずむば尚ほ殖民と稱すること能はず亦た若し永久的移住ありと雖も非文明人民の文明國に向ふが如きは之を目して殖民なりと云ふことを得ず之に反して文明國民の非文明國を打開するものなる時は所謂斯れ殖民にして其移住者の數の多寡如何の如きは敢て之を問ふ所にあらず去れば殖民とは高度の文明が低度の文明を促進して其軌道に就かしむる進化法則の一作用と云ふを得べし

然りと雖も政治論に於ては母國との間に政治的關係則ち服從的關係を有する場合にあらざれば一般に殖民地てふ語を用ふることなく唯だ夫れ他日眞

の殖民地たるべき政治的附屬國の如きは屢々嚴格なる意義に於ける殖民地よりも廣義に解せられサー、ジョージ、コルンウエール、レウキスの如きも常に此兩語の混用を批難し彼の印度の如きは英國の附屬國たるべきも直ちに之れを目して純乎たる殖民地といふことを得ずとせり左れど方今政治論上に於ける用例は一般に殖民地てふ名目を以て印度、菲律賓或は印度支那の如き凡ての附屬國にも適用し敢て母國よりする移住者の多寡如何を問はざるが如し故に今若し近來の用例に適する殖民地の定義を求むれば則はち曰く殖民地とは民族的國家の外領にして其行政は內國の統治と殆ど其組織を異にし却つて之れに從屬し行わるゝものなりと云つて不可なけむ而して其殖民地への移住は多くは母國人若くは其子孫に依つて行はるべしと雖も時には往々無緣他種の民族が其大部分を占むることあるも敢て妨となすべきにあらず唯だ夫れ何れの場合を問はず殖民地政府は母國政府に對して服從的干係を保たざるべからざるのみ

時として其國民が其國內に於ける無人の地に移住し或は異種族を驅逐して

之れに代はることあり其作用殆ど殖民に類するが故に學者此種の移住を稱して內部又は內地殖民と云ふ其眞の殖民と異なる所以は唯だ母國の政治團體が直接の膨脹をなせしに止まるものとして別箇の社會を組織するものとは全然其趣を異にせり東西普魯西亞並に波蘭に於ける日耳曼種族の膨脹西伯利亞に於ける露國農民の移住及び米國農民の西部各州移住の如きは皆な國民團體の直接膨脹にして所謂方今殖民の用例には當らず而して彼等に依りて移住されたる土地は例令一時特種制度の行はるゝことあるも遠からずして劃一なる制度の下に置かるべきものなり

殖民の名目に關して尙ほ注意すべき事あり曰く英國の立法竝に公文書類に於ては印度を呼ぶに殖民地たる名目を以てせず常に大不列顚に從屬する別箇の一帝國となし印度に關する細大の政務は殖民省の所屬以外に立ち特に印度事務大臣なる政務官を置きて之を管掌せしむ斯れ蓋し印度は領域廣大人口衆多にして而かも古代文明發源の地たる等の故を以て嚴格なる意義に於ける殖民地と稱するの聊か不穩當なるの點あるが爲なり印度帝國に於ける舊來の土

人社會は其根底甚だ深く商業上工業上及び社會上各般の關係は未だ全然英人の掌裡に歸したるにあらず統治上に於ける英人の權力は元より頗る大なるものありと雖も其國內の富を支配することは遙かにジャメキカ及び錫蘭（セーロン）に於けるに及ばず之に加ふるに移住者の比例亦た頗る大ならず然れども英人の鐵道並に諸他工業的經營の進捗は漸次印度人を同化せしめて純然たる殖民地に近接せしめつゝあるは英國民の至幸なり若し夫れ英人にして印度經濟上の發展を指導するに於て今後或は一蹉跌を招致するあらむ乎永く其主權を保留するは蓋し至難の問題たらむ

佛國に於ては學術上其他一般にチユニス保護國及びアルゼリア諸州を除き其他の屬領地は凡て之を殖民地なる名目の下に一括せり而して其屬領中には經濟上に於ける佛人の支配力彼の印度に於ける英人のそれよりも遙かに薄弱なるもの存するも敢て之が區分をなさゞるあり惟ふに從來佛國が殖民地の經營に關して經驗せる幾多の困難は事情を異にせる各種の領土を同一視し歐人の移住の殖民地なるが如く思惟せしに在り殊に最も著しきは彼のアルゼリア

を遇するに純然たる殖民地を以てせず寧ろ却りて本國の延長則ち內國の一部分と認め之を郡縣に分ちて本國の制度を實施せしが如き以て一例となすに足る

之れに反して獨逸は其用例殆ど他の極端に走り其領分は凡て之を保護地と稱せり斯れ蓋し其殖民的活動本來の特質に依るものならむ乎獨逸政府は千八百八十五年以前に在りては寧ろ佛國政策に倣ひ軍事並に行政機關を要する直接殖民を避け領土內に於ける自國民の商工企業を保護するに止めたりしも輓近殖民思想の發展は佛國式の政策を放棄するに到らしめたり然れども尙ほ其殖民政策上に著しく舊時の根跡を留め用例も亦た依然として異なる所あるなし斯れ一は領土主權の觀念を含まざる語を用ゆるときは憲法上各種の面倒を避くるを得るの利便あるにも因するなるべし

殖民地用語に關する可否論は暫く之れを他日に讓り玆に政治學上より嚴格なる解釋を下す時は殖民地とは母國領土の一部分にして其自治を許さるゝと否とに論なく常に母國の監督の下に立たざるべからず換言すれば本國主權の支

配を受けざるべからざる土地なり而して此理論より殖民てふものを解する時は同一の國性を有する多人數が永住の意思を以て一定の土地に占居し本國の法律命令を遵奉して各種の産業に從事する團體ならざるべからず然るに若し各箇人各別の意思を有し各別の慣習を有し各別の權力に從ふが如き換言すれば各別の國性を有し其更に統一なきに於ては茲に謂ふ所の殖民にあらず假令這個の諸要件を具備したるにせよ往昔希臘人が政治上の急迫を救わむが爲に殖民地を作り羅馬人が軍事上の必要に迫られ國外一定の地に軍隊を派遣し永住占居をなせしが如きは斯れ元より一種の殖民若くは殖民地と解するに難からずと雖も近世的官能(Modern function)を基礎として經濟學上より之等を觀れば以て適當の意義に於ける殖民とは云ふべからず

殖民(Colonies)に對する學者の定義は區々にして殆むど一定する所あるを見ずウエブスター氏は殖民とは永住の目的をもつて母國を去り遠隔の地に移住し母國の法律に服從する人民の一部なりと云ひジョンソン氏は曰く殖民とは母國を離れ遠隔の地に移住する人民の一體にして國家の一部を移殖したるものなりとプロチユース氏は曰く殖民とは普通外國の土地の上に或は外國の住民の間に在住するの義にして永續的なること本國の言語慣習を持續し外國民中に在りて劃然一種の獨立せる社會を形成することの諸要件を具備する一團體を指稱す而して其本國と政治的關係を繼續するは其必要條件にあらず只だ狹義に解すれば之をも要件に算入すべきなりと所謂何れも大同小異にして其觀念とする所は(一)本國を離れ他國に土着永住すること(二)本國と同一國性を有する團體なることゝの二點に一致するものにして彼の一時的に來住するが如きは目して以て殖民となすべからず

歷史上將た亦た學術上より殖民に關する廣義の解釋をなすときは二方面より觀察をなすの必要あり則ち一方より之を觀れば人種の地理的移動にして他方より之を觀れば文明の展開方法なりとす歷史は這箇の事實を立證せり曰く古代の文明國人たりし亞細人及び埃及人等は陸より又た海より文明的勢力を希臘に及ぼし希臘人は之を羅馬に而して羅馬人は亦た之を歐洲西方の蠻族に及ぼして以て文明的誘致に努めたり之等の誘致之等の展開は實に人性の移動に

因するものにして則ち所謂文明移動の歴史は人種移動の歴史とも謂ふべきもの換言すれば世界交通の歴史は亦た一の殖民史とも見做すべきものにして國人の移動に伴ひ文明は亞細亞より歐羅巴に又た歐羅巴より亞細亞に亞弗利加に亞米利加に展開して世界の四隅に霑披せり之を以て之を觀るに殖民は人種の移動と共に文明の輸送をなし劣等國を開發して劣等國民の知識を昂進せしむ故に殖民は比較的文明の國より比較的文明ならざる國への人種の異同を意味するものにして劣等國民が文明國に移動するが如きは之を適當に殖民なりと云ふことを得ず故に例へば我が國民の支那朝鮮遼羅に於ける移住は之を殖民と唱ふることを得るも合衆國に於ける我が民族の移住は單に唯だ居住の移轉をなせしに止まり之を目して殖民と唱ふることを得ず此意義より殖民を解する時は之に要する觀念の原素として(一)殖民すべき土地あること(二)一定人民の移住あること(三)移住人民は其土着人以外の人民なること(四)移住人民の文明は其土着人民の文明より優等なること(五)定住する人民は比較的多數人なるを要すること等の必要あり。

參考書
Lewis, Sir George C., On the Government of Dependencies, Oxford, 1891.
Alfred Caldecott, English Colonization and Empire.
Edward Egerton, A short History of British Colonial policy.
Hübbeschleiden, Kolonisation und Kultivation.
S.ergel, K. von, Die deutschen Schutzgebiete. München 1895.

第三章　殖民の種類

殖民の種類に關しては學者に依り其觀察を異にし而かも亦た近代思潮の變遷に伴なふて大に其標準を異にするに至れり今其重なるものを擧ぐればヘーレン氏ロッシエル氏の分類なりとすヘーレン氏は殖民を類別して(一)農業的(二)栽植的(三)鑛業的(四)商業的の四種となしロッシエル氏は(一)征略的(二)商業的(三)農業的(四)栽植的の四種に區別せり

征略的殖民とは其目的とする所經濟上の理由に因するにあらずして寧ろ軍事上の理由に存し所謂暴力を以て他國を侵略し茲に殖民するを云ふ而して其殖民後は階級制度を實施し征服者と被征服者との間に主從の關係若くば少なく

とも上下優劣の區別を作るを通常とす往昔羅馬の殖民の如きは凡て此種に屬す

農業的殖民とはその目的とする所農業に存し主として狩獵人民牧畜人民等開化の程度未だ幼稚なる人民の居住し且つ其人口稀薄なる場所に創設せらるゝを常とす凡そ農業的殖民の初期に在りては斷へず種々の障害を受くるものにして其收獲を永遠に求むるの覺悟あるに非ずむば盖し成功を期すべからず而かも尙ほ且つ其殖民は特に永住の必要ありて多數の勞働者を要するが故に可成的本國に近き地點を可とするものとす昔日の米國及び現今の濠太利亞洲の如きは此種に屬す

商業的殖民とは通商貿易の計畫を以て興りたるものにして本國政府が所住の土人と通商貿易をなさしむるの目的を以て派遣したる商人等の其土に占居したるに其端を發し爾後連綿商業を以て隆盛を致せるを謂ふ蘭領印度が商業團體の力を藉りて發達し殖民の效果を收めたるが如きは此種殖民の好例にして其當初に於て本國の資本及海軍力に俟つ所大なるべきは云ふ迄もなきところなり

栽殖的殖民とは本國の氣候が或種の農產物の栽培に適せざるが爲め之れ等栽培し難き農產物を培養するの目的を以て他國に土地を得て之に移住して所謂殖民地商品を產出し其地をして母國の食料品及び工業的原料の製出地たらしむるの目的を有するものなり彼の西印度及び亞弗利加の殖民の如きは多く此種に屬す而して此種の殖民が占居する地方の大部分は本國と氣候風土を異にするが故に常に殖民者の健康害せられ易く從て多くの土人を役使し奴隸を輸入するの必要を感ずることあり方今の所謂殖民は征略的殖民と栽殖的殖民との兩性を具有するものと云ふべし

又た或る學者は本國との關係上政治經濟の兩方面より殖民を理論的に分類して移住殖民地及び打開殖民地てふ新字義を採用せり

移住殖民地とは移住者が前住人民の多數若くば全部を驅除して其地に定住し農業其他の產業に從事するを云ふ加奈太濠洲喜望峯幷びに米國當初の十三州の如きは盖し好箇の適例なり

打開殖民地(一名又た投資殖民地と云ふ)とは多くは熱帶地方に於て歐米の少數

者が其富源を打開利用せむとするに外ならず而して此種の殖民地は更らに之を類別して(一)商業殖民地(二)農業殖民地(三)工業殖民地の三種となす印度亞弗利加並に或程度迄は西領亞米利加も亦た當初の意思は實に商業的計營にかゝりたるに在り斯點は和蘭葡萄牙及び英國の殖民的活動に於て特に顯著なる事蹟を見るのみならず彼の香港海峽殖民地印度支那並にチユニス等の殖民地が方今母國の爲に甚だ重きをなす所以のものは主として商業上の理由に依るものなり而して西印度錫蘭ジヤバ其他熱帶亞弗利加等の諸殖民地は農業殖民地と目すべきものにして其工業殖民地とも稱すべきものは全土地の大半既に土着農民の占有に歸し從て移住者は專ら森林の利殖鑛山の採掘鐵道の敷設及び製造工業等を以て活動の目的となすものにして此種の殖民經營は近來の發達にかゝり歐米資本の充實は利益少き本國を離れて殖民地及び二等國に流入するの結果たるに外ならず印度埃及馬來及び菲律賓群島等は其好適例にして又た方今支那に對する列國の經濟的行動は洵に這箇の事實を證明するに餘あり實に近世殖民思想の發達は人口の增加と資本の充實とに促されたる結果にし

て吾人は二等國に對する列國の行動を目して資本政略より算出せし利權の獲得なりとせり

以上三種の殖民地中絕對に其一に屬するものは素より之れを實際に見ることは難しと雖も而かも各殖民地は將來必ずや何れかの特質を具有するに至るべく依つて以て其或は商業殖民地たり農業殖民地たり將た又た工業殖民地たるを實際に區別するを得む其今日の狀況に於て香港は商業殖民地ジヤメイカは農業殖民地亦た緬甸は工業殖民地たるの好例なるが如し

又たフアブリー氏は之れを區分して農業殖民地商業殖民地及び流刑殖民地の三種となせり(農業殖民地及び商業殖民地はロツシエル氏の分類と大同小異なり)流刑殖民地とは罪人を離隔する爲の殖民地にして罪人を本國より離隔して本國の安全を圖り亦た一面に於ては罪囚其者を改善せしめむとするに在り露國の西伯利亞に對する殖民政策は則ち此種の一なり此方法は理論としては不可なきが如しと雖も善良なる人民の殖民せる地方に近接して之を行わば必らずや之等善良人民の反抗を招くべく亦た之等人民の安寧を害するの虞あらむ

去らばとて單に罪囚のみの殖民地を作らむか之れが維持には莫大の經費を要すべく而かも此地の子孫は永世不善者たるの辱を受けむ要するに此方法は頗る困難にして殖民の方法としては決して悦ぶべきものに非らず然れども自由人民の移住をなすに先つて特に先づ罪囚を役使し土地の經營例へば道路の開鑿等をなさしむるが如きは穴勝捨つべきの殖民手段にあらず

尙ほ又た獨乙學者シエフレ敎授は殖民の分類上先づ殖民てふものゝ定義をなし殖民とは高度の文明が低度の文明に對するものなりとの理論を基礎とし兩個文明程度の相ひ去る遠近を標準として之れが區分をなせり曰く文化の程度は之を別つて部族時代、封建社會、市府國、領土國及び民族國の五期となすことを得而して此五種文明の關係は殆むど萬化鏡的變化を現わすものにして例へば第五期の文明人にして或は無人の地に殖民し或は部族時代(亞弗利加內地の土人社會の如し)の域に殖民を試むならむか前者は第五種の殖民にして後者は第四種の殖民たり而して敎授は理論上斯の如くなるべしと雖も實際の殖民は常に只だ一種類に歸すべしと云へり例へば今假りに獨乙帝國より一新地方に殖民

するとせむに移住者は第五種の文明を代表する伯林より出づるにあらずして近郊村落より出で而して其近郊村落は假し民族的國家內に在るも其文明は第一期に屬し從て其殖民は第一種なり元來何れの文明國に於ても尙ほ五種の文明の階段並存し其無人の地に殖民する者は最下級に屬し第一期の文明を有する地に殖民する者は第二期の文明を有する者と云ふが如く常に兩地文明の差は一度にして其殖民は第一種のものに歸着すと云ふに在り這は殖民の哲理を論ずるには趣味多き分類なれども政治上より方今の殖民制度を論ずるには殆むど實用の價値なきが如し

學者或は殖民の種類に關し國家的殖民及び私人的殖民の二者に分類するあり と雖も之れ等は殖民其物の效果を奏せしめむが爲の手段方法たるに在れば玆には之を論ぜざるべし之を要するに政治上及び經濟上より方今の所謂殖民を分類すれば概ね左の各種となすを得む

(一)人民の繁殖を目的とする殖民　此種の殖民は母國の人口を增殖し母國の政治的勢力を發展するの效果あり而してこの種の殖民をなすには氣候順適にし

て心神體力を損傷するが如き土地にあらざるを必要なりとす加奈太濠洲ニュージーランドニアの如き則ち好適例なり

(二)事業の開發を目的とする殖民　此種の殖民地氣候適順ならざるが故に文明人の永住に風土上の故障多く單に啻だ資本學術及び各種の才能を其地に投じるに在りジャバ印度支那コレゴー等の殖民地は主として各般の事業を開發するに在りジャバ印度支那コレゴー等の殖民地は此種に屬す

(三)耕作を目的とする殖民　此種の殖民地は住民稀薄則ち勞力の缺乏甚だしきより天與の富源を開發拓殖する能はざる地方なるが故に此土に勞力を輸入して其天產を收獲し土地を耕耘して農業特產物を產出するに在りマンテールブラジル等の諸國は此種の殖民地と云ふを得べし

(四)商業の爲めにする殖民　此種の殖民地は畢竟斯れ商業仲次の爲めに建設したるに過ぎずして大陸の沿岸海路の集合地點に存在するものとす新嘉坡香港等は此種の殖民地と見做し得べきなり

(五)軍略上よりする殖民　此種の殖民地はシブラルタル、マルタ亞典、浦鹽斯德等の如き土地にして英國は最も多く此種の殖民地を有す

(六)軍人を以てする殖民　往昔希臘及び羅馬は政治上の權力を維持せむが爲めに征服したる土族間に軍隊を派遣したり方今此種類似の殖民を實行せるものは露國を最とするものにして彼の中央亞細亞及び蒙古滿洲の境上に於ける哥薩克の殖民は以て其一例となすに足る

(七)罪人離隔の爲めにする殖民　所謂殖民地とも稱すべきものにして本國の安全を圖らむが爲めに罪囚を本國より離隔し兼て罪囚其者を改善せむとするに在り而して國家は先づ土地の經營其他に對して罪人を役使し自由人民の殖民に便ずるを云ふ露國は西伯利亞に對して亦た此種の殖民政策を實行せり

種々の觀察の方面より殖民の種類を細分するときは多種多樣なりと雖も政治論上より之を總括的に區分すれば嚮に論述せし所の移住殖民地及び打開殖民地の二分類あるのみ

參考書

Roscher, W., Kolonien, kolonialpolitik und Auswunderung. Leipzig. 1885.
Fabri, F., Bedarf Deutschland der Kolonien. 1889.
Schäffle, A., Deutsche Kern und Zeitfragen, Berlin, 1894.

第四章　殖民の動機

故郷は其住民に對し特種の引力を有するものにして彼等を生める故郷の山川は如何に偏僻の境如何に磽确の土なりと雖ども彼等に取りては樂園に均し人の故郷に戀々たる素より其情たらずむばあらず然るに母國を捨て萬里の波濤を超へ人種人情風俗宗教慣習を異にせる他境に一新生面を開かむとするには必らずや深き理由動機の存するなくむばあらず而して時の古今を論ぜず國の甲乙を問わず苟くも殖民の母國を離れたる史跡に徵すれば其間自から共通一貫せる理由動機の存在するを認め得べし

古代殖民の主因は單一なる同種族の地理的移動にして換言すれば同種族の地方的膨脹たるに過ぎず彼の牧畜時代の如く則はち一地方の人口繁殖し其地の面積が之を容るゝの餘地なきに到るやそが當然の結果は生活の困難を生ぜしむると共に茲に住民は屢々團體を結びて他の地方に遠征を企て以て永住の居所となしたり稍々下て都市發達し人々益增殖し生活愈困難となり而かも生存

の競爭劇甚を加へ各人其才能を發揮して其欲する所の地位財產を得る能わざるに於ては各人皆な其鄉土に戀着躅踏するの志を成す所以にあらざるを知り遠隔の地に未耕の原野あり未堀の鑛山あるを聞くや巨利を博せむと欲するの願望より彼地に到着し以て永住の居所となすに至るべし之れ則ち殖民の原始たるべきものにして漸次後繼者を呼び茲に隆昌の一地區を形成す中世に下ては如上の原因に加ふるに商業上の奇利を博せむとする野心の溺漫と數百年に亙れる十字軍の結果は歐洲人と異教人則ち亞細亞人との關係益々接觸し前者が後者の地方及び實力を熟知し大に其間に侵入して優勝者たらむとの意思を喚起し併せて遠征を怖れざるの氣風を增したる事との二理由は近世殖民を成功せしむる一大因子となれり更に降つて近世紀に於ては或は宗教上の迫害を避けむが爲め或は正教を傳道せむが爲め或は政治上の必要の爲め或は人種競爭の爲め將た或は經濟上利權伸張の爲め等殖民上更に複雜なる幾多の理由を增加したり而して社會が一層複雜となり而かも其組織的となるに連れ箇人相互が獨立競爭して一定の地域を撰定し茲に殖民地を建設するが如きは漸く困

難となり之と同時に國家も又た多數の民人に對して遠隔の一地點に移住することを强ひ所謂强制的手段に俟ち殖民地を建設するが如き事も到底なし能わざることたるを觀破し畢竟政府と國民とが互に相ひ協力し所謂國旗は商業に伴ひ商業は國旗に伴ふの實を擧げむことに留意し來り而かも最近人口の增加は經濟上の分配に不平均を來たさしむること頗る著しく無職の徒及び貧困者の數は實に逐日增加の現象を表示せりそも之を救濟するの手段として歐洲有名の政治家並に學者の多數は最近の思潮たる帝國主義を標榜し經濟上分配の方面より殖民地勃興論を唱道せり吾人も又たしかく思惟す曰く現今殖民の動機は主として經濟上の分配に因すと

第一節　人口の移動

殖民の動機として世人の專ら着眼する所のものは人口過剩の點に在りとす去れど一度之れを以上の事實に徵すれば殖民の決意を促すそも其主因なるものは曾だ舊國に於ける人口過剩てふ單純なる事實のみに止まるにあらざるを知

る今希臘に於ける殖民の由來を觀ずるに其移住の決意は諸都市人口の氾濫に因るにあらずして寧ろ一國內に於ける政治上の不和並に不可兩立の境遇に原因す斯の如き不可兩立の境遇並に獨立自主の精神は移住計畫の最も普通の原因にして移住開始の當初に於ては殊に然りとす次ぎに彼の宗教上の不和と抑壓は曾にピユリタン宗徒をして新英蘭土に移住せしめたるのみならず又た實に獨乙に於けるルーテル門徒の大々的移住を喚起したり而して彼の愛蘭土人の移住の如きも其故園の廣袤地力が多數の人口を給養する能はざるが爲めなるにあらずして寧ろ其一大誘因とも目すべきものは四圍の制度上幷に經濟的事情に對する不滿に在り去れば一般に之を云へば單純なる人口の過剩は單に其社會をして不健全の地位に陷らしむるに止まり移住の決意を促進する直接主要の原因にあらずして必ずや別に之が決行を誘致すべき諸他の原因若くば動機の存在するものなくむばあらず

或る論者の如きは移民の數に重きを置くと雖も是れ亦た謂れなきの言なり彼の幾百萬を以て數ふる加奈太人も當初本來の移住者に遡ぼれば約壹萬人を出

でざるべく一千七百七十五年のクエベック條例の當時に於てすらも其數尙ほ七萬人に過ぎざりしなり南亞に於ける當初の移民も亦た甚だ小數なりしことは同方面に於ける蘭人幷にユーゲノットの姓を稱する者僅かに數百に出でざるの事實に徴して之れを知り得べく方今英領南亞に於ける白人の數は約八十萬に達するも其前世紀中に於て同地に移住せし者は多くも十五萬人を出でざるべし這は移住殖民地に付て云へるものなるが打開殖民地卽ち投資殖民地に至ては更に移民の少數なるを知るに足る現に最近の調査によれば印度帝國貳億九千四百萬の人口中白色人種の數は駐屯軍隊を加へて僅かに三十萬に過ぎず

多くの場合に於て移民の發端は強制若くば強制的勸誘に依りて開かるコルベールの殖民計畫は之れに因りて實行せられクエベックルイヂアナ及び西印度に移住せしめむが爲めに強制及び強制的勸誘の兩手段を併用したり彼のリセリューの如きは一千六百二十七年新佛蘭西會社に特件を附與するに際し四千人の渡米移民を勸誘すべきを以て其條件とせり斯くの如くにしくにして移民

の大多數は一般下層社會より出で年期三ヶ年の農僕として耕主に使役せられ女子は之を巴里其他の都市に於ける孤兒院に需めぬ當時蘭人も亦アムステルダムの孤兒を輸入して南亞殖民地に於ける婦女の缺乏を補充せり之れに關聯して注意すべきは彼の流刑殖民地なりとす流刑殖民は當初主要の殖民手段たりしものにして西伯利亞幷に濠洲に於けるが如く新地開拓の着手は實に此手段を採用して自由殖民に便せり

現今大殖民國の人口は露國及び獨乙を除くの外かかる强制的方法を以て主要の殖民手段となさざるべからざるまでに內國に氾濫しつゝあるにあらず去れど限ある帝國內に於て盛んに增殖しつゝある而かも敎育の普及せる獨乙國民は今後の殖民界に於て永く主要の地位を持續すべきや疑を容れず若し夫れ露國々民の西伯利亞殖民の如きは寧ろ單純なる內地移住と見做すべきものなり蓋し西伯利亞は露西亞帝國の純然たる一部として且つ同等なるものとして經營せらるればなり

斯くの如く人口の增殖は殖民當初の動機にはあらざりしと雖ども而かも人口

の問題は近世殖民政策上主要の一問題とはなれり何となれば人口の停滯又は減少しつゝある國民は未來永劫殖民の經營上最も必要なる移住者を出す能はざればなり彼の多數の移住者を必要とせざる熱帶地方の殖民は增殖しつゝある國民にあらずとも之が成功を見る決して難からずとは洵に佛人の主唱する所にして人口の過剩は過剩其物に於て移往を決行せしむるものにあらざるのみならず之れなくとも一時の成功は敢て難しとする所にあらず然れども其永き競爭に於ては人口增殖の盛なる國民の爲に壓倒され遂に敗者の位地に立たざるを得ざるなり

永遠に亙る殖民の競爭に於て强度の人口增殖力を有する國民は遂に最後の勝利者となり而かも內國に於ける過剩の人口を鹽梅し社會上並に經濟上の不平均を緩和して人生の幸福を增進せしむべしと雖も之れに反するの國民は遂には其殖民地をすら拋棄するに至り延ひて本國の不平不和を釀成し經濟上亦た救濟すべからざる悲境に沈淪するやは吾人の言を俟たず一時佛人は內政の爲に忙殺され而かも殖民地に要する經費の多大なるを見て殖民地放棄論を唱へ

しと雖も今やかゝる拙策に出でずして列國と共に帝國主義を標榜して殖民地の經營に全力を注げり然り而して殖民の經營上佛國の最も憂ふる所のものは自國に於ける人口增加の停滯なりとす嚮の佛國總理大臣ワルデックルーソー氏は共和黨の商工調査委員の宴會に莅み一場の演說をなして曰く他の列國に比し佛國人口增殖の停滯は彼等を駈りて移住殖民せしむるの餘力を有せず且つ佛國人民はチユートニック人種たるに關せず海外冒險の事業に從事するを好まず其愛鄉心の盛なるは蓋し帝國主義に反對する人民たり云々又た一千九百〇二年時の大藏大臣カイヨー氏は議會に出席して一場の演說を試みたり曰く佛國人口增加の度停滯し逐年增加する比例を示せり云々と二氏の所見は略同意にして佛國人口の停靜が殖民の將來に關し其成效を奏する能わざるを悲觀せしものならむ乎不識佛國々民の二十年以前に於て唱道したる殖民地放棄論が未來に於て果して實現せらるゝや否や

Geffcken, H, The Germans as Emigrants and Colonists.
Butterworth, A. E., The immigration of Colored Faces into British Colonies.
Leroy-Beaulieu, P, De la Colonisation chez les peuples modernes.
Roscher, W., Kolonien, Kolonialpolitik und Auswanderung.
Merivale, H., Colonization and Colonies.
Bordier, N, La colonisation scientifique et les colonies françaises.

第二節　布教事業

布教事業が近代に於ける殖民計畫の一大動機たりしは是れ亦た爭ふべからざるの事實なり嘗て西班牙人の殖民計畫を開始するや彼の囘々教徒をカスチルより驅逐したるの秋にしてこゝに囘々教徒掃蕩の宗教的餘勢を海外に轉じたるに在り而して西班牙の國威を四海に傳へたる冒險的海員は各自耶蘇教の傳道を補助すべきを誓ひかくて遠征者と傳道者とは常に相提携し相呼應して相互の成功を援けたり若し夫れかゝる手段の正不正に至ては素より玆に論ずべきの限りに非らず只だ吾人は殖民と布教との間に於ける密接なる關係を指摘

せむと欲するに在るのみ而して此關係は獨り西班牙のみに止まるに非ずして英佛蘭等苟くも殖民の歷史を有する邦國は又た常に之を有するを觀る彼の佛國の殖民的膨脹に於て一千六百六十四年ルキ第十四世が西佛會社に與へたる特許命令中に神威を汚さゞるを以て一大要義となすべきを命令せしが故に會社は其所領に多數の宣教師を配置し耶蘇教の教義を普及せしむると同時に極力異教の流布者を驅逐するに努めたり

英人の殖民的活動をなせし初期に當りても亦た均しく法俗兩樣の目的を以つてしたり卽ち亞米利加に於ける英國最先殖民地の建設者たるサー、ハムプレー、ギルバートは海外殖民地に於ては基督布教を以て第一の要義となすべきを聲言し時の大臣クラショーはヴアジニア會社の創立式に莅み演說を試みて曰く北米土人をして基督教に歸依せしむるは是れ移住者各自の義務なりと而して同會社の特許に關する勅諭も亦た基督教を流布せしむべきを命じたり彼の東印度會社の所領に於て一千八百十三年に至る迄布教に從事せざりしは一の例外たるのみ

布教事業の重要なるは輓近の殖民に於ても異なる所なし而して世界何れの地たるを問わず常に宣教師は官吏及び商人に率先し不知不識の間彼等の爲めに案内者たるを例とす最近二百年間に設立されたる布教團體は英國のみに於ても五十四箇の多きに上り而かも其多くは殖民地其他の外國に於て現に活動しつゝあり英國主要の殖民地中彼の濠洲を始としてフヰジー南部及び中部亞弗利加、シーラレオン緬甸ギニアの如き其當初は實に布教者の手に依りて開拓せられたるものなり

佛國の交趾支那に關係を生ぜしは一千七百四十一年ピニョート、ベインが同地に渡航して布教上の指揮監督をなすに始まり爾來宣教師は幾多の辛酸を嘗めて專ら布教の事に從ひ延ひて一千八百六十二年耶蘇教に對する土人の反抗起り數人の宣教師虐殺せらるゝに及んで佛國政府は強硬なる干渉を試みいつて政治的領土を建設したり又た其前世紀の第五十年に於てフヱドヱルブ將軍の着手せる進取的運動に依りて獲得することを得たる西部亞弗利加殖民地に於ても佛國の勢力扶殖に與つて力ありし者は宣教師なり而して近刊の公書に依

れば大洋洲に於ける佛國保護領の建設は其原因實に宣教師の事業に在り彼の佛國が數世紀に亙りて絶へず主張しつゝある名譽の特權は輓近に至りて更らに一層其重きを加へたり所謂名譽ある特權とは東方并に東洋を通じて加特力教會並に基督教徒を保護するの權利にして政府は遠く十字軍の當時より屢々羅馬法王に依りて承認せられ又た一千五百三十六年の降服規約及び其後の諸條約に依り土耳古政府をして之を確認せしめぬ而して佛國は常に其駐在領事をして這箇の保護權を實行せしめ依つて以て大々的勢力を東部地中海方面に扶殖することを得たり蓋し佛國の僧侶及び宣教師は細心以て回々教徒を改宗せしむるの外觀を避け只だ其活動の範圍をアルメニヤ人其他の東方基督教徒に限局したるの故を以て土耳古政府の甚だしき故障を受けしことなく佛人の教會は特に偉大の勢力を有し同方面に於て教育及び宣教の事に從ふ三千の歐洲人中其二千五百人迄は實に佛國人又は佛國の教會に屬する人にして約四百の學校を支持管理し佛語を以て四萬有餘の生徒を教育しつゝあり而して之等の費用として佛國政府は年々五十萬法の補助金を與へ佛國團と稱する傳

道會社又た適宜に之が補助をなせり

前述の保護權は最近十年間に於て各方面よりの反對を受けしと雖ども漸次歐洲政治家の重要視する所となりぬ年々百四十萬法の補助金を有する伊太利傳道會社は表面上尙ほ佛國保護權の下に在りと雖も今や窃かに其覇絆を脫せむことを努め又獨逸皇帝は屢々此保護權を獲得せんことを企て羅馬法王廷に於ける獨逸派の勢力に依りて東洋に於ける獨逸加特力教徒を保護するの權利に付き法王の允許を得んことを試みたり而かも其遂に意の如くならざるを見るや俄かに方針を一變して法王の公認を得ることを斷念し凡て獨逸の宣教師は其宗派の如何を問わず又た其行動地の如何を論ぜず全然之を保護するは獨逸帝國の義務たると同時に又特權なりと主張し宗教上他の策略を以て東方に於ける佛國の勢力に拮抗せんとせり卽ちアルメニヤの僧侶と羅典宣教師との間に存する甚だしき感情の衝突(此感情衝突は後者が前者の宗教的儀式を否認するに起因す)あるを利用し以て其間巧みに權謀術策を施さむとするものにして獨逸の術策は漸々其圖に適中しゼルサレムの首長は自から佛、伊、露

僧侶に反抗して獨逸に好意を表するに至れり

宛も餓虎の餌食を漁るがごとく常に勢力伸長の機會を凝視しつゝある露國は元より此重要なる傳道問題を看過すべき筈なく小亞細亞及びシリアを通じて傳道會社並に教育の事業に從事しつゝある多數の希臘正教々長に對し最も敏活なる援助を與へつゝあり而して其勢力の侮るべからざるは吾人の常に耳にする所なり蓋し布教の事業は將來益々殖民上重要の關係を有するに至るべきは殆ど疑を容るゝの餘地なく歐洲列國は現に宣教師を以て國力發展の前哨となし一度び機の熟するあれば則ち之に乘ぜむとせり

布教事業を政治上の目的の爲めに利用するの策は支那に於て最も遺憾なく行わる彼の獨逸は宣教師二人の虐殺を口實として以て膠州灣頭に根據地を得たるは尙ほ世人の記憶に新なる所にして而かも海軍の根據地たる港灣以外の山東省に於て鑛山の採堀及び鐵道布設の特權をも獲得し佛國も亦た之と同一の方法に依り南清に於ける廣州を租借し宣教師虐殺の賠償として六ヶ所の鑛山採堀權を强求し又た彼の有名なるベール、バースロット(Père Berthelot)事件に乘と

て廣東及び廣西の二州に於て鐵道の布設權を獲たり南清に於ける佛國勢力の
輩固なる蓋し此の最後の特權に依らずんばあらず
殖民的膨脹の進行と共に布教事業を以て特に國家的卽ち之れを換言すれば只
だ本國に於ける傳道會社のみの事業を奬勵せむとするの運動を生じ其以外の
ものは或は之を禁止せざる迄も屢々之に障害を加へ漸次自から撤退するの止
むなきに至らしめむとし又た暗に全然之を禁止するの得策なるを唱道する者
尠しとせず亞弗利加に於ける獨逸の殖民地行政官は英國傳道會社の存在が大
に獨逸の統治權の確立に不便なるを愬訴し佛人亦た北亞弗利加の所領に於て
英米布教師の侵入並に之が事業を保護するを嫌忌し嘗てマダガスカルの未だ
全く佛國に屬せざるの時或は英國勢力の扶殖せらるゝことなきやを憂ひ佛國
の論評家は筆を揃へて英國布教の同島に於ける政治的活動を非難したり
布教事業に關して土着人民を二種に分つことを得其一はすでに高度の文明を
有する者にして印度人又は支那人の如きを云ひ其二は尙ほ野蠻又は未開の狀
態に在る者卽ち亞弗利加幷に大洋洲に於ける土人の如きを云ふ第一の場合に

於て布教事業の效果は之を數の上より見て甚だ微々たるを免れず從て布教の
事務を利用し政治上土着人民を懷柔するの權を收むるは頗る至難の事に屬す
雷だ之等の地方に於て布教事業の政治上重要の關係を有するは自國教民保護
の名の下に根據地を獲得し又は第三國の要請を遮斷するに在り之に反して第
二の場合に於ては宣教師の勢力に依つて全然之れが統治權を收め得ること決
して難からず是れ布教者の一度び土人に對して獲たる權勢は更に直ちに之を
轉じて行政官の手裡に移すことを得べければなり
布教者の成功幷びに道德的權力は政治上の目的意思に反して從わざるべから
ず)の爲め甚だしき制限を受けざるべからず抑も布教者は何等外部の援助に依
賴することなくして無限の困難を忍び蠻人幷に自然の敵と戰ひてこそ初めて
衆人の信用を博し尊敬を受け敢て他意あるにあらざるを領得せしむることを
得べしと雖ども國家が一度び其背後に立ちて高潔無私の事業を利用し以て物
質上の利益を求め國民膨脹の手段に供せむとするに至ては其布教師たる者は
最早や在來の道德的權利を喪ひ或る意味に於て政治上の間諜なりと認められ

ざるを得ず加之布教事業の統一は其活動區域に政治上專斷的國境の設定せらるゝが爲めに遂に得て望むべからざるの結果を見るに至らむ故に若し布教の眞乎の目的卽ち濟民救世の目的に在るを實現せしめむと欲せば努めて如上の傾向をさけざるべからず其今日世界宗教界の輿論が政治と布教との聯絡を人類の幸福を增進する所以にあらずとし而かも各種の傳道社會に於て宗教が政治上の目的の爲に利用せられ異鄕に新生面を開きつゝある宣教師が往々土人の誤解を招き道德上の地位勢力を失墜せむとするを痛論しつゝあるは宗教家の立脚地よりすれば又た然らざるを得ざれ共政治上より見れば國力の發展に重きを置きつゝある近世の國家は蓋し是等の所論に耳を傾くべきに非らず宗教が殖民を誘致したりし動機の主要なるものは一は本國に於ける宗教上の壓制が國民をして異域の天地に信仰の自由を完ふせしめむとすると一は冒險的傳道の精神に駈られたるとに在り今之れを萬國に見るに英國初期の宗教的殖民は冒險傳道に因するもの多しと雖も其大部分は實に國教の壓制に基きたるものにして實に近世の殖民膨脹は端を布教事業に發すること多く而かも政

府が巧みに布教事業を利用して殖民の效果を奏せしは古來歷史の之を證明する所なり

參考書

Longridge George, A History of the Oxford Mission to Calcutta.

Johnston, Sir H. H., A History of the Colonization of Afrian by Alien Races. ch, VIII.

Massien, I., L'Indo-chine, Paris, 1901, pt. V.

Vignon, L., L'Expansion de la France. Paris, 1891. pp. 309 sq.

Schmidt, R., Deutschlands Kolonien.

Alonzo, A. d,' La Russie en palestine. Paris, 1901.

第三節　冒險事業

凡そ吾人を駈り殖民的企業に依つてあらたに活動するの天地を求むるに至らしむる諸種の動機中常に最も主要なるものは所謂冒險心なりとす實に當初殖民的活動の俑を作れる海賊又は彼のコンキスタドールに於て既に然るのみな

らず今日國民膨脹の前驅に於けるも亦た然り近世歐洲の諸國を鑄出するに至りたる彼の封建諸侯の爭鬪に際してや欝勃たる歐人の精氣は遂に彼等をして新世界の探見と征服を企圖せしめたり此の冒險的精神は今尙ほ各方面に着々其の功を奏しつゝあるを見る軋轢爭鬪一世紀の後歐洲內部の發達は玆に其面目を一新し所謂國家の集團 family of Nation の漸く完成せらるゝや冒險的人士は再び視線を海外に放ち僅々二十年以前の地圖に於てさへ全然見るを得ざりし部分をも征服して之を利用せむとするに至れり蓋し舊世界は旣に其冀足を伸ぶるの餘地に乏しく玆に彼等は成功の機會に富み習俗の拘束を受けざる新舞臺を求めむとするものにして現に中央亞細亞幷に亞弗利加の荒野を拓き好戰的民族に觸接して大企業を起し以て統治權を確保せむことに汲々たり

歐洲人は凡ての階級を通じて冒險的趣味を解するの民族なり就中貴族は最も冒險に富み彼等の潛勢的冒險心は常に殖民運動の爲めに喚發せられ其歐洲社會に於て失墜せる地位名望を新天地に輓回するの機會を求めむとせり彼の殖民的利益の進捗或は殖民問題の研究を目的とする結社(例へばブルッセルの萬國

殖民協會の如き者)の會員中其主要部分をなすものは常に貴族にして彼の殖民界の偉人ラボジャーブローク、セシルローズ、グローマー卿、サージョージデタウブマン、ゴルデイ、サーバートルフレーア、等の如きも中流以上の家に出で其他自から殖民的企業に從事せる者の中に於ても亦た名門貴族の子弟甚だ多きを占め遂にラボシャーをして殖民運動は貴族に對する屋外救助なりと迄呼ばしむるに至れり

地理探見の希望も亦た一意暗黑世界の探檢を念とせる往古の航海者より最近の亞弗利加旅行家に至るまで常に殖民上の一大動機たりしや疑ひを容れず近くリビングストン、スタンレー及びナハチガール等の成功は異域の生活と性質とに關して世界の注意を喚起し同時に政治上尠からざる效果を生ぜしめたり北部亞弗利加に於ける佛國探見家は宣教師と相ひ俟て迅速なる政治的占領の道を開き一千八百九十四年露國の大尉レオンチーフに依つて試まれしアビシニアの學術探見も亦た實に其裏面に於て政治的目的を有したるなり

獨逸は從來多くの有名なる旅行家探見家幷びに地理學者を出せりフムボルト、

リッテルよりメーヨル、ブオン、ウイスマン及びゲルハード、ロールフス博士等に至る迄皆な探見狂とも云つべき熱心家にして彼等は恰も獨逸國民に向つて殖民政策の門に入るの豫備教育を施させしものと云ふべく海外事項に關する利害の念を旺盛ならしめ大に殖民的精神を皷舞せしめたり

冒險者の精神は多くの場合に於て更らに他の目的例へば富貴權勢を得むとの希望に依りて皷舞せらる此種の標本的人物とも云ふべきは彼の大探檢家ラ、サール其人なり而して更に其活動の一層政治的なりしはド、ソトー、ピザル、ロー及びコルテッツ等にして彼等の武士的幷に政治的野心は燃るが如き黃金渴仰の慾心と相ひ合し其官位高くして皇室の寵兒たるに拘らず彼の西印度に向つて英佛の勢力を扶殖せむとするや海賊的行動を敢てして毫も憚る所なかりしなり亞細亞、亞弗利加に於ける英國當初の建設者も亦た元より專念探檢幷に貿易に從事したりとは云へ彼等の採りし手段は往々暴戾の痕跡なきにしもあらずサー、ジョシア、チルドは垂死の東印度會社を復活せしめむとして奇怪なる策略をめぐらし又たワーレン、ヘスチングスの政策は普く世人の知る所なり英國をし

て極東に地盤を築かしめたるサー、スタムフォード、ラッフルス及びサー、アンドリュークラーク幷に亞弗利加に於ける英帝國の建設者サー、ジョージ、チゴルチー、セシルローヅも亦た此種の人物に屬し無盡の智略大膽の發案及び敢爲の冒險とは彼の特質とする所なり而して之を一般に云へば之等の手段は漸次に愼重を加へたりと雖も未だ全く然りと云ふべからざるものあり

方今の帝國を建設するの一大勢力たりし一種の冒險家とも見做すべきは境上に駐屯せる軍人にして彼等は大野心と大好奇心とに驅られて事を構へ事若し成らずむば一個の私事として自から責を引き若し一度び成功せんか忽ち政府の感謝と追認とを得たり北部並びに西部亞弗利加に於ける佛國士官フェイデルブ、ブラッザ伯等の活動は全く此種類に屬し彼等は探檢家たるの希望と國土擴張の野心とを結合し漸次前方に國境線を伸張して遂に北部亞弗利加の大部分を蠶蝕するに至れり又た英國に於て之を見るもラジャー、ブルークはボルネオ島のサルタン軍務に參して玆に成功の國旗を飜へし殆むど獨力を以て宛然たる殖民地を建設しサー、ウィリヤム、サンデマンはベルチスタン及びアフガニスタン

の國境諸族を懐柔して漸次英國所領を擴張し露國との關係上從來最も薄弱なりし印度帝國の國境をして安全たらしむるを得たり

自己獨斷の行動を以て最も多く國家の領土を擴張したるものは露國軍人なりとすムラビエフアムールスキが北部滿洲の土人を懐柔して今日の所謂アムール川を掠奪せしは全然自己の獨斷にかゝるものと認めらるゝに至れり又た中央亞細亞に於ける露國軍人は更らに大膽の行動に出で彼のチエルナエフの如きはタシユケントの包圍中アレキサンドル二世の命令書を得たるも皇帝の常に平和主義なるより其命令書の攻撃中止なるべきを察し封緘の儘之を軍袖に收め所謂一氣可成同市を攻略したる後ち皇帝の命令書は事後に及むで接手したる旨を復奏せりチエルナエフは命令違反の廉を以て其職を免ぜられしと雖も現今中央亞細亞に於ける露國勢力の根底は彼に受る所頗る大なり其他スコベレフクロパトキン將軍等が土耳古に對して最後の打撃を加へしも亦た同一の方法に依りしと云ふも不可なし

斯の如く殖民の計畫が探見及び種々の手段に依りて實行せられ他日秩序ある

商業上の關係を開始し以つて政治上の支配權を確立し而して大膽なる企業家冒險家は國家をして何等の危險を冒かさしむる事無くして最大の利益を獲得し得るの地位に導けり要するに之等は國民的膨脹の常道にして彼の冒險家及び企業家は先づ其先鋒となり永續的商業交通の爲めに前途の荊刺を刈り國家は其利益の漸く著大なるを俟つて始めて之れが保護者として現わるゝを例とす然れども輓近に在りては後節更に說明するが如く之等の殖民方法は往々舊式の方法として放棄せられ所謂子孫後世の爲めに主張の基礎を確立するの政策として從來個人の活動に委せし殖民事業も今や國家自から之を敢てするに至れり

參考書

Bruce, R. I., The Frontier Policy and its Results. London. 1900.

Brunel, H., L'Etat et l' individu dans la colonisation française moderne. Paris, 1898.

Zimmermann, Dr. A., Die europaischen Kolonien. Berlin, 1899-1901. vol. I., pp. 1-15; vol. IV., pp. 361-401.

此書は各國別法により記載せられたる浩瀚の書にして殖民史の參考書としても適當のものなり

第四節　商業幷に交通（其一）

商業關係を設定するの希望が如何なる程度迄歐洲國民の殖民的活動の動機たりしかを知るは又た甚だ主要ならずとせず抑も劣等なる政治組織の國と永久的商業交通を開始すればとて必らずしも政治的結果を生ずることなく又た之れ等劣等國に對する政權の扶殖は必らずしも商工業發達の地を求むるの意思に出づるにあらずと雖も而かも殖民政策と商業との間には常に看過すべからざる關係あるや明なり而して商業政策を論述するは本節の主旨にあらざるを以て茲には商業上の目的が如何なる程度迄過去の殖民活動を鼓舞し又た現今に於ける殖民的膨脹の運動が如何に新市場設定の希望と相ひ關するやに就て一言せむとす

西班牙初期の殖民誘致者は毫も眞面目なる商業開始の意思を有せず寧ろ可成的短期間に於て亞米利加の金鑛その他の貴金屬を採收し盡さむことを期し其進行上自然或種の商業を生じたるも而かも之れが自然の發達を許さずして國

王の專營に限れり之に反して葡萄牙人の殖民事業は大に商業的なりき是れ一は彼等の航海に熟達したるとにして彼等の主として殖民したりし東洋地方は貴重なる多種多樣の物產を出だし之れに伴ひ各種商業の發達を促したり若し夫れ和蘭に至りては其領土擴張を開始するの以前に於て商業の組織既に整頓し歐洲の運輸事業は實に和蘭人の支配に屬し西班牙葡勢の後を受けて殖民界に出づるや彼等は商業的見地を以て凡ての機會に處し恰も往昔カルセージ人のなせしが如く殖民地を以て單に商業の根據地となせり而して彼等の遂に錫蘭及び喜望峰を喪へる所以は政治的勢力の扶殖を冷淡視せしに歸するものと云わざるべからず

近世殖民の初期に於て佛國人は頗ぶる商業的企業の天性を實現したり實にニユーフオンドランドの河岸に於けるブレトン漁夫及び亞米利加大陸の森林を跋涉せし樵夫は幾多の佛國布敎者と共に一般歐洲人に向つて新世界に於ける永久的土地占領の端を開きしものと謂つべく佛國がヒユーゲノツトヲ放逐して自から國力を削るの愚をなさず加ふるに王國政府の混亂に際しても宏大な

る殖民地經營を掩護し助長するの意思と實力とを失ふなかりせば必らずや英國を凌駕し以て殖民界に牛耳を取ることを得たらむ去れば佛國政府失敗の最大結果はかの革命にあるにあらずして寧ろ其近世的帝國たるの地位を失へるに在りと云ふべし

英國人の殖民界に現わるゝや既に他の多くの國民に依りて集められたる經驗の果實を收獲することを得るの秋に於いてせり彼等は印度に於て佛人葡人蘭人を逐ひ亞米利加に於て佛人を放逐し大英帝國建設の大部分は實に商業冒險家の先導に依るものとして北米殖民を指導し或は印度の主權を掌握せしめたり而して印度帝國は諸他殖民地中商業的發端に因りて獲得せられたるものゝ好適例なりとす

當時に於ける殖民地商業の目的性質は其今日に於けるものとは全然之れを異にせり卽ち當時歐洲商人を皷吹せる唯一の動機とも稱すべきものは製造品に對する市場を開拓する點にあらずして只だ海外豐富の地方に於て貴重の物產を獲取せむとしたるに在り然れども今日は卽ち然らず商業的殖民の要義は市

場の擴張を以て第一とせり而して市場の擴張は歐洲に於ける過剩工業品の處理を目的とするに在り換言すれば殖民地に對する商業思想は土人より何物を買得することを得べきやと云ふの點に歸せり

上述の理由に依り第十七世紀及び第十八世紀間に於ける歐洲列國の商業政策は殖民地の發達を助長して其購買力を養成せむとはせず唯だ凡べての殖民地物產をして悉く其本國に輸送せしめむことを努めたり此時に際し亞米利加殖民地は尙ほ依然として英國品を購入し而かも其需要は年々增加せり去れど此顯著なる事實は歐洲諸國の顧みる所とならず彼の所謂航海條例幷に佛國のパクト、コロニアル」(pacte colonial)(殖民市場に於ける獨占權を本國に與へ殖民地よりの輸入を奬勵する爲に特典を與へたるもの)尙ほ久しく維持せられたり十九世紀の中葉に至り自由貿易の聲漸く喧しく商業に關する拘束制度の廢止せらるゝに及むでや斯論緒論に於て論述せしが如き殖民地閑却の時代を出現せしめぬ時人或は惟へらく殖民地の商業を獨占し而かも其利益を專らにすればこそ

政府は之に多大の國費を投ずるなれ若し之等保護のなかりせば何の爲にか殖民地を保有すべきやと焉ぞ謬れるの甚だしきや

現今に於ける商業政策の傾向は又た再び非常の制限主義となり從つて殖民の事を論ずるの學者は皆な重きを商業の點に置けり之れ他なし近時露佛國の政策中に現わるゝが如き排他主義の再興を怖るればなり若し夫れ此世界にして不通の區劃に分たるゝものとせば各國共に自存の必要上可成的多くの地域を占領すべきの理あらむ苟くも然らずむば單に土地の占領に依りて生ずる所の利益が其失費を補足し若くば之を補足して剩り有るや否やは尙ほ一箇の疑問たるを免れず吾人は今殖民地商業の細目に入り母國と殖民地との間に存在する商業上各般の關係を詳論するの暇なしと雖も殖民地に對する政治的支配の保有が母國の爲に商業上如何なる程度の利益を與ふべきや否やは玆に之を一言せざるを得ず

殖民地貿易の全體を擧げて之れを世界の全商業に對比すれば甚だ少額たるを免れず一千八百九十二年より一千八百九十六年に至る期間に付て之を看るに

殖民地貿易は之を合算して世界全取引の一割一分六厘に過ぎず此事實より推論すれば文明國の商業は凡ての殖民地貿易よりも遙かに巨額且つ重要にして思慮ある政治家は文明國間の親善鞏固なる關係を支持するを以て第一要義となし半開國又は未開國に於て少許の市場を開拓せむが爲に文明國の大市場に於ける地位を危くするが如きは恰も需めて自殺をなすが如し世界の經濟的康安は懸りて大國工業の繼續的效力幷に大國間に於ける斯の關係の確保せられて經濟力を徒消することなきに在り凡て一國の經濟的利益は那邊に存するや例を佛國に取りて之を見るに一千八百九十七年に於ける佛國殖民地商業は之を總計して僅かに其貿易全額の九、八パーセントとに過ぎず詳言すれば其輸出額英國へ十四億四千三百萬法獨逸へ四億四千三百萬法なるに對しアルゼリア印度及び支那への輸出は總計僅かに二億三千五百萬法を出でざるの事實に徵して之を判定することを得べし而して佛國殖民活動の最も優勢なりし一千八百八十七年乃至一千八百九十七年の十ヶ年に於ても亦た殖民地貿易の全貿易に對する比例は僅かに三、五パーセントを增加したるに過ぎずと然りと雖も吾

人の見地より之を觀察して殖民地貿易の母國の手に依りて營まるゝ割合如何を顧れば其頗る顯著なるものあるを見る例へば佛國は其殖民地貿中印度支那に於ける三割アルゼリアに於ける八割三分七厘チユニスに於ける五割七分九厘を掌握し英國は英領ギヤナに於て五割二分ナルタに於て六割二分加奈太に於て四割四分(輸入の三割三分輸出の五割五分)濠洲に於て六割九分五厘及び印度に於て五割三分の貿易を支配し又た南西亞弗利加商業の七割は獨逸の手に在り印度支那の通商中佛國の掌裡に在る所は一千八百九十年に於ける一割六分より一千八百九十九年に於ける三割に增加し一千八百八十六年に於ては其輸入總額八千五百萬法中其八割は外國の手に依りしも一千八百九十八年に至つては其總額增加して一億〇二百萬法となり其中外國の手に依りしものは減じて六割五分となれり卽ち佛國よりの輸入は一千八百八十六年に於ける千五百萬法より一千八百九十六年に於ける四千四百萬法に增加せり又た他方に於ては喜望峰に於ける英國より輸入の割合は一千八百九十一年より一千八百九十七年に至るの間に於て八割一分七厘より七割一分に減じナタルに於ては一

千八百九十二年より一千八百九十九年に至るの間に於て七割八分より減じて六割五分となれり

次の統計は殖民地住民及び外國人民が輸入品に對する一人平均の消費額を示すものにして之れに依れば殖民地一人は外國人一人に對して一般に本國貨物を消費すること大なり今一千九百年に於ける英國貨物に對する其殖民地併に外國人民の頭數割消費額を示さんに

ピクトリヤ	二八、五九弗
ニユー、サウス、ウエルス	三五、七五
西濠太利	五八、九八
全濠太利	三二、八七
喜望峯殖民地	二二、五二
ニユージーランド	三八、八一
合衆國	一、四六
獨逸	四、四〇

智利	五、六〇
加奈太	八、三九
ナタル	一七、九七
印度	、五〇
佛國	二、五二
露國	、四一
アルゼンチン	七、二六
墨國	、七二

英國貨物の消費額は凡べての英國殖民地を通じて平均一人一五、八一弗其他の諸外國に於ては三、六四弗なりと推算せらるゝと雖も多くの地方に於ける正確なる人口を知ること難きを以て這は只だ大體の計算のみ而して右表の示す所に依れば最も貧困を極むる印度人の如きも尚ほ英國の爲めには露西亞人よりも上得意にして加奈太人は英國貨物を購ふこと合衆國人の五倍以上に達す唯だ茲に一の例外となすべきは南米諸國に於ける英國の地位にして此等の諸國

は英國の殖民にあらざるにも拘らず尚ほ英人は茲に頗る盛大なる商業を建設せり

以上三種の統計より來る結論を約言すれば則はち政治上の支配權獲得は殖民地貿易上母國の爲めに或る利益を與ふるものと云わざるべからず若し然らずば殖民地人民の本國貨物に對する平均需要率が前表の如く大なるを得ざればなり

更らに殖民地の側より之れを見れば母國との取引は實に全取引の過半以上を占め其關係愈々重要となれりと雖も然かも歐洲大陸の一を選び其商業上の利益の全般に付て之を觀察すれば殖民地貿易の地位は決して他の文明國との商業關係を犧牲として要求し得べきものにあらず若し夫れ殖民地に於て本國貨物に對する人口割需要率の高き特種の原因を索めむと欲せば吾人は單に政治上に於ける主權の行使が永久に商業の潮流を支配し得べしとの觀念を去らざるべからざるや勿論にして唯だ其殖民地をして母國の爲めに一大市場たるに至らしむる所以のものは寧ろ政治的權力の附屬物として常に其中に含まれ又

た之れに伴ふものなることを忘るべからず卽ち第一には習俗流行の輸入せられ殖民地人民をして專ら母國の製造品を需要せしむるあり又た國語及び法規を同ふして財政機關及び取引關係の建設を比較的容易ならしむるあり殊に所謂打開殖民地に在りては新來社會の嗜好習俗は新たなる慾望を喚起せしめて而かも其勢力を大ならしむ

斯かる影響及び傾向は殖民地の年齡漸やく老ひ又た自から多きを加ふるに從ひ漸次薄弱となり更らに一層各般なる經濟的事由をして主として商業關係を決定せしむるに至る彼の一千八百九十五年英國殖民大臣チャンバーレン氏の回章に對する各殖民地知事の復申は最も能く此事實を說明するものにして蓋し右回章なるものは如何なる程度に於て又た如何なる原因に依り英國貨物が其殖民地に於て外國貨物の爲めに驅逐されつゝありやとの諸問案なり而して之に對する回答には各殖民地商業の狀況に關し趣味多く且つ有益なる報告を含み各國商民の商業經營及び方法に關し仔細の說明を與へたり此等の報告に依りて得たる一般の感想は英國は殖民地に對し相對的商權を失ひつゝありと

雖も而かも尙は他國の遠く及ばざること先に英國殖民地貿易に對する外商の侵入は其進步の速度大に著しきものありとは云へ未だ俄かに恐怖するに足らずと云ふこと之なり例へば喜望峯殖民地に於ける外人の商業が四十六割三分に達せしと云へば驚くに似たるが如きも其全取引に對する割合一千八百八十七年に於て百分の五なりしもの一千八百九十七年に至つて百分の二十五なりと云へば大に然らざるものある如し而かも此增減の率は決して少しとせず去れど這は英國商權の近世競爭に於ける悲觀的運命を指示するものにあらずして寧ろ諸他の外國が世界の商業に於て相當持分の要求を開始しつゝあるを示すものたるに過ぎず

外國殊に獨逸よりする輸入品の年々相對的に增加しつゝあることは英國各殖民地知事の報告の全く一致する所にして而かも彼等は其一原因として彼の商標條例(貿易品の聲價を高めんが爲めに凡ての商品に出產地標を附せしむる條例)の影響を認めたり則ち本來獨逸商品として英國より輸入せられ又た英國貨物と見做されたるものも方今は其眞の產地明白となり且つ直接に輸入せらる

ゝもの決して尠からず而して更らに彼等の實驗する所に依れば英國の商工業者常に頗る頑固にして商品に改良を加へず而かも華客嗜好の推移如何に應ずるが如きに留意せず加之其信用を與ふる上に於ても千編一律の死則に基き敢て臨機取捨することをなさざるに反し獨逸商人は盛んに使用人を派し其得意先と所謂人的關係を結び之れに依つて其性質を熟知し以て臨機の信用を與へ又た需要者嗜好の存する所を看取して商品の改良に努むるのみならず且つ安價にして體裁好き商品を供給せり其他獨逸商人が銳意經營せる銀行事業及び交通組織の敏捷確實は實に商業上重要の關係を有すること之なり之を要するに此等の報告に依りて得たる諸般の事實を總合すれば商業は國旗に從ふてふ格言の或る眞理を含むことを知ると雖も徒らに枕を高ふして隋眠をむさぼるべきに非らず又た將來の回復を豫想して殖民地獲得の爲めに巨額の國費を投ずるも可なりとなすが如きは斷じて不可なり

政治上の支配權が商業上の專賣權と彼此同化せらるゝに至る唯一の方法は高率の稅關を課して外國貨物を排斥するに在り而して此政策に對する恐怖は輓

近に於ける領土擴張の一大主因なり蓋し一地域より我を排斥せんとするものに對する最も敏捷にし且つ安全なる策略は機先を制して我れ先づ其地に據り以て百般の防備を施設するに在り屬領に對する關係より排外主義の貿易政策を實行せんとしつゝあるは歐米列國最近のことにして彼の露米の如き大國は其國情に依り經濟的施設を異にするわりと雖も其商工業の獨立を企圖し國民の經濟は自國及び自國領土の產業に俟たざるべからずとの念慮は共に其目的を一にせり彼の露國の如きは一切の新領土を以て全然本國と同一視し傳來の政策たる領土侵略主義を以て唯一の理想となし殆ど他を顧みるの暇なきが如しと雖も渠が軍事上政治上の目的を以て西伯利亞大鐵道を布設し清國政府に向つて旅順大連を强請租借(日露戰爭に際し我軍之を占領せり)したるは其裏面に於て一種經濟的觀念の伏在せるを見るに足る然り露國は領土の擴張を以て唯一の宿望となし禁止同樣の關稅法を實施して自國產業の保護奬勵をなせり渠の西伯利亞鐵道を敷設せしは宍勝政治上軍事上のみの野心にあらざるべし今左に露國前大藏大臣ウキッテが皇帝の命を奉じ極東を視察せし時の復命

書の要領を掲げて露國經濟家が東洋觀の一班を示さんとす蓋し亦た無用にあらざるべし

本官は皇帝陛下の勅許を得て西伯利亞鐵道並に其終極線たる東清鐵道を巡視せり西伯利亞鐵道の世界に與へし思慮に付ては何人と雖も之を否認する能わざらむ該鐵道は歐亞兩大陸を聯絡せしめたる世界の公道にして歐亞間の貿易は之に依りて隆盛を極むるに到らむ

今や歐亞間の貿易額は西伯利亞鐵道及び東清鐵道に依りて六億留に達せり蓋し同鐵道たるや運賃低廉にして其發送迅速なればなり工業の發達せる歐州は西伯利亞鐵道に依りて極東より未製品を仰ぐを得べく日本朝鮮支那は同鐵道に依りて自由に歐洲工業品の需要を仰ぐを得歐洲の企業家資本家は亦た續々極東に移住して天然の富源を獲得する事を得べし

抑も東亞の天地は近世に至るまで孤立の境遇に立ちて歐洲の文明に接せず一種獨得の國風を固守して存在を保ち歐米に知らるるに至りしは全く近年のことに屬す西伯利亞鐵道一度開通してより閉鎖せし東亞の門戸は歐人の爲

めに開放せられたり吾人は黃色人種と白色人種との間に生ずる衝突は之を豫知する能わずと雖も若し夫れ不幸にして一旦平和の破るゝあらんか其渦中に投ぜらるゝものは卽ち露國なり西伯利亞鐵道は世界の公道としては世界に多大の恩惠を與へ地方的鐵道としては露國に多大の利益と便利とを與ふ同鐵道布設の結果は露國工業の爲めに幾多の新市場を開き歐露に於ける過剩人口は同鐵道の便に依りて益々多くの移住者を西伯利亞に移殖せしむ西伯利亞鑛山の採堀西伯利亞移住民の增殖及び工業の發達は露國の生產力を增大せしめ而かも將來西伯利亞は開化の中心と化せむ實に西伯利亞鐵道の布設は世界大工事の一として亦た陛下大經營の一として史上に特筆大書せられ不朽の光榮を殘すものなり露國政府は比較的短日月間に西比利亞鐵道東清鐵道ベルミコラス鐵道エガチリンブルグ、チエリヤビンスク鐵道及び此附帶工事に放下したる費用は七億五千八百九十五萬留餘にして之に貝加爾湖岸迂廻鐵道の費用を合算すれば約十億留に達すべし其他之に伴隨するの費用卽ち極東の陸軍擴張港灣築造並に修築行政廳の增設等に費用を要す

ること亦た尠からず是を以て露國財政家が西伯利亞鐵道の布設を久しく躊躇せしは敢て怪むに足らずと云々

ウキッテは更らに歩を進めて仔細の觀察を下して曰く西伯利亞鐵道は歷山三世陛下の所謂平和的事業敎化的任務を追行するの方便なりと雖も十分之を完成するには今後尙ほ非常の困難と耐忍とを辭すべからずダルニー市の商港を計畫して一年を經て之を落成し次に商業上の利便を具備せしむる爲め該市に石炭貯藏所を設け滿洲石炭の採掘を盛んにするを要すとし以てダルニー市をして極東市場の中心たらしめむことを期し露國の商業を發達せしめ商權を掌握せむが爲には可成的露國商人をしてダルニー市の不動產所有權を得せしむるの必要ありとなし又た浦鹽とダルニー市との關係に付て曰はくダルニー市は浦港と同じく鐵道の終局點たりダルニー市開設は浦港に損失を與ふるや勿論にして浦港を保護せむには兩市の關係に適當の處置を施こさゝるべからず露國が關東州を占領し露國の鐵道を黃海の中心と接續せしめたる以上は其終局點として不凍港に商港を築造するにあらざれば確かに露國に取りて不利な

り浦鹽は明かにダルニー市に一步を輸せりダルニー市は不凍港にして且つ支那中央市場と近接するを以てダルニー市を浦港の犧牲に供する能はず要するに浦港は前にダルニー市と相並びて繁盛を計らざる可らず之れが爲には浦港の商業範圍を黑龍沿海州東北滿洲とし而してダルニー市の商業範圍を南方滿洲となすを要す露國がダルニー市經營の爲に費消したる資本は千八百八十五萬留にして該費消額は該市の隆昌に赴くに從ひ忽ち之を回收し得べしダルニー市に於て內外人に賣却せし地面は一萬六千八百四十三平方サージンにして此價格は四十二萬五千〇二十七留なりと更に氏は浦港、尼古來斯克兩港に於ける關稅法實施前後の有樣を述べ無稅港の廢止は二港を衰微せしめたる一原因にして又た滿洲鐵道特に南滿洲線の布設は浦港を枯死せしめむとす而して浦港を保護するには無稅時代より有稅時代に移るに在り此目的を達する爲には浦港に自由港を設くること必要なり彼の所謂自由港の制とは貨物が其港內に存在する間は輸入品を悉く無稅とし內地販賣の場合に於てのみ課稅するの制にして若し自由港に存在するのみに止まり內地に入らざる貨物は無稅とし

て之を本國若くば第三國に回送し得るの便を與ふべしと論じ浦港の損害を以て一時の現象に過ぎずとなし滿洲鐵道は今日に於てこそ浦港の利益を奪ふが如くなれども將來充分之を償ふに至るべく今日は多少の不便不利を忍ぶの時代にして東清鐵道及び旅順大連の大事業は太平洋岸の不凍港に出でんと欲する露國東侵の第一着歩なりと結論せり

ウキッテ藏相の所謂東方經營に關する要旨は斯くの如し吾人は氏の意見の一端を捉へて露國朝野の宿論なりと迄に斷言する能わずと雖も露國積年の目的たる領土擴張主義を仔細に觀察する時はそが源を自國經濟の獨立發展に求めしに在るは論を俟たざる所にして渠が今日軍事上經濟上の施設に一日を忽にせざるは最近思潮の帝國主義と相俟つて益々之を實現せしむるに至れり而して露國の領土は本國に接近せるを以て經濟上其他諸種の經營に付ては他國の其れと大に事情性質を異にするものあり故に露國の排外的經濟政策は國家の根本的政策として之を論ずべく單に殖民地に關する政策とのみ觀るべきに非らず

産業上の施設經營に於て露國と地理的關係を同ふせるは米國なりとす(地理的關係とは其本國の土地廣大にして無盡の産物を有し孤立經濟の狀態に依るもの些の痛痒を感ぜざると其大國たるの點とに於て露國と同一なりと云ふの意味なり)米國があらゆる天産物に富み國内に需要する凡ての貨物は國内の産物を以て供給するを得べし近時米國に於ける人口の增加、産業の發達、資本の過剰は保護關税政策實施の結果にして換言すれば排他的經濟政策の結果なり米國が産業保護の爲めに輸入税を賦課せしは一千八百八十三年一千八百九十年及び一千八百九十七年の關税法改正に依りしものにして關税法改正の目的は南北戰爭後漸く内地産業の挽回されつゝありしに偶々普佛戰後恐慌の餘波を受けし産業は多大の打撃を蒙りぬ茲に於てか外國品の競爭を杜絶するの目的を以て先づ其第一着手として一千八百八十三年關税法の改正實行せり

米國がモンロー主義を棄て帝國主義を採るに至りしは彼の歐洲列國の如く人口の過剩に伴ふ經濟上の不平均を緩和せんとする動機の爲めにあらずして其

主因と見るべきは充實せる國內の資本を一層有利の外國に放下せんとしたるにあり何となれば米國目下の狀態は尙は幾多の勞働者を要するの事業多く資本を放下するの餘地繹々たるにも拘らず非常なる勢を以てトラストを組織し世界に向つて生產品販路の擴張を圖り商權を掌握せむとしつゝあるは或る意味に於て一種の榮譽に駈らるゝものなりと云ふを得べしモンロー主義（モンロー主義とは一千八百二十三年時の大統領モンロー氏が議會に下せし敎書中に包含せらるゝ外交の方針なり）乃ち之を政治上より見れば北米合衆國の孤立國是を主張したるものにして米國は米人の所有たり故に米國に對する他國民の容喙を許さざると同時に米國民も亦た他國の政治に干涉して爲めに紛糾を招致するが如きことを避くべしと云ふにあり然るにモンロー主義は必ずしも消極的防備的孤立主義にあらずして今や却つて積極的攻擊的領土擴張主義換言すれば所謂帝國主義の大傾向を有せり米國が最近に於て韋律賓を合し布哇を併したるが如きは確かにモンロー主義の意義と相反するものと云ふべし或人は曰く斯れ所謂モンロー主義なりモンロー主義とは必らずしも西半球に他國

の容喙を許さずてふ意味にのみ止まらずして苟も米國利權の伸張すべきものは之を伸張すべし若し之れに向つて妨害を加ふるものあらば其の何れの國たるを問はず米國はあらゆる手段を以て之に當たらざる可らず斯れ卽ちモンロー主義なりと然れども世人の多くは米國現時の政策を以て必らずしも論者の如く思惟せず寧ろ是れモンロー主義を拋擲して領土擴張主義市場開發主義卽ち帝國主義を取るものなりとせり米國が關稅政策の下に產業の獨立を企畫し商權伸張に銳意熱中しつゝあるは實に世界をして震慴せしむる所以なり獨逸帝國近世の勃興は又た實に有名なるものにして今や政治上經濟上英米と相對峙して宇內に覇を稱へむとしつゝあるは識者の均しく認むる所なり而して之が一大原因として先づ第一に指を屈すべきは人口の增加なりとす彼の人口の增殖が一國々民を刺激して國力を強大ならしむるは何人と雖も首肯する所なるべし方今佛國具眼の士が其人口減少の事實を見て危惧の念を抱けるは偶々以て斯かる現象の虛妄ならざるを證するに足る實にや十九世紀後半に於ける獨逸國民增加の割合は遙に他の歐洲列國に勝り之を數字にて示せば一千

八百七十一年に於て僅かに四千百萬人に過ぎざりしもの一千九百〇一年に至り五千七百萬人となり一ヶ年平均八十萬人の增加をなせり此人口の增加に伴ひ斯國の產業亦た急劇なる發達を遂げ農、工、商の業に從へるもの、間に甚だしき增減を生ずるに至れり今此狀況を示さむに一千八百八十二年には人口四千人中農業に從事せる者四百二十五人、工業に從事せるもの三百五十五人、商業を營める者百人の割合に在りしが下つて一千八百九十五年に至るや前記の狀況は一變して農業者三百五十七人、工業者三百九十一人、商業者百十五人の割合となり今より三十年前迄は農業に從事せし者全人口の六割を占めたりしに今や僅々三割五分となりぬ次に外國貿易の趨勢を見るに一千八百七十二年に於て輸出入の合計二億七千九百磅に過ぎざりしもの一千九百年には一躍して五億千六百萬磅の多額に昇り同時に大に海運業を隆昌ならしめ今や獨逸の斯業は世界列强中第二の地位を占むるに至れり如斯輓近獨逸に於ける人口の增殖資本の充實は國民をして殖民問題の國家最大の問題たるを知らしめ國民勢力の發展は領土の擴張市場の新設に俟たざるべからず卽ち帝國主義の發動に依り

て層一層自國の强大を致さゝるべからざるを自覺せしむるに至れり其殖民經營に熱中せるの事實は海外移住民の增加に徵するも亦た其一班を知るに難からず而かも獨逸の商品が英國の殖民地に於て英國商品を驅逐し世界の信用を增しつゝあるは英人の尤も惶るゝ所にして目下英國が關稅同盟の下に大英帝國を建設せむと欲せるは之に起因するものにあらざるか獨逸最近の飛躍は彼の米國の其れと同じく吾人の括目して待つべきものなり

政治上に於ける領土の擴張と云ひ經濟上に於ける利權の扶殖と云ひ其由來する所は蓋し帝國主義實行の必然的結果にして列國の爭ふて保護的經濟政策に因りて一意國力の伸張を企圖せんとするは誠に故あり然るに獨り英國の自由貿易主義を固執して宇內の大勢に反抗せむとするは自國の幸福を進捗するの所以にあらずとなし相互的貿易政策を實施して外國貨物を壓迫せざるべからずとは前殖民大臣チャンバーレン氏に依りて唱道せられたる關稅同盟論なりとす

マンチエスター組合(穀物條例を廢止して外國穀物の自由輸入を許し穀物の暴

騰を防ぎ細民の急を救はんとする團體)の設立せられ非穀物條例の同盟を見るに至りしは一千八百三十年以降の事に屬し彼の有名なるコブデン氏がマンチスター市を代表して下院に列し穀物條例廢止案を提出しブライト氏等の盡力に依り時の內閣をして同條例を廢止せしめしは一千八百四十八年の事にして同條例の廢止と共に英國の貿易は純然たる自由貿易主義の下に行はれ爾來何等の障害を見ず以て今日の隆昌を致せり然りと雖も一部の論者は思へらく最近に於ける米獨兩國の發達は英國の商業及び企業に對し著しき影響を與ふるものにして而かも其殖民地貿易の狀況は外國競爭者の爲めに漸次壓迫を受けむとする今日猶は純然たる自由貿易主義を持し其幼稚なる各殖民地開放を持續するは策の宜敷を得たるものにあらず今にして其現狀に留意し海外の競爭に對して何等の制限をなさゞらんか英國の商業は殖民地より驅逐せられ惹ひて本國產業の衰運を招致せしむるに至るべしと而してチャンバーレン氏の如きは亦た實に其一人にして首相バルフォーア氏の如きも大體に於て氏の意見に贊するもの、如し

英國が六十年以前の過去に於て貿易上の制限主義を撤回し自由貿易主義を採りし當時の大勢を觀るに其通商貿易の點に於て列國の競爭今日の如く激烈ならず世界の海運は殆ど英國の掌握する所にかゝり些々たる障害は償ふに足るが故に自由貿易主義こそ英國の國狀に適したるの政策たりしと雖も今日に於ては則ち然らず列國の競爭激甚にして就中獨米二國の如きは新進の英氣を以て英國の商業利圈內に突入せしにあらずや英國が之を驅逐せむとするの應急手段として尙は且つ今後の侵略を防止するの方法として好當なる施設經營に出づべきは理論上實に至當にしてチャンバーレン氏が保護政策を絕叫するの眞意蓋し知るべきなり今チャンバーレン氏が貿易政策變更に對する要旨を摘記すれば左の如し

(一)南阿戰爭後殖民地と母國との關係一層密接を致したること及び各殖民地の知事が本國に對し關稅改革の問題を提出したること

(二)他國に於ける保護政策の施設が產業の獨立を期せしめ商業の發達を促進せしむると共に英國商業上の地位に不安の狀態を起したること

(三)英國は自から自由貿易主義を以て誇るも其自由貿易たるや米獨諸國が國内に行ふが如く自由廣大ならす且つや其殖民地に對してすら自由貿易を行ふ能はざること

(四)列國が其保護政策を鞏固にし一方外國の産業を排斥するに至らば英國の自由貿易は單に虚名に止まるべきこと

(五)殖民地の領有は本國を利せむとするものなるに拘らず之を開放して外國の競爭に委ずるは本國の利益を犧牲に供するの惶あること

以上は實に氏が關稅同盟を主唱するに至りし主因とも謂ふべきものにして氏は英國の資本及び企業が比年外國競爭の爲めに漸次危險の地位に立ち勞働者も亦た今後非常の困難に遭遇すべきことあるを痛論し到底方今各國に於ける産業上の新組織は彼のコブデン、ブライト氏等の夢想の能わざりし處なりとし英國商工業の地位を安固ならしむるが爲には餘りに自由なる開放主義を撤回して保護貿易政策の實行を畫するに在りとせり

今やチャンバーレン氏の貿易政策變更論は自由主義者の反對あるに拘らず一

道の光明として大に有識者の贊同する所となり自由貿易主義の理想は到底今日の競爭場裡に立ち勝を制するの所以にあらずとして輿論の傾向を支配しつゝあるものゝ如し

殖民地に關する佛國政策は亦た此の排他的主義に依れり佛國は殖民地を以て全然本國の領土と區分し一千八百九十二年以降は實に保護的關稅の最高率を施行しチユニス保護國の如きに於ても佛國貨物は非常なる特權を附與せられたり佛國は斯くの如くにして各殖民地に對する輸出を增加し得たりと雖も其本國が果して能く此政策の爲めに利する所ありしや否や未だ俄かに斷言すべからざるものあり何となれば佛國人口減少せんとするの傾向は世界に於ける佛國の商業を衰退せしめしのみならず其殖民地の商業を不活潑ならしめつゝあればなり論者或は曰く佛國殖民地が保護關稅の爲めに當に外國貨物を排斥したるのみならず之れと同時に外國の資本幷に企業を拒否したるの結果にして各國に向つて均等の機會を與へたる海峽殖民地の日に隆昌なるに反し印度支那の悲むべき狀態に沈淪しつゝあるは實に斯の實證なりと云ふと雖も吾人

を以て之を觀れば殖民地に於ける佛國商業の衰退は必らずしも保護關稅實施の結果にあらずして寧ろ之を本國人口の減少に歸するの至當なるを信ぜむと欲す若し夫れ佛國が彼の獨逸の如く大なる人口の增殖力を有し殖民地の施設經營にして遺憾なからざりせば今日の如く列國の爲めに商權を攫奪さるゝが如きことなかりしならむ

佛國人口增加の割合日に減少するの傾向あるは世人の夙に熟知する所にして是れ實に殖民地經營の大患なり今其一例を擧げむに一千七百七十年より一千八百九十六年に至る出產數は人口一萬に付三百八十人より二百二十人に減少し又た一千八百八十年に於ける出產總數は九十三萬七千〇五十七人なりしもの一千八百九十年に至り八十三萬八千〇五十七人となれり今更らに此出產比例を以て他の諸國に較ぶるに人口倍加の年數を以てせば那威五十一年、瑞典八十九年、獨逸九十八年なるに佛國は三百三十四年の長日月を要す佛國人口減少の原因に付ては或は佛國々民の蕃殖力先天的に缺乏せりと云ひ或は酒精の飲用過度なるに在りと云ひ或は强制義

務兵役の然らしむる所なりと云ふと雖も未だ之に向つて明確なる解釋を與へたる者あるをきかず

人口の遞減夫れ斯くの如く著しきものあると共に內國に於ける政治上社會上各種の紛亂は一時殖民地を拋棄するの得策なるを唱へしめたりと雖も目下の狀況は卽ち然らず殖民地の經營を以て最大急務なりとし一意本國民を刺衝して列國の侵害に備へむとせり而かのみならず最近帝國主義の思潮は佛國政府をして層一層海外の經營に重きを置かしめ交趾支那安南東京の屬領を根據地として南方支那に自國の勢力を扶殖せしめぬ今日佛國が力を海軍の擴張に致し保護政策の下に國民勢力の發展を所期しつゝあるも之が爲めにして只だ渠の大患とする所は人口の遞減にして世界の大勢が佛國殖民の前途に如何なる影響を與ふるやは歐米識者の常に着目する所其經營にして一步を謬りなば廣大なる殖民地の國旗は遂に他國の爲めに撤去さるゝに至るべし

反對論者あり曰く面積廣大にして人口衆多なる未開地例へば西部亞弗利加諸殖民地の如きに於ては保護關稅政策は決して行はれ得べきものにあらず何と

なれば斯かる地方に於ては密輸入を行ふこと頗る容易にして極めて輕微なる課稅と雖も尙ほ能く貿易の經路を課稅港より自由港に移さしむるに足ればなり去れば此種の政策は殖民地及び母國雙方の本來の利益に反して永く其存在を保ち得べきものにあらず然るに若し其一般に採用せらるゝが如きことあらばとせば列國が共に彼等の最大利益は相互間に於ける健全にして確實なる經濟的關係の發達に依つて得らる可きものなる事を忘却したるの時ならざるべからず現今に於ける商業の傾向は所謂門戸開放主義に存するものにして商業界の完全なる利益に依りて初めて實現することを得べしと斯れ一理なきの言にあらず何となれば自由貿易主義の理想商業本來の性質及び目的より之を論ずる時は彼の海關稅率を昂めて外國品の輸入を禁止するが如きは決して策の宜敷を得たるものにあらざればなり然れども內國の產業を發達せしめ若くは殖民地領有の利益より之を打算せば蓋し保護主義に依るの得策にして且つ至當なるを信ぜずむばあらず、保護主義の貿易政策は方今列國の實行する所にして苟くも列國が武裝を解き世界共通の諸權を遵奉し整然たる秩序の確立

さるゝの秋に達せざれば商界の完全なる利益は到底之を享受し能わざるべし吾人は信ず今後幾千年の未來はいざ知らず苟くも國民勢力の發展を以て自國の富强を所期しつゝある現今に於ては自由貿易政策は蓋し到底行はれ得べきにあらざることを見よ彼の英國の如く自由主義を以て根本國是なりとするの邦國も今や關稅同盟の下に一大帝國の建設に汲々たるを

第五節　商業並に交通（其二）

商業根據地、海軍根據地、並に交通線路の確立把扼は廣大なる領土の獲得よりも更らに重要なる關係を有するものなりそも〳〵近世國家の間に於ける競爭の大目的は實に商業に在りて存す故に其主要なる市場に近接するの手段を備ふる國民にして玆に始めて成功を期することを得べく其單に土地を占領して交通線路の把扼を忘却するものゝ如きは到底將來の商業場裡に月桂冠を爭ふの資格なき國民と云わざるべからず而して交通線の必要が從來如何なる程度迄政治的活動を支配したりしかは最も注意すべき問題たり

115720

英國々民の國家的膨脹の歴史に就て之れを看るに其當初は唯だ印度に於て二三徴々たる商業殖民地ありしに過ぎず其漸く勢力を獲て地位亦た稍々重きを加ふるや忽ち本國との間に於て安全確實なる交通の必要を感ずるに至れり斯く印度に至る安全確實なる交通線を把扼せんとの意志は實に前世紀に於ける英國外交政策の最大要素にして先づ第一着手として喜望峯を蘭人より奪ひ以て印度に至る海路の要衝を扼し次で蘇西運河の開鑿せらるゝや漸次此貴重なる水路の支配權を收め兼ねて埃及に霸權を樹立せり今若し世界地圖を一瞥せんか實に交通上の各要衝は一として英國の配下に在らざるはなし例へばクリヤムリヤ島、ゾコトラ、アデン、ペリム、ソマリー沿岸並に地中海に於けるキプラス、マルタ及びジブラルタル等の如し而して彼の蘇西運河は最早實際に於ては之れを英國運河と稱することを得べく英人は實に其偉大の政治的天才を發揮して以て英印兩國を聯結する鞏固なる鎖鑰を得たるものと云ふべし

英國が土耳古及び露西亞に對する複雜なる關係も亦た主として交通問題に依りて決定せられたり卽ち土耳古に對しては居常友誼的注意を加へ以てキプラス及び埃及に累を及ぼさゝらむことを期し又た他方に於てはコンスタンチノープルに對する露國の一擧一動に關し其艦隊をして黒海内に閉息せしむることゝせり若し夫れ露國の如き一大勢力にして運河線に近接することあるに至らむか英國の帝國的地位は蓋し亦た憂如たるを得ざればなり

通路問題の關する所は單に之に止まらず彼の南阿戰爭の如きも英國主義論者の以て最後の論據となせる所は彼の喜望峯たるや印度に到る副道の要衝なるが故に英國は水路の聯結上野心あるブール人の危險に放任すること能わず又た更らにカヒロと喜望峯とを連絡せんとする亞弗利加縱貫鐵道の線路も其ブール共和國に近接するの故を以て何時渠の迫害を蒙むるやも豫知すべからずと云ふに在り一千八百九十八年に於けるスダンの占領も同一の理由に出でたる重大の事件として當時若しキチネル將軍にして失敗するが如きことあらしめば佛國は中央亞弗利加より露國はアビシニヤより出で互に相提携して埃及と東部及び中部亞弗利加保護國との間にある交通線を破壞せしならむスダンの重要なる所以は領土其れ自身としての價値にあらずして實に交通線路の要

衝に當たれるの點に在り又た彼の東洋に於ける新嘉坡及び香港の占領の如きも此兩地が東洋の貿易上商業根據地として最も適當なる地位を占むるの結果たらずむばあらず

交通上の要衝を把扼して商業の利益を獲得しつゝあるは獨り英國のみに止まらずして列國の活動に於ても亦た大に顯著なるものあり露國の近世政治史は此觀念を以てして始めて之を解することを得べし古來內地に封鎖されたる露國が外海への門戸を求めむとするや久し彼の彼得大帝は其大々的野心を遂行せんとしてバルチックの海岸を獲扼しカザリン女王亦た黑海の一部海岸を占領したるのみならず次で一千八百四十八年ムラビエフは太平洋沿岸に浦鹽斯德港を開きぬ而かも露國は尙ほ其野心を遂行し得たりと云ふべからず渠は彼北淸事件を奇貨措くべしとなし旅順大連を强請租借するや其不凍港を獲たるの故を以て渠が年來南下の宿望は茲に成就し此港に對してあらゆる施設經營をなせしも悲むべし渠が政治上の橫暴は日露戰爭の結果として皇軍の爲めに占領せられたり然るに露國は尙ほ絕へず地中海に出づるの門戸を開かむとし

て常にコンスタンチノープル及び波斯灣を壓迫し南部波斯に對する英露兩國の葛藤を釀しつゝあるは是全く交通問題の爲めなり

獨逸も亦た能く此要件を理解せるものなること其近世政策の實行上明白の事實なり彼のマーシャル及びカロリン群島を獲得せんとするが如き一見甚だ突飛なるが如く見ゆれども亦其意の存する所を見る可く淸國山東省に於て膠州灣の租借の如きも亦た商業根據地幷に海軍根據地たるの必要に迫られたるの結果なり

米國に於ても亦た國民的膨脹の經過は凡ての方面に於て交通上同一の理由に支配せられしを見る其ルヰヂアナ州を獲得したるは當時西部幷に北部商業の門口たりしミシッシッピー河口の鑰鑰を握らむが爲めに外ならず彼のボルトリコ、丁抹領西印度幷に布哇の占領は地峽運河の把扼を確實にせむとの意思に出で菲律賓群島の占領も領土其のものの價値としてよりは寧ろ東洋貿易上の大根據地として多大の利益を獲むが爲めなり

斯く新領土の占領は一般に歡迎せらるゝを常とすると同時に國防幷に行政の

費用は勿論種々の負擔の之に伴ふものなることを忘るべからず之れ徒らに土地の併呑を事とするものゝ大に一考を要すべき點なり然れども據つて以て直ちに交通線を把扼すべく又た世界の市場に對する足場となすに足るの地點に到りては近世國家の絕對に要求して止まざる所なり蓋し何れの邦國と雖も直接凡ての世界市場と觸接を保つ能はざれば容易に之に達することを得べき地點を占有するを以て最も必要となさゞるべからず彼の新嘉坡及び香港の如き僅々五十餘年以前に於ては殆むど何等の價値なき不毛の地たりしも一度び英國の此土を占領して東洋商業の媒介場となすに至るや一變して重要なる地位を占め其兩地に於ける外國貿易額は墨國貿易の總額と伯仲の間に在ることを見ても明かなりとす

凡そ何れの國家たるを問わず其商業の保護に遺憾なからむことを欲せば其本國派遣の軍艦が外國の港灣に於て石炭或は糧食の供給を受くることなくして商業上重要なる世界何れの部分へも達することを得るを要す造船材料として鋼鐵の使用さるゝに至りし以來世界の造船術は驚くべき進歩をなしたりと雖

も適當の距離を保ちて給炭所の設置なき時は如何ともすべからず而して之等給炭所設置の地點は船舶の通行頻繁を告ぐるに從つて地方物産の集散地として亦た近接せる市場の分支場として常時更らに多大の價値を發輝せむ是に由て之を觀れば殖民競爭場裡に於ける後進國は先進國に對して常に大に不利の地位にあるを免かれず露國は現に此不利を感じて銳意モロッコ幷にエトルリアーの沿岸に足場を作らむことを劃策し獨逸も亦た此缺點を償わんか爲めにあらゆる苦心をなしつゝあり

之に反して米國は最良地點の或ものを把持するの運命に接せり今後最も重要視せらるべき亞細亞との交通線は布哇、ミッドウエイ島、グアム及びマニラの獲得に依りて最も完全なる足場を作り出せりマニラが未來の根據地として恰好の位置たるは決して香港、新嘉坡に劣るべくもあらずボルトリコの地位も亦た地峽運河の開通と共に一層重きを加ふるに至り南北亞米利加幷に歐亞間に於ける貨物集散の中心たるに至るや今より之を想像するに足らむ

輓近交通機關發達の速度は其殖民的關係をして永久的ならしむるの點に於て

絶大の效果を與へたり千八百五十年以前に在りては其殖民地は空間的時間的に母國と相去ること甚だ遠く兩者間の永久的聯絡は寧ろ疑問に屬したり然るに今日に至りて世界の新地域に往來すること頗る容易にして而かも母國との關係益々緊密を加へ玆に殖民地企業に對する社會の注意一般に昂上し來ると共に各國政府は其國民的生存を完ふする爲め各般の施設經營に向つて殆むど全力を傾注せり

參考書

Davidson, John, Commercial Federation and Colonial Trade Policy.

Murray, K. B., "Mr, Chamberlain and Colonial Commerce," Economic Journal, VIII. 21.

Ratzenhofer, F., Wesen and Zweck der politik

Schmoller, G., Haudels-und Machtpolitik.

Halle, E. Von, Volks-und Seewirtschaft,

Flux, A. W., The Flag and Trade.

Charles-Rowx, Notre Marine merchande.

第六節　資本的膨脹

內國に於ける資本の充實が國民發展の一大原因として亦た殖民經營の一大動

機として近世益々顯著の事實を實現しつゝあるは世人の概ね知る所なり前世紀の初葉に際し彼の所謂工業的革命てふもの起りて遂に歐洲の經濟的生活を一變するに至りしが更らに之れに次で他の一大運動起れり吾人は今假りに之を資本的革命と稱せむ抑も第十九世紀は內國工業の全盛を極めたる時代にして當時の英國政治家は該國をして工業の中心たる地位を得せしめむを以て其目的とし自由貿易主義を採れるが如きも亦た實にこれが爲めなり蓋し自由貿易は依つて以て安價なる粗製材料幷に食料品の豐富なる供給を受け又た其自國製造品の爲めに世界の市場を開放せしむるの便あればなり斯くて工業の指導者たる英國は內國商工業の組織をして最も完全に發達せしむるを以て主眼となし又た此見地よりして經濟的生活の全般を觀察せり

然るに此間他の一新運動は漸次其端緒を開くに至れり卽ち英國に於ては富の增殖著しきと共に大に資本の餘裕を生じ非常に有利なるべき資本放下の地海外に發見せられ之れと同時に製品を排斥せむが爲めに保護關稅を實施する邦國あるに當ては英人は此等の諸國に向つて資本を輸入し各種の工場を設立し

てこゝに甚だ滿足なる結果を見たり斯くて英人は世界至る所に放資し幾多の鐵道及び改良事業を經營成效したるは夙に世人の知る所にして彼の露國合衆國は勿論獨逸佛國に於ける製造工業と雖も當時は實に英國の資本に據りて經營せられたりき方今英國が世界第一の債主國地主國として世界産業の大部分を支配しつゝあるは全く資本放下の結果なり然れとも最近に於ける英國商業の有樣が比較的減退の傾向を示すは斯れ各國が專念産業の保護に留意し英國の資本を驅逐したるの結果なり遮莫英國は依然として世界工業の牛耳を秉り且つ世界財政の覇權を握れり蓋し英國が斯かる優勝の地位に立つ所以のものは單に其領土に依賴することなく全世界に亘りて拔く可からざる根據を有すればなり彼の全般輸出の統計が年一年不利の狀況を示すが如きは英國工業の他國工業の爲めに壓倒せられつゝあるを意味するものにあらずして輸入超過の大部分は諸外國並に殖民地に向つて放下せる資本に對する所得なり輓近歐洲の二三列國が英國の例に倣ひ其充實せる資本を海外有利の事業に放下せむとするに至りしは人口の增殖と相俟つて殖民計畫の一大動機とはなれり

資本は實に國境の存在を認めず苟くも有利の方面に向つては恰も水の低きにつくが如く其墨西哥たり支那たり又た西班牙たり露西亞たり將亦合衆國たるとを問わず其之れを誘致する要件にして安全と利益とを具備するあれば彼の感情の如きは殆むど影響する所にあらず而して右二要件中最も重きを置くは安全の點なりとす元來資本家は冒險の念を有すること少なく縱令其利益は多大なるべきも安全を欠ぐの地方に於ては彼等をして資本を放下せしむることは頗る難し然り而して此安全の必要は驀て政治的結果を生ずるの源となりぬ英國資本家が南米、土耳古、並に西班牙公債に放資して屢々大失敗を招き獨逸に在りては其外國公債所有者一千八百八十五年度に於て十三億三千萬馬克は非常に暴落し十七億五千萬馬克は殆むど全損に歸せりと稱せらる其他外債所有者恐慌の狀は英佛執權以前の埃及財政の狀態一千八百八十三年以前に於けるチユニスの破產並に最近の危機に於ける淸國及び杜國の狀態に於て顯著とす加之露西亞西班牙の如き國に於ても政府專斷又は帝室の態度が該國に於ける他國の放資に影響する所頗る大なるものあるを見る

去れば資本家の海外に放資せむとするものが凡て責任ある衡平なる政府の未開地に延長せむことを希望するはこれ自然の數にして方今經濟生活の狀態に於て苟くも富源の存する世界の凡ての部分は之れを確實なる警察秩序ある行政の下に置き以て其打開を安全且つ有利ならしむることの寧ろ必要止むべからざるものとはなれり英國殖民地の債權は南米又は馬爾幹諸國の公債と異なり倫敦市場に於て其確實にして且つ安全なる程度は英國地方債と全然同一なるものと認めらる

以上其概要を述べたる事情の發展は殖民の方法の上に一大變動を生せしめたり抑も在來の如く純然たる商業的企業にありては敢て鐵道を敷設して殖民地の內部を貫通するの最大必要あるにあらず商業の取引は商船の甲板又は海岸の倉庫に於ても行われ得べきものにして斯かる時代に在りては商品の實價以外に多くの資本を放下することなく從て其保護も亦た甚だ易々たり彼の印度亞弗利加沿岸に於ける商業的殖民の如きは全然此性質を有し深く內地に向つて政治的支配權を延長するの必らずしも須要事項にはあらざりしなり卽ち印

度內地の征服の如き商業的發達の之れが機會を供するものありしに拘らず實際に之れが企圖を敢行するに至りしは他の原因卽ち佛國人の野心に對し機先を制するの必要に出でしなり獨り印度のみに止まらず亞弗利加內地に於ける主權爭奪の如きも亦た所謂工業的殖民の開始せらるゝ以前に在ては列國は未だ茲に想到せざりしなり

然るに殖民的活動は今や其面目を一新し從來の如く海岸貿易のみを以てしては最早充實せる資本を滿足せしむるに足らず更らに豐富有利の事業を鑛山の採堀森林の伐採鐵道の布設幷に田甫の耕耘に求めむとするに至れり彼の栽培の事業は本來農業に屬すと雖も珈琲の如き砂糖の如き高價にして複雜なる機械を以て之を大工場に集中して製造するが故に決して往日の如き幼稚簡易なる農業的方法によるにあらず其他各種の製造工業も亦た地方住民の逐日增殖し來る欲望を滿さむが爲めに陸續開始せらるゝの狀態にして實に此等の企業は單純なる商業企業と異なり土地幷に住民との關係甚だ密接なれば土地財產に對する權利の安全鞏固にして侵害又は政府革命の恐なきを要す之を以て行

政の統一幷に貨幣制度の確立の如きは凡て外國若くは殖民地に於ける安全且つ有利なる資本放下の必要條件なり實に方今は彼の從來の如き純然たる商業的殖民の時代と異なり政治的支配權の延長を感ずること頗る切にして現に列國が新地方に於て爭ふて政治的領域を擴張せんとするが如きは一に此理に外ならず

以上概述したるが如く凡そ資本てふものは或る一地方にして秩序ある行政の施行せらるゝあれば則ち以て足れりとし其地の支配權が自國に在ると否とを問はず若し資本にして文明政府の充分なる保護に依賴し何等の故障なく世界の凡ての部分に進入し安穩に新富源の開拓に從事することを得ば元より至幸なりと雖も斯くの如きは蓋し實際に望むべからずして幾多の事情のあるあり て資本をして自國政府の保護を切望せしむ卽ち自國語を以て通用語となし其法制も亦た自國に依るの點のみに付ても既に大なる便利あり其行政上に於ても種々の便益を與へらるべきや明にして殊に最も重要なるは官公事業の請負土地の拂下幷に各特權の附與等にして此等は殆ど外人の望むべからざる事

に屬す

從前に於て各人の外國に放資せむと欲するものは其國債を取得するを以て唯一の方法となし外國政府は其資金を以て自國所要の事業を起し若くば更らに第三者に之を請負わしめたりと雖も現今に於ては之れに反し資本の直接放下を以て寧ろ普通の方法となし資本家自からが富源打開の事業を經理するに至れり例へば獨逸人の貯金は曾て露西亞歐太利及び巴爾幹諸國の公債に向つて放下さるゝを例としが今日に於ては彼の獨逸銀行に依りて經理せられ獨逸技師に依りて建設せらるゝ土耳古及び小亞細亞の鐵道幷に新地方に於ける準獨逸的企業の爲めに吸收せられつゝあるのみならず英國の資本も亦多く英國殖民地若くば英國に支配せらるゝ事業を撰擇せんとするが如し

吾人は前に殖民を觀察して人的勢力に依り高度の文明が低度の文明に加ふる秩序的影響なりと云へり果して然りとせば前述の如き資本上最も發達せる國民は其然らざる國民より更らに偉大の效果を收め得べきや明かなり彼の冒險企業者若くば宣敎師等の如きは一定の事情の下に於ては勿論有力なる影響を

低き文明の上に及ぼすことを得べしと雖も而かも直接布教事業に依りて住民の習俗幷に信仰を轉せしめむことは至難の業にして比較的效果の尠きを常とす然れども住民の經濟的生活を啓發して進歩せる標準に倣わしむることは決して至難の業にあらず文明の工業機械の巧妙幷に其與ふる享樂の增進は最も幼稚なる人民と雖も直ちに之を認識せむ彼の商業上の交通は僅かに境界に於て接觸を保つに過ぎざるに拘らず工業的企業は早く國の中心に透徹し歐米文明の外形的效果は顯然として住民の眼前に現はれ茲に始めて彼等は歐米文明の少なくとも工業其他實際上に於ける優勝卓絶なるを認識するに至り茲に彼等の思想をして文明生活の方面に轉ぜしむ

然るに現今の事實は大に之れと異なるものあり卽ち資本家は一に其集積せる資本の利用をのみ念とし住民の權利幸福其他の事項は毫も之を顧慮せざるの一事なり實に彼等は當局政治家の如く責任の重きを感ずることなければ之れに從つて苟くも財政的及び工業的活動の成功に便なりとせば些の躊躇なく如何なる政治的取引をも敢てし遂には自國政府をして干戈を秉るの止むべからざるに至らしむることあり彼の最近の出來事たる南阿戰爭の如きは種々複雜なる原因の存するあるべしと雖も就中彼の大會社の工業的幷に財政的政策が當時ブールの共和政よりも英國の執政を便としたるは蓋し其一大原因たりしや疑なかるべし

殖民地內部の事項に關し奸猾にして貪婪飽くことを知らざる合同資本の如何に慘毒を逞ふしたるかは屢々殖民地政府をして全然原住民が拾利の道を杜絶せしめたるを見るも明かなり而して之等の最も著しき一例は印度支那其他の佛國殖民地に於ける耕地拂下の方法にして印度支那の或る部分に於ては戰爭中土民の避難しつゝある間に彼等の所有地は自由に佛人の爲めに不渡され戰やむの後土人等の避難地より歸來するや佛人は傲然として地主と稱し苛虐至らざる所なく土地耕耘の改良の如きは敢て其念とする所にあらず嗚呼非道も茲に到て亦た甚だしからずや英國殖民地に於ては原住民をして漸次祖先の遺産を奪わるゝが如きことなからしめむが爲め合同資本の蠶食的傾向に對し絕へず其警戒を嚴にせり

之を要するに近世に於ける殖民的投資事業は漸次國家的性質を帶び來り國家に向つて保護を求め國權の扶殖と相俟つて以て活動の範圍を擴張せんとせり即ち政治的能力の維持並に扶殖に向つて密接の關係を有する鐵道の布設が國家又は國家の保護に依りて經營せられつゝあるを見るも之を察するに難からずこれ殖民其物の性質が永久的なると共に國家施設に適する所以なればなり上來論述の要旨より殖民的膨脹の原因を列擧すれば左の如し

(一)人口の增殖と經濟的分配の不公平より生ずる殖民　獨逸人伊太利人の米國に移住するが如し

(二)冒險心又は企業心より生ずる殖民　例へば南極北極に航行し又は未開の地方に到るが如き是なり

(三)致富の希望に駈らるゝ殖民　例へば貴金屬香料等を得むとの希望より濠洲、カリフオルニヤ及び亞弗利加東海岸に於ける殖民の如きは此一なり

(四)政治上、社會上及び宗教上の關係よりする殖民　例へば新教徒を北米に逐ひしが如き或は加特力教徒のマリーランド殖民地を建設せしが如き之れに屬す

(五)工業及び商業上の必要より生ずる殖民　所謂市場の擴張なるものにして內國過剩の製造品の賣捌きを海外に需むるの必要より生ずるもの之なり

(六)國家の權衡維持よりする殖民　例へば殖民に關する英佛の競爭の如き或は支那に於ける列國の特權伸張の如き即ち之なり

參考書

Reinsch, Paul S., The World's Politics.
Worsfold, W. B., South Africa.
Leroy-Beaulieu, P., De la Colonisation chez les peuples modernes, pt. II.
Hobson, J. A., The War in South Africa.
Greswell, W., The British Colonies and their Industries.

第五章　殖民の條件

殖民は前既に說明せしが如く之を具體的に云へば或る人種の地理的移動にして之を抽象的に云へば文明展開の一方法なり即ち同一國性の者を國外に移送するものなるが故に之を行ふ場合には本國は次に擧ぐるが如き諸條件に注意

せざるべからず

第一節　文明の程度

殖民計畫の先決問題として考察すべきは殖民を送らむとする地方の文明程度が本國卽ち殖民を出さむとする國の文明程度に比し如何なる地位に在るやを測るに在り殖民の條件として最も必要なるは比較的文明の國より比較的文明ならざる國に向つて同一國性の人民を移殖せしむるに在れば其本國が比較的文明の國たらざるべからざるは無論の事に屬す然るに若し其地方にして政治經濟の狀態が本國のそれと同等の地位にあるか然らずとも相當の進歩をなし居るものならむには此土に移住したる殖民が其地方の人民を同化するを得ざるのみならず遂には其國民性をすら維持する能はざるに至るべし方今歐米列國が爭ふて亞細亞、亞弗利加の地に殖民地を設定し茲に殖民を計畫しつゝあるは蓋し之等の地方が此條件に適合せるが故に外かならず然るに若し此條件を具備せざる殖民例へば我が帝國民の合衆國に移住するが如きは之を眞の殖民

と云ふを得ず

第二節　需要の狀態

何をか需要の適否と云ふかは各國の狀態に於て各々異なる所あり例へば生産の超過しつゝある邦國にありては其消費に適當せる地方を需め資本の充實せる邦國にありては其放下に適當なる方面を要するが如し然りと雖も現今は往古と異なり世界到る所無主の地なきを以て本國民を移送する場合に於て豫じめ其欲望を表白し之に適當なる地方を撰定するの餘地なく只だ必要條件として常に留心施設する所あるべきなり

第三節　風土氣候の適否

凡そ殖民は永住土着すべきものにして彼の一時的移住の如きとは大に其性質を異にするが故に其風土氣候のよく殖民に適するの地方を求めざるべからず左れば如何に豊饒にして遺利滿々たるも氣候風土の殖民に耐へざるが如き地

方は以て殖民地となすことを得ずこれ徒らに移民の死亡を招くのみにして殖民の目的を達し得べきにあらず然れども方今熱帶地方に於ける殖民が之を往日に比し着々效を奏しつゝあるは衞生思想の發達預つて力あるものと云ふべし

第四節　地理上の便否

是亦注意すべき要件の一にして其本國と殖民地とが地理上の不便より殖民事業の往々失敗に終りたるの事實元より少なからずと雖も近世交通機關の發達と共に這般の不便漸次其跡をたちつゝあれば此は左まで重視すべきにあらず

第五節　移殖地方の政治狀態

移殖地方の政治的狀態に留意する亦た其條件の一なりと論ずる者あり彼の支那人が米國に移住し漸く經營の端緒を開きたるに際し支那人放逐令の發布せられ其財產上莫大の損害を來せしが如きは本國政府が彼地の政治狀態に注意

せざりし結果なりとし斯くの如きことなからむ事を警告するありと雖も這般の憂慮は寧ろ屢々起る所なるを以て要は啻だ斯の如きの變に處するの覺悟を以て移民の事に當るべきのみ近き例を擧くれば英領加奈太政府が我が帝國民の移住を制限するの目的を以て移住民に對し國語試驗を施行し或は前住移民に對し公の勞働に雇使せざる法律を發布したるが如し其他本國の富强なると海軍力の强大なること及び人口の過剩なること等をも條件中に數ふる論者あり虎視眈々たる世界の渦中に投じて殖民の安寧を保持し殖民地の保護をして遺憾なからしむるには本國の富强にして海軍力の充實を期すべきは論ずる迄もなく其人口の過剩なるべきも亦自ら明白にして實際殖民の多くは人口過剩の際に發動する現象なり

參考書

Morris, H. C., History of Colonization.

Leroy-Beaulieu, De la Colonisation chez les peuples modernes.

Pierson, A. G., Kolonial politik.

第六章　殖民の利益

殖民の國家に及ぼす效果の大なるは普く世人の認むる所なれども今編次の體裁上之を政治上、經濟上、社會上、學術上及び精神上の五點よりし其觀察の概要を陳述せむ

第一節　政治上の利益

政治的方面より之を觀察するに苟くも廣大なる領土を獲得し之を維持せむには順次本國と聯絡するの飛石なかるべからず英國が東印度に廣漠たる版圖を有し確實に且つ安全に之を統治し得るは地中海紅海及び波斯灣の沿岸に其飛石たる領土を占有するが故なり曾てビーコンスフィールドが下院の協贊を俟たずして蘇西運河會社の株券を買收したるが如きは元より僭越の行爲たりしに相違なしと雖も此間の消息を解する者は其適當の措置たりしを賞贊せり英佛戰爭に際し英が極力トランスバールの地を爭ひしが如きは他に幾多の理由

の存するありと雖も亦た埃及と喜望峯殖民地との連鎖を斷絕せらるゝを恐れたるに因らずんばある可からず而して其飛石なるものは卽ち交通線の要衝に在る殖民地にして云ふ迄もなく殖民は母國政治上の勢力を發展し以て其富力を增進せり英國が印度を領有するが爲めに偉大の國力を要するは一般識者の是認する所にして獨り英國のみならず其他の列强が一意殖民政略に依つて政治的勢力の扶殖に汲々たるは寔に現今の大勢なりとす

今や西伯利亞鐵道成り蒙古鐵道亦近かきに就らんとすパナマニカラガの運河成り支那內地鐵道の敷設完成し歷山港より中央亞細亞を橫貫して上海に通ずる英國大鐵道の設計其目的を達するの曉に至らむか殖民は益々文明人種を亞細亞の各地に散布し延ひて政治的勢力の移動を生ぜしむるは是れ必然の事に屬す論者或は曰く亞細亞は世界政治の中心となり東西の文明を融合して平和の樂境たらしむるに至らむと吾人は直ちに之に左袒するものに非らずと雖も今後幾百年の未來に於て或は此事あらむかを想像するものなり

第二節　經濟上の利益

經濟的効果を知らむとするには之れを分つて其生產上及び分配上の二方面を觀察するを要す.

生產上より觀察する時は(一)自國生產物の販路の擴張せらるゝこと(二)原料を廉價に購買するを得ること(三)自國の貿易を發達せしむること(四)商業政策の獨立を期し得べきこと等の諸利益を數ふることを得べし而して彼の殖民地は其農業地たり工業地たるとに論なく本國貨物の好市場として年々莫大の輸入を受け且つ工業的原料品を廉價に本國に供給するは殆むど自然の關係と見做し得べく一國內に於ける生產の過剩は經濟界の不振を醸成し原料品の欠乏と高價なるとは其工業を萎靡せしむ然れども殖民地在りて之を救ふに至ては本國の利益亦尠からすと云ふべし既に廉價なる原料品の供給を得るあれば工業勃興し其製造品は殖民地に輸送せられて過剩を告ぐることなく斯の如くにして經濟界の狀況良好となれば玆に內外の貿易勃然として興り商業政策の獨立を期し得て激烈なる平和の戰場に對陣するを得べし我が日本の紡績業の如く原料を海外に仰て其販路を支那一國に止むるが如きは其發達を迅速ならしむる所以にあらず是れ僅かに一例なりと雖も亦以て其殖民地の有無が產業上多大の影響あるを證するに足る

之を分配上より觀察する時は(一)人口の過剩を節制し(二)貧困者を減少し(三)本國の商工業を隆盛ならしむると共に國民に職業を與ふるの利益あり人口の過剩は生活の困難を惹起し貧困者の數を增加するものとして無職の徒及び貧困者の增加は自ら亂を好むの輩を養成し社會の秩序を紊り一國の經濟を不振ならしむ而かも殖民地の建設成り過剩の人口を移殖すれば之より生ずる諸弊害は皆な悉く除去せられ商工事業振起すべし彼の英國が嚢爾たる一小島國にして殷富四海に冠絕せる所以のものは其殖民地の廣大にして人口の分配其宜ろしきを得たるに由る

斯くの如く殖民は母國の過剩物品を需要し工業原料を供給して本國との貿易を活潑且つ確實ならしむると共に消費的貨物の開拓をなし(南洋に於ける天然

食料品の收獲の如き是なり)又た經濟界の活動を增進せしめむが爲めに產物の消費場を開設し或は牛馬羊豚等の如き有益なる家畜の輸送をなして世界の各地に盛大なる牧場を開けり又た殖民は本國の爲めに確實なる投資場を開きて資本家を利せしむる等這個經濟上の效果は之を枚擧するに暇あらず

第三節　社會上の利益

人口增加の結果が經濟上の分配に不公平を來さしむるは蓋し避くべからざるの事實にして共產主義玆に發し社會說玆に起りしは學者の均しく認むる所近に於ける器械工業の進步は彼の分業制をして殆んど其極に達せしめむとするの觀を呈す而して資本の勢力は貧富懸隔の度を顯著ならしむると共に無職無產の徒は日に月に增加せり玆に於てか歐洲列國殊に獨乙の如きは大に殖民を奬勵して社會の秩序を維持せむことに留意せり社會上に於ける殖民の效果は其社會に地位職業を得る能はず不平滿々たる徒を駈りて以て殖民地の人たらしめ適當の職業を授得せしむると同時にかねて本國社會の秩序を維持せしむ

第四節　學術上の利益

殖民は自然の事實及び自然の法則の研究の爲めに學術上に宏大なる地域を供給し新智識を得せしむるの方便なり

第五節　精神上の利益

殖民は異人種をして近接せしむるが故に人種間の誤解を消滅し劣等人種に對する感情を懷柔せしめ引て世界の平和に至大の貢獻をなさしむるの效果あるのみならず又た殖民地は本國に於ける政治上及び宗教上の壓迫を避くるが爲めの渡航者に對して慰安の樂土たり信仰を完ふするの天國たりしは近世歷史の證明ずる所なり。

第七章　殖民の故障

本章の參考書としては前欄の諸書を見るへし

前章論述せしが如く殖民の事業は効果多き事業なると共に又た費用多き一大事業なり茲に於てか殖民地の領有を以て危險且つ不利なりとなし彼の亞米利加殖民地の分離獨立せしを見るや殖民地は將來必らず本國と分離すべきものなりてふ憶測を基礎として殖民地放棄論をすら唱道する悲觀論者を輩出せしめぬ然りと雖も吾人は信ず亞米利加の獨立は英國の政策其宜敷を得ざりしが爲にして其之を誘致したる一大原因は國民の殖民地を以て不利となし之を厄介視せしに在りたるを又た信ず西班牙の南米殖民地に於て其勢力を失墜せしは內政の紛叫に焦心したために殖民事業を顧慮するの隙なかりし或は其一原因ならんも更に深く是を觀察する時は彼の英國と同じく殖民的經營を徒閑に附して之を顧みざりしことの寧ろ却つて大なる原因たらずばあらず若し夫れ西班牙政府にして其政策宜敷を得永く本國との關係を持續したらむには上述の如き諸般の利益を獲たりしや殆むど疑を容れず

今殖民事業に對する故障に關し論者の議論を類別せば(一)財政上の故障(二)人民移住の故障(三)殖民者の不德行爲(四)本國分離の故障の四種となすを得べし

第一節　財政上の故障

論者或は曰く殖民地に要する百般の費用は本國々民の負擔にかゝるものにして其財政は不足を告ぐるを以て常となすが故に殖民事業は遂には本國を衰頽せしむ可く其到底不可能に屬するは言を俟たずと又曰く殖民地にして其が財政を支持するを得るに到るの秋は本國主權の下に服從せずして分離獨立を欲する故に殖民地領有は却つて本國の危害を來たすの懼ありと或は曰く殖民地に要する費用は直接に生產的なるもの尠く而かも殖民地に要する費用の大部分は或る一部の資本家を利するに過ぎずして細民の爲には何等直接の效果あるなしと

斯くの如きの愚論は到底識者の一顧だに値すべきものにあらず何となれば殖民は永久的性質を有するものなるが故に其草創に際しては本國政府の莫大なる出費を要すと雖も漸次殖民地の膨脹に從ひ本國財政の補助を受くることなく獨立の生活をなし遂には本國を益するに到るべし元より殖民地の經營に向

つて要する費用の大部分は彼の道路の開鑿港灣の設備等直接生產的事業の放資にあらずとするも殖民地を開發し事業の旺盛を期せしむるには主として是等の設備に俟たざるべからず而して是等の事業に要せし費用は殖民地の隆昌に赴くと共に優に回收され得べきは無論の事に屬す杞憂論者は米國の獨立せしを見て其殖民地たるや遂には必らず分離獨立すべきを唱ふると雖も本國政府の政策にして其宜敷を得るに於ては決してかゝる現象の起るべきものにあらず彼の所謂一部の資本家のみを利し細民の生活狀態に何等の效果を及ぼさずとの說論に到つては經濟の原理を解せざる一知半解者流の囈語として只だ之を一笑に附せむのみ

又說をなす者あり曰く殖民地領有の目的は自國々民の幸福を增進するを以て主眼とするにあれば若し財政上の餘裕あれば之を海外殖民地に投下せむより は寧ろ國內慈善事業及び社會改良事業に使用すべしと是一理あるに似たりと雖も猶は缺くる處あるを免れず何となれば資本移轉の利害上本國經濟の發展殆むど其極に達したる時充實せる資本を海外殖民地に投下せんとするに當り

尙は國內に投資の餘地ありとし消極論を主張するは策の得たるものに非らざればなり

之を要するに如上の問題は資本其物の性質より立論し金利の多寡如何に依りて直ちに之を決することを得べし若し本國に於ける事業殖民地の事業に比し多大の利益を獲得するの見込ありとせば資本は決して海外に放下すべきにあらず蓋し殖民地に於ける資本の放下は事實上概ね冒險的性質を有するものなれば本國資產を悉く之に傾注すべきものに非らず假し理論上是ありとするも本國資本の欠乏は頓て金利の上騰を意味するが故に資本の欠乏或る程度に達すれば實際に於て是を見ること殆んど無し故に殖民事業の經營は本國の資本を欠乏せしむるが如きは決してなかるべく相共に事業の發展を促し以て財政の豐富を致さしむ英國の如きは其の好適例なり以て其の證と爲すに足る

第二節　人民移住の故障

本國人民の他國に移住するは或る意味に於て本國人民の喪失なりと論ずる者

ありセイ氏の如き其の一人なり人口の增加今日の如く著しからざる往時の國家にありては耕すべきの土地起すべきの企業亦た甚だ多きに比して人口の寡なかりしは爭ふべからざるの事實なり斯くの如き場合に於て人民の海外に移住するは一國の生產力を減退せしむるものにして確かに國民の喪失なり玆に於てか當時の國家は國民の移動に關し種々制限を加へ以て移民を防がんとせり

然りと雖も近世にありては人口は非常なる勢を以て增殖し來り一國の面積と產業とは到底爾かく增殖しつゝある人口に職業を與ふる能はず勢過剩の人口を海外に移殖するに至りしは當然の事に屬す換言すれば方今の殖民は經濟上の自然原則に從へるものにして一國經濟上より觀るも將亦世界經濟上より察するも這個殖民的膨脹は最も效果あるものなり而して此等過剩の人口は本國貨物の消費者として異域の天地に活動し第二の本國を形成して益々國民的勢力を發展するものにして國民の移住を目して國民の喪失なりとするが如きは既に過去の夢とはなりぬ

第三節　移住民の敗德行爲

移住民の異人種に接觸するや社會的制裁の存せざるを奇貨とし往々にして不倫橫暴の行動に出でしは殖民歷史の之を證する所なり西班牙人が其當初亞米利加に殖民地を開設するに當りあらゆる慘虐を擅にせしが如きは其最著名なるものにして其今日に至るも學者或は尙ほ之を說きて西班牙國力の萎靡と爲し白哲人種の殖民は二等國又は三等國の人民に對し人道無視の行爲あるべきを聯想して殖民事業に對して種々の憶測を逞ふせり然れども最近の殖民は全く之等の跡をたちたる耳ならず反て土人の風敎文化衞生職業等に至大の恩惠を與へつゝあるは吾人の既に說明せし所なり

第四節　風土氣候の故障

風土氣候の適否は殖民の一條件なること前に一言せし所なるが彼の熱帶地方殖民不可能論が方今衞生及び科學の進步に伴ひ白人と雖も風土氣候に打ち勝

ち得るの事實を示す今統計に依れば一千八百三十七年より一千八百四十八年に至る佛領アルゼリーの死亡者七割七分なりしも現今一割一分乃至一割二分に減じ又た一千八百八十一年に於けるチユニスの死亡者は六割一分なりしも現今一割二分に減じ又た一千八百十九年より一千八百五十五年に至る佛領アルヂーユの死亡者九割一分なりしもの現今は一割八分乃至二割二分となり一千八百六十一年交趾支那に於ける死亡者十一割五分なりしも現今は減じて二割一分となり一千八百四十七年に至るゼネガルの死亡者十四割八分なりしもの今に於ては二割八分六厘となり一千八百十九年より一千八百二十八年に至る蘭領印度の死亡者十七割なりしもの今は減じて一割六分となり一千八百五十年香港の死亡者九割五分なりしもの方今に在りては二割四分となり一千八百年より一千八百三十四年に至る英領印度の死亡者八割四分なりしもの今は減じて一割八分となりしを見ても之を知るを得べし

第五節　本國分離の故障

論者或は北米合衆國の獨立及び南米に於ける西班牙殖民地の分離を見て殖民地は將來必らず本國より分離獨立して一國をなすが故に廣大なる土地の領有は蓋し不利益なりと云ふと雖も斯くの如きは本國の政策其宜敷を得ざりし結果にして論者の言は何等一顧の價値なきものと云ふべきなり

殖民者の內には或は本國政府の抑壓に堪へず或は社會制度に嫌焉たるの餘り或は宗教上の利害を異にするが爲めに移住せし者なきにしもあらず而してかゝる移住民は常に本國に對する友愛の念慮を缺げるが故に殖民地の漸次生長すると共に彼等の子孫は或る動機例へば本國政治上の動搖の間に乘じて分離獨立を企圖する在りと雖も本國政府統治權にして鞏固不動の根底を有するあれば彼等の企圖は到底其目的を達する能わざらん而かも歐洲方今の狀態は殖民の前提として過剩の人口を海外に移殖し以て國民をして經濟的活動の自然徑路によらしむるに在れば殖民地は其本國と何等感情の衝突を招致するなく事情疏通し利害聯關して相互の福利を增進し來りぬ茲に於てか本國政府は殖民政策上の進步的統治方法として殖民地發達の程度を參酌し以て自治制を施

行し且つや其列國商業上の競爭に對しては關稅同盟の下に相互の聯絡を一層強固ならしめむとするものあるに於てをや

參考書　前揭の諸參考書を見るべし

第八章　人種の盛衰

殖民は一方に於ては人種の移動たると共に他方に於ては文明の發展の方法なり人種の移動及び觸接が世界將來の文明に如何なる影響を及ぼすべきやは吾人の常に研究せむと欲する所にして殖民學上人種盛衰の如何を尋ぬる蓋し亦た無用のことにあらざるべし

第一節　人種の分類

世界の各地に棲息せる人類は各其體格容貌健康性質言語風俗習慣等を一にせず一見直ちに其人種の異同を識別するに難からず只だ其世界の全人種を何種に區別し何地方の人間と何地方の人間とが同種なるべきやを決定するは甚だ

困難なる事に屬す古來學者多く人種の說をなすと雖も其歸着する所必らずしも一ならず或は十一種とし或は十五種とし十六種とす彼のブレーメンバッハ氏の分類は永く世人の信用したる所にして其分類によれば高加索人種、蒙古人種、馬來人種赤印度人種及び黑人種の五種なりと云へりハックスレーも亦た五人種說を主唱すと雖も其名稱は同じからず敎授は之をキサンスクロイック(純白人種)メラノクロック(鈍白人種)モンゴロイド、ネグロイド、オーストラロイドの五種とせり然れども斯くの如きの名稱は在來慣用のものと異なるを以て通俗の分類としては稍や難解の嫌あるを免れず今其結果を同じくして其名を異にする分類を示せば

(一)アーリヤン人種——(純白の皮膚と金髮の種族——スカンヂナビア人等
　　(淡白の皮膚と漆髮の種族——印度の上級人種等

此の人種は愛蘭土よりガンジス河に至る間サハラ沙漠印度洋以北の地方に住す

(二)モンゴル人種

ラブランド遲羅の間に住し馬來半島及び其近海諸島に住する者は同く此種にして稍變化し大平洋諸島及び亞米利加に住する者は更らに甚く變化せり

(三)ネグロース
中央及び南部亞弗利加に住し尙印度洋中の諸島に棲息せり

(四)蒿色人種
印度古代の住民濠洲の土民及び埃及アビヤ人等

以上の分類を更に記憶に便ならしむるが爲めに色を以て之を分ちアーリヤン人を白人となしモンゴル人を黃人となしネグロースを黑人となすの例あれどもアーリヤン人種中ヒンドスの如きは之を白人と呼ぶは聊か不適當の感なき能はず

第二節　人類の原始

前述の如き諸人種が其容貌體格言語性質風俗を異にし殊に嶮山大津を隔て相棲息せるの事實より推論し人類の原始は一つならずと論じたる學者も亦尠か

らず然れども地質學の進歩と共に地球が人類の棲息に適當なる狀態に至りたる順序明白となり且つ博物學の進歩につれ進化の理法の發見せられたる以後人類の原始は一つなりとの學說勢力を得來り今日は殆むど之に歸一したるが如しダーウヰンはプレーメンバッハ、ブリカード等の人類一原說を祖述し佛國有名なる人類學者コートルフェージユ氏の說に曰く第三期及び第四期の地層時代には旣に人類の棲息したるの痕跡ありと雖も其始は地球上の一定の地に原人發生し其子孫年を逐ふて繁殖し四方に分離するに至りしなりと而して一原說に對する疑問は其の當初未だ發生せざる人類が嶮山を越へ滄海を渡り世界の全部に普及したるは何故ぞとの一事とすレール氏之を通俗的に說明して曰く地球上の人類全滅して只だ一家族のみ生存し其一家族は亞米利加の一角が濠洲の一隅か或は又た太平洋中の一孤島に在りとせよ然るときは吾人は其後幾十百年を經過したる時に於て其家族の苗裔等が漸次地球上の各部に散在する事のあり得べきを否定する能わず誰れか又た其家族か永遠に其祖先の地以外に出でざるを思

第三節　人類の發生地

人類の原始は何所に發したるやの問題は殆むど空漠にして捕捉すべからずと雖も現今に於ては亞細亞の一地方たりしとの說最も勢力あり若し夫れ地質學上地理學上の研究にして謬なくば地球上の溫度は過去に於て現今よりも高度になりしとすれば其原人の棲息地は案外北方の地にしてヒマラヤ山とアルタイ山との中間なる一帶の高原にあらざりしか蓋し地球上他所に見ざる所なるに拘らず該高原は上記人種の四大系が今尙ほ共に棲息し言語の三大系が共に存在し太古の家畜が今尙ほ其存在を保ち居るを以てなり

方今地球上に於ける人口を大約十五億と假定すれば其內十四億はアーリヤン人及びモンゴル人にして其兩者の數は大差なく其の他八千萬はネグロース壹千萬は黃色人貳千萬は殖民地發達後に於ける混血種の數なるべし而して之等の人種は互に生存競爭をなしたりしと雖も其最も激甚を加へたるは一千四百

九十二年新大陸發見以降の事にして十六世紀の頃歐洲より南北亞米利加及び濠洲に向ひアーリヤン人種の大發展をなし他人種と相接觸するの機會を多くしたるの秋に始まる

第四節　歐洲人と他人種

第十六世紀以降アーリヤン人種が空前の大發展をなし世界の他人種に接觸したるの結果は征服となり滅亡となり將た亦た混和となりぬ當初西班牙人の西印度諸島に臨むや其結果は土着人種の滅亡となりヒスパニオラ發見の當時に於て百萬乃至三百萬と算せられし土人が僅々十五六年の間に六萬の小數となりしは寧ろ信ずべからざる程の減少にあらずや然れども中央亞米利加及び其以南の地に在りしモンゴリヤ人種は幸にして左迄甚だしき壓迫を受けず雷だ征服されたるのみにして漸次白人の血と混和するに至りきコートルフェージュ氏の說によれば墨西哥及び南方亞弗利加に在る白人と土人との混血種は殆むど全人口の五分の一を占め葡萄牙人は亞弗利加及び印度に於て其土人と混

和したりと

佛蘭西人は他人種との接觸に於て未だ特に注意すべきの結果を實現せず蓋し彼のアルゼリヤ、タヒチ及びマダカスカル等を獲たるは近年の事にして占領後多くの年所を經ざるを以てなり而かも其人種のラテン種族に屬するを以て之を察すれば西班牙人と同じく他人種との混和或は遂かなるべきか

和蘭人は他人種と接觸するの點に於て其チユートニック種族たるの特性を發輝して以て混和を困難ならしめ從て土民は人口減少の傾向を示せり嘗て其亞弗利加の南端に殖民するや其地の土人は黃色人又は鳶色人とブッシユメン及びホッテントット等黑人種との雜種族にして體力强壯ならず性質亦た遲鈍なりしかば和蘭人は之等劣等の人種を目して正敎徒と齒すべきものにあらずとなし慘酷にも彼等を消滅せしめたり然れども和蘭人のジャバに於て施せし所は全く之と異なり其目的とする所はジャバの土人を滅亡して自ら此地に殖民をなさむと欲したるにあらず其土人を利用し土人の生產物を獲て依て以て巨利を增加せむとせしにあり然れ共和蘭人は彼等と土人との混和を好まず衞生

上の事は之を酋長に委ぬるも政治上に干與するを許さず白人にして酋長の顧問となり從僕となるを許さず又た白人土人間の結婚を許さず土人を敎育し之に宗敎を信奉せしむる等の事も亦た和蘭人の好まざる所にして彼等は却つて英國が印度に施せる政治を以て自殺的政策なりと嘲笑せり英人は重大なる殖民地を有する當然の結果としてあらゆる人種と接觸しぬ然れども其各人種に對する接觸の結果は必らずしも一ならず亞弗利加の黑人に對するや當初慘酷なる待遇を試みしこと亦た他國と異なるなかりしも黑奴賣買の禁止に際して極力之が勵行に努め特に其取締の爲めに軍艦を派遣したり而かもアルコール貿易の盛大を致すや英人は容赦なく之を土人に賣却し以て其土人に財產上及び身體上の損害を與へしこと甚だしく過激論者は奴隸賣買に代ふる一新罪惡なりと痛罵するに至れり而して亞米利加印度人に對しては渡航移民が其土人を驅逐し其土地を占取せむが爲めに詐欺的手段を弄し殘忍なる所業を敢てしを極めたるは歷史の證する處にして世人は英人の爲めに之を惜めりコートル

フェージュ氏記して曰く余は濠洲土民の記事に入るに當て甚だしく不快を感ぜざるを得ず何となれば白人が彼等に加へたる無慈悲極まる所業は人類の最大罪惡なりしなりと又た獨逸人グルランド氏はタスマニヤの土人に付き記して曰くタスマニヤの土人は白人の文明の爲めに滅亡したるにあらずして野蠻の爲めに滅亡したるなりと以て如何に白人が土人の頭上に野蠻の行爲を敢てせしかを想像するを得べし英人の接觸亦た差異あるものにあらず前述の如く世界の各人種は白人の爲めに淘汰され否な滅亡され今や世界は白人の舞臺たらむとせり彼の數に於て白人を凌ぎ白人に對抗せんとする者は獨り蒙古人種の存するありと雖も其知力と富力との點に至りては決して優るものと云ふべからず其或は年と共に衰滅に就かんかは蓋し太なる疑問たらざるを得ず然りと雖も白人の文明が黄人によりて齧噛され消化されし曉は彼の白人に對抗するの困難ならざるは吾人の深く信ずる處吾等黄人たるもの務めざるべけむや

元來人種の相違は之を人類一原説の根據より觀察すれば左迄重要視すべき性

質のものにあらず又た人種によりて個々別々に國家を組織するにあらざるが故に之を一國の政治より觀察するも元より大なる問題にあらず左れば人種別の觀念は數千年來わだかまれる誤解に過ぎざれ共之を消さむと欲して消すべからす盛んに之が異同によりて根本的優劣あるが如く考へ互に他を排斥せんと欲するものなり黄禍論の如き亦た其一つなり

嗚呼黄禍と云ふか吾人は敢て人種の差異によりて黄禍の起因を說く者にあらず只だ吾人の理想とする所は極東に辟在せる日本帝國をして世界の最大强國たらしめむが爲め渠れ白人の嫌忌嫉妬に對し毫も躊躇する所なく世界の各所に活歩せんと欲するものにして一日も早く之を實現せられむ事を切望するものなり

參考書　本章參考書としては前揭の諸參考書を見るべし

第九章　殖民の方法

殖民計畫は各種の方法に依りて行わると雖も今之を大別して個人的殖民方法

及び國家的殖民方法の二種とす(個人的計畫に依る各種の殖民に付ては編次上本論第四章殖民の動機の各節に於て詳說したれば本章第一節には特に結社組織による個人的殖民方法を論ずるに止むべし)

請ふ先づ個人的殖民方法より之を論ぜむ

第一節　個人的殖民方法　(特許會社)

近世に於ける殖民的膨脹の盛時に當り常に殖民の指導者となり母國の爲めに直接支配の根底を作れる最も重要なる一機關は卽ち特許會社なり

此等の會社は主として商業の特權と主權の一部とを委附せられ其會社のみが獨り殖民地に於て商業を行ひ其好む所に從て商品の輸出入をなし若し此會社にして外國よりの貨物輸入を欲せざるか或は內國產品の輸出を欲せざる時は其意に從て輸出入を禁止す而して又た彼の占領地域の上に殖民をなさんことを欲する者あらんか實に之が許否の權能を有せり而かも又た此會社は何等の租稅を拂わずして母國の港灣內に殖民地の生產品を自由に輸出せり會社は又

た本國政府の委任によりて主權の一部を行使し自由に稅額を定めて租稅を徵收し吏員を任命して裁判を行ひ且つ宣戰媾和の權をすら有したり

前きの盛時に於て設立されたる多くの會社は殆むど殖民の基礎を作くりしものと云ひ得べく殖民的汎般の施設經營は懸つて會社の雙肩に在りたり當時主要の英國會社は商人冒險會社(一千四百〇七年特許)を最先としヴァジニヤ會社、マサチユセッツ會社、倫敦東印度會社之を繼承したる英國東印度會社、帝國亞弗利加會社及びハドソン灣會社等にして其他國に屬するものに在りては和蘭東印度會社、和蘭西印度會社並に佛國東印度會社を初として多數の佛蘭西、和蘭、普魯西、丁抹及び瑞典の小會社なり而して其活動の區域並に存續の點より觀て就中最も重要なるは英國及び和蘭の東印度會社とす

凡そ之等會社の主たる目的は一定の地域內に於て商業上の獨占的利益を恣にせむとするに在りしが故に當初其行使せる政治的權力は只だ此獨占權を防衞するの範圍を出でずして其地域內の土人に對する統治權を得たるは寧ろ偶然のことに屬す而して此等の會社は當初敢てかゝる主權の要求を主張せざりし

のみならず其之を得たる後に於ても之に由りて地方的習慣並に制度を歐化せしめむとせざりしなり彼の英國東印度會社が初めて政治的活動を敢てするに至れるは英國人を壓倒して獨り印度の商權を恣にせんとせし佛國人の隱謀に對し機先を制し自衛の道を開きたるに外ならず其却つて佛人の隱謀を打破し得たるの後に於ても尙は久しく從來の域に滿足し土人の政治的並に社會的制度に對して非干涉主義を嚴守せり次に和蘭東印度會社に至つては更らに單純なる商業政策を墨守し一に商業の獨占を擁護し商業の便宜を圖るに努めたるのみ茲に於てか和蘭殖民地の土人は元より會社の勢力の下に立たざるを得さりしとは雖も幸に政治上並に社會上の迫害を蒙むるの懼なきを得たり

特許會社は實際上政府より何等の拘束を受くることなく其行動は一に會社の自由意思に基き其政府の嚴格なる監督の下に立つに至りしは第十八世紀の末葉なりとす抑も特許會社の最盛時代は第十七世紀にして就中其大會社に在りては政府の干涉を受くるも尙は能く其事業と勢力とを持續するを得たりと雖も最早同世紀の末葉に於ては特許會社は實際上既に其使命を終り漸く其要を

失ひたるものと云ひ得べし和蘭東印度會社は一千七百九十五年その權力を政府に移し英國東印度會社も亦た之れと相ひ前後して商業上の獨占を失ひ只だ英國君主の受託者として一千八百五十八年に至る迄印度の政務を管掌したるのみ而して有力なる此種の會社中ハドソン灣會社は一千八百七十年を以て其領土を政府に移したり

然るに此等の會社が歷史の舞台より退くや嘗て其興隆活躍を促したると同樣の事情再現し社會人心は茲に再び殖民的膨脹に熱し前きには豐富なる新國の所產を爭へるもの今は專ら新領土の擴張を競ふの小差を以て再び幾多特許會社の設立を見るに至り而して今此第二の殖民的盛時に於ける最も著名の特許會社を擧ぐれば凡そ左の如し

英國北ボルネオ會社	一千八百八十一年設立
ロヤル、ニガー會社	一千八百八十六年同上
英帝國東亞佛利加會社	一千八百八十八年同上

英國南亞特許會社　一千八百八十九年同上
獨逸ニユーギニア會社　一千八百八十九年同上
獨逸東亞弗利加會社　同上
葡萄牙モザンビック會社　一千八百九十四年同上
國際コンゴー組合　一千八百七十九年同上

就中北ボルネオ會社は古制度復活の濫觴たるの點に於て又た南亞特許會社は財政の鞏固と政治的勢力の旺盛なるの點に於て特に注意をひくに足る又た國際コンゴー組合は遂に獨立國家を現出せるの點に於て他に類例を見ず然りと雖も君主として白耳義王を戴けるの故を以て他日或は白耳義の附屬國たるに至らむ

北ボルネオ會社はサー、アルフレッド、デントがブルネイ及びスールーの君主より重要なる割讓及び特典を得て之を組織したる所ありブルネイ君主は彼に與ふるに北ボルネオに於ける完全なる主權(住民に對する生殺與奪の權幷に完全なる領主權の行使を含む)を以てしスールー君主は英國政府の同意無くして之

を他國民に讓與すべからずとの條件の下に同樣の權能を與へたり卽ち同會社は此讓與を得て一會社を組織し其地位權能に關し英國政府の確認を要請したるも時の保守黨內閣は之れが特許を拒み次きの自由黨內閣に於て殖民大臣グレンヴィル卿の斡旋により始めて之れを特許するの前例を開けり當時卿は議院に臨み特許の必要を說き若し之れを與ふるにあらずむば政府自から該地方の主權を握るか然らざれば之れを競爭國の手に委するか二者其一を撰ばざるべからず然れども是れ甚だ拙策なるべしと云へり

北ボルネオ會社は特許を得たるの後に於て其國際法上の地位に於て聊か不明の點を招致せり彼のグレンヴィル卿は單に特許の附與は必らずしも英國に取りて主權の取得は元より保護地帶の設定を意味するものにあらずと雖も臣民の領土獲得は其所屬國家若くば主權の增添と見做さるゝが故に英國政府は一千八百十八年會社の領土幷にサラワック及びブルネイを一括して茲に北ボルネオ全部に對する保護權の宣言をなし始めて之を決定したり而して北ボルネオ會社の特色と認むべき點は當時尙ほ英國權威の毫も行われざる地域に活

勵せると他より既に完全なる主權を獲たるの點に在りて英國政府の特許は單に之れを確認したるに過ぎず素より英國政府は會社の行爲に關し勢責任を負はざるを得ざるを以て會社をして一定の行政上の監督に服せしむると同時に住民に對して一定の義務を負わしめたり

英國南亞會社は偉人セシル、ローヅの賜なり其着手より財政の確立並に其が雄飛に至る迄盡く是れ氏の力に俟たざるはなし會社の始めて其事業を開始するや現今其領有する所の地域は尚は未だ歐洲諸國の政府幷に國民によりて十分其價値を認められざりしと雖も該地帶の大部を占むるマタベルランド及びマショナランドは業に既に獨逸及び葡萄牙の窺ふ所となれり茲に於てかローヅは彼等の機先を制して同地の君主たるローベングラを說き英國の保護條約を結ばしめ他國と外交を持することなきを誓わしめ同時に鑛山採掘權を英國資本家の團體に讓與せしめたり

一千八百八十九年セシル、ローヅは英國南亞會社を組織し其富源を開發し法律秩序を確立するの目的を以て英國政府の特許を得たり翌年彼は海岬殖民地の

總理大臣となれるの故を以て會社は事業の經營上非常の便宜を得るに至りぬ斯くて五年を出でずして鐵道は既に杜國北脊の地帶に達し更らに良好の車道は其內部に開かれ城砦と殖民地は到る所に建設せられ其電信の如きは會社所領の最遠隔地に及べり彼の一千八百九十五年に於けるマタベル及びマショナ戰爭は會社勢力の膨脹を嫉み隣地の侵略を恐るゝの餘に出でたるものにして該戰爭終局の後會社はゼームソン博士の杜國攻擊により俄かに不信用を招き政府の嚴格なる監督を要求せしむるに至れり

英國政府が該會社に與へし特許の內容は多少の相違ありと雖も其大綱は殆むど之れを同ふせり彼の北ボルネオ會社に對する特許命令は其模範となりしものにしてローヤル、ニカー會社東亞弗利加會社の特許は全然之に準據せり只だ彼の南亞會社に對する特許命令に至りては前述の事件に鑑み多少實質の變更を見るに至りぬ

今此特許命令の大體を云へば會社は自己特有の旗旒を揭ぐるを得るも英國々籍は常に必らず之れを保留せざるべからず又會社は法律及び秩序の設定維持

に必要の命令を發し行政費支辨に必要の租稅を賦課し警察權を行使し所要の行政官司法官を任用することを得次ぎに本國政府の監督權に關しては會社は政府の許可なくして其特權の何物をも他に移轉することを得ず土人君主と會社との係爭事件に關しては本國政府之れが仲裁者たるべく會社の外交事務幷に土人に對する政策は本國政府の指揮に屬し知事の任命は殖民大臣の認可を受くべしとし尙ほ會社の行政權に對しては一般制限を加へ行政の實費支辨に必要なる關稅を賦課徵收するの外商業は凡て自由たるべく會社は其領域に於て奴隷賣買を制止すべし其人道に背戻せざる其他固有の法律習慣は大體に於て之れを尊重せざるべからず布敎事業は自由たるべきと同時に權力を以て土人の信仰に干涉することを得ずとせり

以上擧ぐる所は各特許會社共通の事項なるが獨り彼の英國南亞會社に對しては特別の制限あり一千八百九十六年のマタベルランドに關する樞密院令を以て行政長若くば知事に附するに四高官を以てする一諮問會を組織し凡そ重要事項は先づ其意見を聽き然る後ち之を決行せしめ會社所領の裁判所か法規の

據るべきものなき場合は喜望峯殖民地の法律に準據せしめたり又た一千八百九十六年の事件以來會社の行動に付き譴責の聲高かゝりしの故を以て一千八百九十八年南ローデシアに關する樞密院令を以て新たにローデシア駐紮官を設け本國政府を代表して會社の行政を監視せしめ知事諮問會の權限を擴張し別に立法會を設け移住者の選出にかゝる四人の委員を加へ會社の軍隊は南亞に關する英國高等委員會の指揮に屬せしめたり此等の規定は直接行政の發端をなすものにして當時既に移住民の代表者をして立法に參與せしめたるが如きは大に趣味ある所なり

此等の英國特許會社が國家の權威を發輝せしむる上に於て如何に偉大の效果ありしやは殆むど之れを形容するの辭なし政府は自から進むで之を占領するの施設なきの秋に際し決然起つて其衝に當り而かも機敏に自他國民の野心畫策を破り以て能く之を英國主權の下に收むることを得たるものは實に此等の特許會社なり例へばローヤル、ナイジャー會社の建設者サー、ジョージ、ダウブマン、ゴルデーは一千八百八十五年伯林會議に列席中獨逸探險家が土着諸君主と

條約締結の目的を以て將に上ナイジャーに發向せんとするを探知し直ちにジョセフ、ソンブソン氏に使命を含めて機先を制すべく急行せしめたり而して獨逸密使のナイジャー領に達するや焉んぞ知らむソムブソン氏の既に諸君主と完全なる條約を締了して意氣揚々歸來するに會せんとは而して更らに之れより先き佛國商人のナイジャー沿岸に活動せる者ありて爲めに激しき競爭を見たるもサー、ジョージ、ゴルジーの外交的手腕により彼等の行動を緊縮せしめたり又た英國東亞弗利加會社の初めて内地經營に着手するや獨逸利益の代表者たるペーテルス博士は既に其好望なる地方に於て政治的關係を作らんとしつゝありし耳ならずウガンダに於ては羅馬舊教傳道の影響により民心甚だしく佛國に傾きつゝありき斯くの如く外國勢力と相ひ爭へる地域は曾に其面積の廣大にして天然の財源に富める耳ならず頗る商業の要地に當たれり今諸會社の英國に增添せる領土を擧ぐれば概ね下の如し

ロー、ヤル、ナイジャー會社　五〇〇、〇〇〇方哩

東亞弗利加會社　七〇〇、〇〇〇

南亞會社　五〇〇、〇〇〇

而して最近二十五年間に於ける英領亞弗利加の增大は約二百五十萬方哩とすれば實に其三分の二以上は特許會社の經營に出でたるを知るに足らむ驚くべき此等の成蹟は其廣表に比例し非常の速度と而かも些少の經費とを以て之を獲たりロー、ヤル、ナイジャト會社が其保護地帶をソコト諸地方に擴張せるは實にソンブソン氏が六ケ月内の事業にしてメトフキングよりサリスブリに至る四哩の道路は一ケ年以内の短日月間に其工事を了し南亞會社が僅々五ケ年の間に其所領全體を通じて實業的幷に政治的生活の組織を建立することを得たる東亞弗利加會社が其大事業を六ケ年間に終了し又たロー、ヤル、ナイジャー會社が危險にして且つ困難なる地方に於て英國々權を確立するに要せる歲月とても尙は僅かに十四星霜を出でざるなり

次ぎに斯かる大々的行動の經費の低廉なりしことも亦た敢て其進行の迅速なりしに劣らず何れの會社も曾て其事業の經營の爲めに政府の補助金を求め若くば之れを受けたることと勘なく其財源としては一に株金幷に其收益當初數年

間は充分なる收益を期すべからざりしや明かなり)に依頼し而かも會社の事業は頗る經濟的に處置せられたり例へば東亞弗利加會社の全領土幷に其所有物一切は一千八百九十四年僅かに二百五十萬圓を以て政府に引き渡され其中二百萬圓はサンデバルの君主をして之れを負擔(彼に對する或る權利讓與の結果)せしめたるが故に結局此貴重なる土地に對し英國政府の實際に支出せし金額は僅々五十萬圓に過ぎず又たローヤル、ナイジャー會社は其領土財產其他一切の權利を擧げて八百六十五萬圓を以て政府に移轉せり

南亞會社の事業も亦た頗る經濟的にして最初五ヶ年間に於ける凡ての施設經營卽ち道路及び城砦の開通、建設、警察幷に行政の確立等に要せし一切の經費は壹千萬圓を出づること僅少なり而して一千八百九十三年に於ける對ローベングラ戰爭の費用を合して僅かに百十萬圓に過ぎず抑も此等の會社は一面には新たに一國を建立するの經費を要し一面には何等の補助金(補助金を受けしむとあるも至りて少額なり)をも受けたるにあらざるを以て株主に對し高率の配當をなし能わざりしは元より當然のことにして諸會社中獨り盛んに商業を營

めるローセル、ナイジャー會社は多年六分の配當をなすことを得たるも北ボルネオ會社は僅に一分の配當をなし得たるに過ぎず若し夫れ他の二會社に至つては何等の配當をなすこと能はずして止めり東亞弗利加會社の社長サー、ウィリアム、マックキンノンは之に對して曰く株主は須らく其配當を慈善事業に投じたるものと覺悟すべしと

斯くの如く株主の投資に對して直接金錢上の報償なきに拘らず尙ほ這個の會社は其資本を得るに苦しまず卽ち英國南亞會社の一部株式の如きは優に額面以上の發行を見たり是れ固より投資者が冒險事業の財政的成效を信ずるの念慮を生ずるを雖も而かも決して此外に金錢以外の原因の存することを疑う能わざるなり而して當時英國資本家の多數は帝國膨脹の道路に於ける此等諸會社の株主たることを以て一種の名譽となし其會社と屢時に大株主の多數が新地方の工業的發達に關し資本利用の特權若くは機會を得るや亦た其原因の無きにあらざるなり

何れの會社も利益配當の目的を以て租稅權の行使を許されたりしが故に其

ルローズ氏は一策を案出し新領土の採礦權を私人若くば私法人に讓與し其賣上高の五割を納入し以て之れを配當に充つることゝせり然れども之れに對する世人の非難は左の理由を以て起れり曰くロージアナに於ける土地並に工業的利益は實際上殆ど全く私法人に讓與(永久的に)せられて殖民の誘引たる所謂機會の自由同一を甚しく沒了せるの恐れありと

國際コンゴー協會の起原は一千八百七十六年暗黑大陸の探見及び開拓の目的を以て組織せられたる國際亞弗利加協會に在り一千八百七十九年同協會の白耳義部は國際コンゴー協會の名稱を以て國王レオボルド指導の下に彼のヘンリー・スタンレー氏を招聘し土着君主と保護條約を締結し並に根據地を設定するの目的を以てコンゴー河を遡らしめたり越へて一千八百八十五年伯林會議の會期に際し協會の主權は列國との各別條約によりて承認せられコンゴー獨立國として其境界を劃定せり一千八百九十年諸獨立國と白耳義國との間に形式的條約締結せられ十年以上の期間の後前者の後者に合併せらるべきことを定めたるも未だ白耳義が其運びをなすに至らざるを以て諸獨立國は尙固有の中

央政府を有し必律悉府に在りて外務財務及び內務の各省を有す其殖民地行政は大體に於て成效を見るべく其秩序確立し交通機關具備し白耳義資本の放下機會も亦た大に開け着々相當の利益を現わせり只彼のコンゴー國に於ける官吏の土人待遇法に至つては不幸にして其歷史を汚せしと一つにして足らず獨逸人が其殖民的活動の初期に於て組織したる諸會社は獨力を以て政治的領域の建設に貢獻せしこと英國の如く大ならず南亞弗利加會社は其行動を殖民の純然たる經濟的方面に限局し獨逸東亞弗利加會社は土人の初度の反抗に辟易して一千八百九十年其統治を斷念しニユーギニア會社は更らに一千八百十五年より一千八百九十九年に至る迄ニユーギニアに於ける施政を專らにせしも後年遂に其行政權を放棄せり蓋し其行政たるや多くの批難を蒙むれる所にして事大小となく一に在獨逸本部の命令に依つて之を處理し毫も地方特別の必要を斟酌することをなさず勞働問題に關して殊に然りとの批難多し如上の會社は今も尙ほ存在せりと雖も漢堡のヤルート會社のマーシヤル群島の行政に成效したるの外其の活動は單に商工業的範圍に限られ敢て政治行政の方

面に亙ることなし

獨逸の殖民會社は大體に於て自から統治の制度を組織し本國政府をして直接行政の機關を設置するの煩を避けしむるの效あるにと雖も個人が又新地方面に於ける獨逸權力の擴張に與つて力ありしや又た大なりフオン、ウキスマンを始めペーテルス及びナハチガルの兩博士幷にオット、プキンシユ等の如き代表者は種々の策畧を案出して熱心に土着君主と政治的關係を設定するに努め由つて以て獨逸政府をして廣大なる地域に對し政治的支配權を擴張することを得せしめたり

亞弗利加に於ける葡萄牙の所領は最近に至つて興味ある歷史を繰り返せり嘗て一千六百四十九年和蘭西印度會社がブラジールに於ける葡萄牙領を威迫するや葡國政府は從來の國家專營政策を棄て對手國の手段を襲踏して私設の葡國ブラジール會社に對して特許を與へたり之れと同じく一千八百九十年英國南亞會社の活動を視むるや忽ち南東亞弗利加に於ける葡國領に危險を及ぼせるを以てか葡國政府は英國會社の活動に對抗せしめむが爲め一千八百九十一年二個の私立會社則ちニヤッサー會社及びモザンビック會社に特許を與へザムベジ河の流域一圓を以て其活動區域となせりモザンビック會社の活動がベイラを以て中心となせしは當時ベイラは英國人の最も垂涎する所にして實にローデシア商業の門戶とも云ふべくニヤッサー會社の活動地は其名の示すが如くニヤッサーランドにして當時英國南亞會社によりて將に併呑せられむとしたる樞要の地區なればなり

葡國會社は英國の模範に倣ひて組織されしと雖も少しく其の趣を異にせり即ち司法官は政府之れを任命して會社の自由に委せず又た監督官を置きて會社の行政を監視せしむるの外如何なる關係に於ても完全なる政治上幷びに工業上の支配權を會社に與へ一般人道的義務を負擔せしめ兼て土人の爲めに小學教育の設備をなすの責に任ぜしめたり而して此等會社の株券は多くは佛英幷に獨逸人の手に在りしと雖も會社の國籍は尙ほ特許命令によりて維持せられ吏員の撰定に關して殊に然りとす而して英葡兩會社の間に於ては幾多の衝突を生じベイラより內地に到る通路の權に關し英國政府が南亞會社の極端なる

手段を抑制したると共に葡國會社は遂に能く貴重の地域を葡萄牙政府の爲めに保存することを得たり

今や吾人は近世大殖民會社の特質を概論し以て之を前代の殖民會社に比較し分別するを得るの地位に在り

抑も前代に於ける殖民會社は主として商業的性質を有し其政治的特權を持するに至りしは實に偶然的發生に過ぎざるも近代の殖民會社は卽ち然らず其主たる目的は政治上に在ると同時に本國政府は之れを嚴格なる監督の下に置きたり而して近代の殖民會社は毫も商業上獨占の權を有せず且つ何等商業的經營に從ひしことなくして其活動の經濟的方面は工業的開拓、礦山、森林及び耕地の利用に在り蓋し殖民政策上工業的開拓と政治的手段の利用とを重視するの傾向を有すればなり若し夫れ國家にして直接此等の手段を弄せんか啻に變通の妙を缺き地方的情況に適合するの難きのみならず又た失費多くして而かも敏活を缺くの弊あればなり然るに此等の缺點は殖民地の創始時代に於て特許會社を利用し其衝に當らしむるあれば優に之を償ふことを得れ共殖民事業は

其性質の恒久的なると共に個人の經營に放任するが如きは決して策の宜敷を得たるものにあらず而かも殖民は元來國家の保護を必要とするものにして國家を離れて存在すべき性質のものにあらざるべく理論上實際上共に國家事業となすべきなり

第二節　國家的殖民方法

以上論述せし所は端を個人的企業に發せし殖民の方法にして國家は直接之に關係することなく只だ個人たる商人又は移住者の保護の爲め漸次彼等に從つて新地域に到り以て政治的支配權を掌握することあるのみ卽ち第四章に於て論述せる諸種の原因は專ら個人を刺戟し以て企業をなさしむるものにして其當初に於ては國家は只だ僅かに之れが補助者たるに過ぎざりしなり

然るに輓近殖民的企業の全般に亙ると共に茲に一大根本的變化を實現するに至れり歐洲諸國の經濟的能力は勃然として興り來り舊世界の市場は最早其製造品を吸收すること能わず其の企業の機會は最早其資本を滿足せしむるに足

らず加之商業と資本は漸次國家的となり國家に向つて保護を求め國權の扶殖と相ひ俟つて活動し國家を以て其の綜合なりとするの念を深からしめぬ此事實は經濟力の發展に空前の活氣を與へ國家をして國民の經濟的利益の擁護者として國民活動の地理的範圍を擴張せんが爲めには如何なる困難をも敢て之を辭せざらしむるに至れり

前世紀の末葉に於て國家的殖民運動の漸く行われんとするや歐洲列國は殆むど神經的に無主の地を獲得せんことを努め彼の從來地圖上に全然白地をなせる廣大なる亞弗利加內地は未だ十年ならずして歐洲列國に分割され了んぬ此土地占領の活動は更らに拋棄して顧みざりし大洋洲に及び彈丸黑子の珊瑚島と雖も之を得ずむばやまず而かも最近に在りては人口稠密なる東亞細亞も亦た彼等列國の虎視する所となり危大なる支那帝國は將に彼等將來の好餌食たらむとせり

直接政治的膨脹の現代に於ては舊來の方法は頗る不確實にして且つ迂遠極まるものと見做さるゝに至れり乃ち個人の活動に依りて國家の勢力を發展せし

めたる個人的殖民方法は既に第二の手段に屬し歐洲列國は最早殖民的膨脹の自然發達に依頼することをなさず共に進むで無所屬地域の人爲的分割を行ひ未だ何等の經濟的活動をすら見ざる地域に改良的支配權を樹立するに至れり而して此世界分割の爲めに用いられたる方法は(一)征服(二)占領(三)勢力範圍若くば保護地域を設定するの條約(四)經濟的獨立を失へる邦國の財政權の掌握なり」

征服の方法はシーザー以降何等の變更あるなく野蠻人及び未開種族の征討は彼等を鎭壓し國境の安寧を圖るを以て一般の口實となすこと昔に異ならず露國の中央亞細亞を蠶蝕するや全く此方法に依り騷然たる國境種族は露國をして絕へず問罪の師を起し續て之を併呑するの口實を得せしめたり佛國も亦た國境問題を口實としてチユニスに侵入し北東亞弗利加の全線に沿ふて國權を擴張することを得たり斯くの如く境上問題は殖民政策上實に常に最も錯雜なるものにして英國が印度の行政上大なる困難を感じたるも亦た境上部族殊に露國境界方面に於ける境上部族を如何に處置すべきやの問題に在りしなり法律上未だ何國にも屬せざる地域は之れを自國主權の下に置くことを得べき

は彼の私法上に於ける先占と多く異なるあるなし然れども嚴格なる國際法よ
り之を觀れば未占有地と稱すべきものは何等政治的團結を有せざる蠻人居住
の地域に限るものにして此種の地域は何國と雖も之を占領することを得べし
而して國際團體の一員たる國家は勿論何等の外交的交通を有せざる未開の邦
國と雖も苟くも高等なる政治的組織を有するもの丶領域は之れを無所屬未占
領の地と見做さず從つて征服又は割讓條約に據るにあらずむば之れを獲得す
るを得ざるものとす而かも此等未開國の領土は文明國に依りて恰かも無所屬
地なるかの如く見做されたること尠からず
占領に關する法理の一定するに至りしは較近のことにして從前に在りては殆
むど如何なる符合的事實と雖も有效なる權利の根據と見做されたり例へば英
國々王が北米の領有を主張せる根據はセバスチヤン、カボットの發見即ち彼が
航海中單に船上より北米の陸影を認めたりと云ふに在り又た西班牙人が南米
を獲得したる方法も始むど之と同じく西班牙國旗の揭揚或は嚴格なる宣言の
如き恰かも符合的占領に過ぎず而して其最も著しき實例は法王アレキサンド

ル六世が一千四百九十四年三月四日の命令を以て未占領の西半球全部を擧げ
て之をフエルヂナンド及びイサベラに交付したること之なり
殖民地擴張の競爭開始さるゝや歐洲諸國は極端なる符合的占領を主張し海岸
に一根據地を設くると同時に背面陸地に對する權利を主張せり若し夫れ列國
にして斯かる主張をなし互に讓歩する所なくんば如何なる衝突を惹起するや
計り知る可らず此を以て彼等は更に嚴格なる規則を實行せむことに一致し一
千八百八十五年伯林會議に於て採用されたる所謂コンゴー、アクト(Kongo Act)
なるものに依りて占領法を一定するに至れり此條約の規定によれば新たに土
地を占領し若くは保護地域を設置したる時は之れを凡ての殖民國に通知する
を要す國旗の揭揚又は主權の宣言等の如き符合的占領は以て有效なる權利の
根據となすに足らず換言すれば有效なる占領とは物質的占領にして其全域を
通じて統御を固くし法律及び秩序を維持するものたらざるべからずとせり然
れども後の要件は單に人的關係に止まり直接物的關係を含まざる保護地域に
は適用すべき性質のものにあらず

コンゴー、アクトの協定は列國各自の殖民的野心に一定の制限を加へたるものと云ふべし蓋し當時の形勢より察すれば列國間の領土擴張熱を幾分か法律的に緩和し以て列國間に一定の權衡を維持するにあらずむば世界の平和に如何の危險を及ぼすべきや未だ知るべからざるものあり加ふるに彼の經濟的排外主義漸く盛んならんとするに至れるを以て列國は其共同行爲の勢力に依りて少なくとも若干の有望なる商業及び放資地を一般に開放せしめむことを計りたるに在ればなり卽ち伯林のコンゴー會議に於ては門戸開放主義に關して重要なる說明を與へ先づ之をコンゴー地帶に適用したり而して此地帶內に於ては商業は完全なる自由を保護せられ其行政費を支拂ふの外か又た何等の租稅を負擔することなく河川、鐵道、道路及び交通も亦た其自由を拘束せられ或は各別的負擔に從わしめらるゝことなし此コンゴー自由商業地帶は中央亞弗利加全部を抱括して海岸より海岸に亙りコンゴー自由國佛領コンゴー及び英領東亞の大部分獨領東亞の全部ローデシア葡領西亞の北部幷に其他若干の小地域は凡て其中に在り而して列國は更らに同協約に於てコンゴー地帶に屬する各

自の所領を奴隷市場として使用し或は奴隷隊商をして此土を通過せしめざることを認定せり

列國協定の一著例たる一千八百九十年の必律悉會議に於ては更に其共同の利益に關する政策を議定しコンゴー地方に於て課し得べき輸入稅率の最高限度を一割と定め又奴隷賣買の禁遏に關し詳細の規定を設けたり其他一千九百年に締結せられたる列國間の一條約は中央幷に南部亞弗利加の全域を擧げて(南方は遠くオレンヂ河に達す)一大獸類保護地域を設け彼の危險なる猛獸を除くの外はあらゆる獸類を保護することとなれり斯の如きの協定は列國間に於ける領土的關係を平和の間に處理する上に於て最も有力なる手段となり亞弗利加大陸の全部幷に大洋洲の諸島は國際間の條約に依りて樽俎の間に分配せられ未だ嘗て之を干戈に訴へたるとなし(合衆國の韋律賓獲得は不豫期の結果なり)彼の埃及が歐洲霸權の下に置かれたるが如きは全く此關係による者にして假令現今の埃及は殆ど英國の勢力の下に立つと雖も而かも埃及行政の重要なる二三事項は尙は國際的性質を帶べり國債整理委員若くば混合裁判所等の如

き蓋し其好適例なり又コンゴー自由國は實際上最早白耳義殖民地と異なるなきも其存在を保つ所以は亦た實に條約に因ればなり而して此列國協定の精神の最も能く發輝せられたるは彼の北清事變の際なりとす因是觀之其今日列國が各自其國民的勢力の擴張を旨とし之が遂行に日も尚ほ足らざるが如しと雖も而かも列國共同の利益の危急に際しては尚ほ暫らく我意を制するの止むなきあり茲に於てか相互間に一定の權衡を維持し以て各々其例を得むとせり近世に於ける殖民的膨脹の政治的制度中最も重要なるは勢力範圍及び保護地域の二者にして共に是れ條約に依りて成立するものなれば其淵源は少なくとも形式上に於て國際法に在りと云ふべし抑も勢力範圍なる語は其意義甚だ茫漠にして廣狹一ならず種々異なる關係を示すに均しく此名稱を以てせり然れども又た此等凡ての場合に通じて一定の特質を見出すことを得卽ち勢力範圍は物質的占有又は統治機關を含まざるの點に於て占領と異なる而して勢力範圍てふ觀念の主なる素因は實に消極的にして其一國の爲めに存する勢力範圍に於ては他國は何等の政治的權勢を振ふことを得ずして全然之を其一國の自

由行動に委せざるべからず去れば他の方面より之を觀て勢力範圍とは一定の地域にして一國が隣接殖民地との條約により獨り專ら之に政治的勢力を加へ保護條約を結び工業的特權を得又た遂には全然之れを自國の直接支配下に置くことを得るものなりと云ひ得べし而かも勢力範圍の主たる觀念は他國の政治的行動を排斥し獨り專ら行動の自由を保有するの點に在りて敢て權利の積極的行使と相ひ關する所あらざるなり

從來勢力範圍の原則の最も重要なる適用を見たるは亞弗利加の分割に若くものなけむ當初列國にして苟くも海岸に一片の地を有するものは獨り背面內地の打開を專らにせんことを主張し又た之を其領土に加へむことを欲したり然るに彼のコンゴー條約の結果は斯かる無法の主張を維持すること能はずして茲に列國は國際條約によりて適宜の分配を行ひ以て占領に要する費用を免かれ兼て境界紛爭の危險を避けんとするに至りぬ斯くて亞弗利加大陸はペンと紙とを以て列國間に分割せられ而かも列國は其現に其權力を行使して同化せる地域よりも遙かに廣大なる分配を享けたり然りと雖も之等の分割的條約は

普通關係兩國間に締結されたる者にして單に當事兩國間に於てのみ勢力範圍を設定界限したるに止まり決して第三國の權利を拘束するの效力あるものにあらず換言すれば實際の占領に於けるが如く世界何れの邦國に對しても對抗することを得べき權利を生ずるものにあらずして單に一國が他國に向ひ一定の地域に於て政治的行動幷に經濟的特權を放棄することを約するに過ぎず而して此等幾多の條約中最も重要なるものを擧ぐれば則ち左の如し

第一、英獨協約

(イ) 南亞弗利加に關する一千八百八十五年の條約

(ロ) 太平洋方面に於ける兩國の利益範圍を界限したる一千八百八十六年四月の條約

(ハ) カメルンの境界を協定したる一千八百八十六年八月の條約

(ニ) 東亞弗利加の勢力範圍の境界を確定しヴィッツー會長國幷にサンジバルに於ける英國の保護權を承認したる一千八百九十年七月一日の條約

(ホ) 一千八百九十八年のデラゴア灣協約

第二、獨佛協約

(イ) トーゴー及びカメルン境界決定の一千八百八十五年十二月四日の條約

(ロ) 湖水チャド地方に於ける境界決定の一千八百九十四年三月の條約

第三、英佛協約

(イ) アルゼリヤ、ニガー、ソコドー及びマダガスカルに關する一千八百九十年の協約

(ロ) ニガー地方に關する一千八百九十八年六月の條約

(ハ) 東スーダン境界劃定の一千八百九十九年の條約

亞細亞に於て最も重要なる勢力範圍は暹羅に於ける英佛兩國の勢力範圍にして這は實に一千八百九十六年の協商によりて設定せられたり而して此條約を除外例とし亞細亞に於て所謂勢力範圍と稱すべきものは意義上大に嚴格と明瞭とを缺き必ずしも條約上の協定を以てそが根據となすものにあらず卽ち一國自から之を稱すと雖も尙ほ未だ國際の條約を以て他國の承認する所とならず彼の英國が南部波斯幷にコーウェットよりバンダー、アッバス及びムスカット

に至る波斯灣全岸を要求し露國はテヘラン以北の地を以て自國の勢力範圍なりと主張すと雖も而かも兩國間に於ては何等境界條約の締結せられたるにあらずして又た他國の主張を積極的に排斥すべき力を有するにあらず而して露國の主張は隱密の裡に成熟し來り漸次變則的保護地域を形成せむとし小亞細亞及びシリヤに於ても亦た漸次勢力範圍の端緒を開かむとするの傾向ありと雖も今尚は純然たる試驗時代に屬し未だ獨立的勢力範圍として一定の地域を主張するに至らず

歐洲列國が支那帝國の一定の地方より各々他を排擠せむことを努めつゝあるは彼の所謂變則的勢力範圍に關しては輓近之を論ずる者尠しとせず抑も英國獨逸露國及び日本等は相ひ共に清國政府に向つて所謂不割讓協約なるものを締結し即ち一定の地域は之れを自國以外の列國に割讓することなかるべきを約せり例へば英清協約に於ては清國政府は楊子江流域の如何なる部分たりとも之れを他國に割讓することなかるべく若し割讓することありとすれば必らず英國に向つて割讓せらるべきを約したるが如き或は清國は英佛兩國に對して

各別に雲南省を他國に割讓せざるべきを約したるが如し然れども是等の所謂勢力範圍なるものゝ境界は其之れを主張するの邦國に於ても尙は大に漠然たるものありて存す卽ち支那に於ける勢力範圍なるものゝ普通の勢力範圍と異なる理由の主要點は主張者たる諸國の間に何等條約の成立せるものなく唯だ個々の主張國と清國政府との間に於て之れを見るあるのみ但し一二の例外ときにあらず例へば山東省に於ける英獨協約並に北部支那の鐵道に關する英露默契の如し然れども斯くの如きは眞個の勢力範圍を成立せしむるに足るべき理由なりと解すべからず

亦た南米に於ける合衆國の勢力範圍なるものを見るも是れ又た大に其性質を異にするものあり合衆國は亞米利加に於ける羅典共和國より歐洲の政治的勢力を排斥せんことを企て而かも其主張の實限されたるものありと雖も斯れ敢て條約上の根據あるにあらずして唯だ自國の聲言せる政策を實現したるに外ならず加之其歐洲勢力排斥の目的たるや寧ろ在米羅典共和國をして自然の發達を遂げしむるに在りて敢て合衆國の政治的勢力を扶殖せんとするものにあ

らずされば合衆國の南米隣邦に對する政治的關係は其範圍に於て又た其目的に於て玆に所謂勢力範圍てふものゝ關係とは全然其の性質を異にするものなり

一國が既に一定の地域を以て其勢力範圍となし他國をして之れに政治的勢力を加ふるの機會なからしむるに於ては更らに進んで自國の權勢を扶殖し增進せむことを企つるは事理上亦た洵に當然なりと云わざるべからず若し夫れ其方法の如きは或は占領により合併により又た或は保護地域の設定によるありかくて諸國が消極的勢力範圍より積極的直接支配に進む過程として普通先づ保護地域を設定するを例とせり

殖民的保護地域は國際法上の保護國とは其の趣を異にす抑も國際法上の保護國とは先づ兩個の國家あることを前提とするものにして二者强弱を異にし相互間の條約により弱者は强者の保護の下に立ち外交上其指導を受くるありとも雖も內政の維持獨立に關しては何等の干渉を受けざるものを云ふ而して兩國の關係は人的性質を有するに止まり加護國は之に對して直接領土主權を行使

することなく保護の授受は全然條約上の關係にして內政に關しては何等法律的服從を意味せず從つて之れを律するに憲法上の原則を以てすること能わざるものとす然り而して此觀念の殖民政策上に應用せらるゝや諸種の點に於て意義を變じ所謂殖民的保護地域てふものは加護誘掖の制度たる國際法上の保護國とは全然實質を異にするに至れり

既に勢力範圍と謂ふ必らずや其中に保護地域てふ觀念の潛めるあるを知らざるべからず若し夫れ一國が一定の地域を以て自國の勢力範圍となし他國との外交的幷に政治的關係を排斥する以上は外部よりの攻擊に對して其領土と人民とを保護するの覺悟なかるべからざるや勿論其內部の狀態に關しても亦た一定の程度迄は進んで其責任を負わざるべからず從つて內政上に於ける一定の干涉は蓋し到底避くべからざることに屬す而して勢力國(勢力範圍を把持するの國)の意思は或は可成的速かに其地域を直接支配の下に立たしむるにあらん此場合に於ては保護地域は一時的制度として設定せらるゝと雖も久しからずして或は全然直接行政の行はるゝことゝならむ時に又た勢力國は舊來の地

方制度を存續せしむるを可とし從つて保護地域を以て永久的制度となすことも亦らむ左れば均しく保護地域と云ふと雖も或は自主權の比較的大なるものあり或は殆ど純然たる合併に異ならざるものありて其種類亦た決して一なりとせず然り而して既に保護地域の存在する以上は必らずや之れに伴ふ一定の狀態若くば要件なかるべからず今之れを左に摘記せむ

(一)　兎に角固有の自主權を存續し地方的制度幷に慣習は其干渉を受くることなし

(二)　保護地域は單に加護國とのみ政治的關係を有し宣戰媾和の權を有せず

(三)　加護國政治的代表者を駐紮せしめ以て其政府に人的勢力を及ぼすに便にす

(四)　固有の法律幷に慣習は依然行わるゝを原則とするも加護國絕對の必要には讓歩せざるべからず

而して加護國は其保護地域に於ける大なる失政望なき國債若くば非道野蠻の行爲に對して責任を負わざるべからず概言すれば國際法は保護地域を以て加

護國の一部と見做し其地域內に於ける狀態其他に關し加護國をして其責任を辭せざらしめ而かも其地方的法規に關しては保護地域と加護國の領土とは全然之れを區別し其法制に從ひ若くば直接立法權に服すべきものにあらずと認めらるゝを例とす

蠻族在住地方に於ける保護地域は一般に一時的のものにして之等は單に合併の覆面たるに過ぎず彼の中央亞弗利加の保護地域の如きは殆ど此種類に屬するものにして會長等は條約書の內容に關し了知する所なくして之れに調印したる者甚だ多し斯くてスタンレー氏しベーテルス博士は東亞弗利加の旅行中所謂聖約を締結し約五萬平方哩の地は之れに依つて獨乙の保護地域として認められ更らに東亞弗利加ローデシヤ及びニガー流域に於ける英國特許會社の代表者は土人の會長をして幾多の協約に調印せしめたり就中ローベングラをして英國保護の下に置かしめたるが如きは最も顯著なるものとす而して此等の協約は殆むど主權全部の讓渡を意味するが如き字句を有すること甚だ多し今其一例としてワンヤツサ會長の調

印せる協約書を見るに實に次ぎの如き個條あり曰く「右に境界を示したる凡ての我國凡ての主權幷に其他凡ての主張を擧げて絕對に何等の留保する所なく自今永久に之れを最も仁慈なる女皇陛下に讓與すること」云々蓋し此種の條約は加護國が速かに直接行政を行わんとするの意思を表示せしものにして彼の一層妥當なるローベングラとの協約の如きに於ても尙ほ新舊權力の代謝は甚だ急速に行わるゝこと多し左れば一般に保護地域てふものは亞弗利加の大部分に於て殖民的政治の永久的制度たるに至るが如きことなかるべし更らに佛國の如きは比較的高き文明を有する種族に對しても亦た保護を以て單に一時的若くば經過的制度となし事情の許す限りは速かに佛國の法律及び制度を輸入し之を直接行政の下に置んことを期するものなり然れども將來佛人は彼等傳來の極端なる同化政略を少くも東京及びチユニスに對して放棄することあるべきは之れを想像し得ざるにあらず又た現在佛國の公法學者幷に政治家の間に多少かゝる傾向なきにしもあらず然れども方今は尙ほ同化の觀念盛んにして佛國行政官吏は斯點に關し何等の疑義をすら有せざるものゝ如

し

佛國配下の保護地域中國際法上の所謂保護國に最も近きものはチユニスなり佛國はチユニスをして固有の自主權を得せしめたりと雖も彼の駐劄官により て其制度文物を佛國化せしむることを得たり又た土人の長老を遇するに一定の禮を以てしたればアルギールに於けるが如き行政上の障害を免るゝ事を得たり而して佛國はチユニスの事務を以て殖民省に屬せしめず其關係の准國際的性質を有する點より之れを外務省の主管事務とせり

佛國はその北亞弗利加領アルゼリヤ及びチユニスに於けるが如く直接行政幷に保護地域の兩手段を併用せり印度支那に於ける佛國は交趾支那カムボヂヤ安南及び東京の四大部より成り之れを一括して殖民省に隷屬せる一總督の下に統一せり此事實は卽ち印度支那の全部を殖民地として處理する傾向と意思を示すものにして今尙ほ直接行政の下に置かるゝものは交趾支那のみ其他は凡て單に保護地域と認めらる而して此地方に於ては文明及び社會生活の既に大に進歩せるものあり安南の制度文物は範を

支那に取りて單純にして平和的なる思想は人民の生活を高尚ならしめ有司は其性格の高きと公益に忠實なるとの故を以て衆望の歸する所となり君民其堵に安んじ和氣滿々たるの有樣なるに反して交趾支那に在りては之等の美はしき社會の狀態は佛人が本國の制度文物の急激なる輸入の爲めに全然破壞せられ有司又た其信用と勢力とを持續する能わざるに至れり要する此地方に於ける佛國政府の殖民地行政は其固有の社會組織に對する專擅なる干涉の大に戒めざるべからざるを示せり

交趾支那に隣接するカムボヂヤ王國は一千八百六十三年保護條約の下に遂に佛國の占領する所となりぬ其當初の條約によるに佛國政府は王國內の秩序と國權とを維持し外敵の襲擊に對しては之を保護し更らに徵稅を助け海運の便を計り其報酬として佛國貨物の無稅輸入羅馬舊敎の布敎幷に佛國政府の森林經營を承認せられたり

安南が佛國保護の下に立つに至りたるは安南國王が佛國代表者に謁見を與へたる一千八百八十四年の條約にあり爾來佛國の支配權は着々として政務の各

部に及び東京に於ても一千八百八十五年の交附條約以降又た同樣の結果を見るに至りぬ而して此兩保護地域に於ては從來慣行の政治を存置し行政官は地方行政區の有力家によりて學者中より選擧せられ天の命ずる最も信賴すべき指導者なりとして人民に尊重せられ時に往々佛國の駐劄官が內政上彼等と意見を異にするよりして彼等に向つて種々の命令を下し而かも彼等が多年の實驗上其命令の甚だ危險なるを案し之れを實行せざるを見て敵意の結果に出でたるものとなし恰かも交趾支那に於けるが如く舊制度の根底より覆さむとしたり然れども總督は依然彼等を信任し彼等の智力と責任とを以て一定の政治問題を解決せしめ常に大に好結果を獲たり

殖民的保護國若くは保護地域に關する最も趣味ある經驗は印度諸國に於て英國の既に經驗し今尙ほ經驗しつゝある所なり抑も印度に於ける保護地域の歷史は頓て英國の印度經營史にして玆には僅かに其梗概を略記するのみ

英國の印度に於けるやプラッシイの戰爭によりて初めて領土的帝國の基礎を確立することを得たり爾來五十餘年の久しき英國は努めて領土擴張の政策を避

け四周親善なる土人の獨立諸國を以て其護境の城砦たらしめぬ此時代はミントー卿執政の末年卽ち一千八百十三年にして英國知事は唯一のウエルズリー卿を除けば皆な等しく領土擴張問題を避けオードマインソール及びハイドラバッド等の隣邦と相互的保護條約を維持し此等隣邦の政治に關しては何等の干渉指導を試むることなく互に相救援して罔々敎徒及びマーラッタ種族の蜂起に備へんことを期しボーパル等諸國の請願ありしにも拘らず進んで保護條約の締結を肯ぜざりしなり然るに印度會社の實力漸次强大に赴くと共に有力者の意見は漸く消極的政策を離れ印度諸國の間に嚴然覇權を掌握せんとの野心を生じ政務委員は大に之れが爲めに動かされ茲に土着諸君主と保護條約を締結せむことを期し所謂補助的同盟(Subsidiary Alliance)若くば附屬的孤立(Subordinate Isolation)の政策を採用するに至れり此政策たるや四圍諸國をして印度政廳を以て其加護者と仰がしめ諸國相互間に於ては可能的弧立を保たしめむとし其外政に關しては之れが指導權を執ると雖も其內政に至りては何等の干涉を與へざるに在り然るに此政策は久しからずして當局者をして大々的合併の必要

を感ぜしめぬ是れ外寇の憂なきを得たる結果諸君主は忽ち放恣なる淫樂に耽り重斂暴政日を逐ふて甚だしく而かも之れに對して間接の責任を負へる印度政廳は茲に前後の處置として速かに彼等暴君暗主を廢黜するの外なきを懷ひ所謂闕所の法(Doctrine of laps)を適用して直接の後繼者なきときは斷然其領域を沒收せり而して此土人國の沒收合併が着々決行せられてオード國に及ぶや茲に一千八百五十七年彼の有名なる大暴動を惹起するに至りぬ

暴動の鎭壓せらるゝと共に英國は積年の實驗に徵し土人國に對して一新政策を樹て以て今日に及べり此政策たるや範を國際公法上の保護國に取りしものにして全然內政上の干涉を避くるの策は旣に失敗に終り然りと雖も全然之を合併するは又甚だ危險なるは旣に經驗せし所なるが故に一方に於ては各土人王國の疲弊を防ぎ他方に於ては其君主の猜忌を避けむが爲め彼等の地位と遺傳來の權利とを絕對に安全ならしめ暴政を以て其國を賊ふことなからしめむと欲し彼の一千八百五十八年の宣言に依り印度諸君主は英國保護の下に父祖の家國を完ふすべく其宗敎的幷に社會的制度は將來何等の干涉を受くるとな